

会長のページ 「公的国民皆保険制度」を守る	河野 雅行	3
日州医談 今を観る	金丸 吉昌	4
新 春 随 想 (その 2)		6
田尻 明彦, 竹中 晃司, 窪山 美穂, 坂田 師隣, 大森 史彦 柊山 了, 楠元 直, 平部 久彬, 満留 武宣, 日高 恵子 佐々木幸二, 米澤 勤, 大西 淳仁		
寄 稿 自賠責保険における諸問題	尾田 朋樹	16
エコー・リレー(474)	山内 正倫, 池之上 貴	18
メディアの目 子どもの貧困を取材して	池谷 孝司	22
宮崎大学医学部だより (機能制御学講座応用生理学分野)	中島 融一	23
ニューメンバー	國枝 良行	54
診療メモ 私の想いをつなぐノート (エンディングノート) について	伊東 芳郎	82

あなたできますか ? (平成 25 年度医師国家試験問題より)		19
宮崎県感染症発生動向		20
各都市医師会だより		24
各種委員会 (介護保険委員会・健康スポーツ医学委員会・健康教育委員会・ 医学賞選考委員会)		26
県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会		30
医師会立看護学校担当事連絡協議会		32
九州医師会連合会第 10 回臨時委員総会		34
九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会		36
第 11 回九州医師会連合会総会・医学会		38
日医インターネットニュースから		42
薬事情報センターだより (333) 新薬紹介 (その 75)		44
理 事 会 日 誌		45
県 医 の 動 き		51
追悼のことば		52
医師国保組合だより		54
会員の異動・変更報告		56
ベストセラー		57
ドクターバンク情報		59
行 事 予 定		63
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		67
あ と が き		86
~~~~~		
お知らせ 宮崎県医師会医療情報コーナー .....		28
県医師会在宅医療協議会入会のご案内 .....		31
女性医師メーリングリストのご案内 .....		35
宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ .....		50
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています .....		65
都市医師会への送付文書 .....		84

## 医 師 の 心 得

- 1 . 私たちは、皆さまの  
健康状態をよくお聞きします。
- 2 . 私たちは、皆さまに  
最善の医療を提供できるよう心がけます。
- 3 . 私たちは、皆さまに  
医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
- 4 . 私たちは、皆さまの  
「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
- 5 . 私たちは、皆さまの  
健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成 14 年 3 月 12 日制定)

〔表紙作品 書〕

### 鷺の句

「春浅き 水を渉るや 鷺一つ」

河東碧梧桐の俳句に出会い、数年前に延岡市美展に出品された山中正宣先生の白い鷺の写真が目には浮びました。

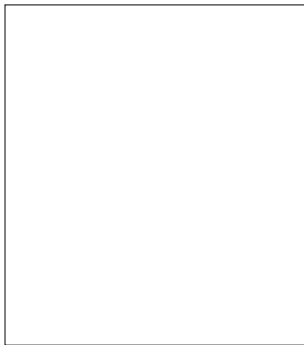
鷺の写真と並べてかざっていただけたらと思い筆をとりました。

今は引退された先生のお部屋にかざっていただいております。

延岡市 おか 岡 むら 村 ひろ 公 こ 子 (瑛翠)

## 会長のページ

## 「公的国民皆保険制度」を守る

かわ の まさ ゆき  
河 野 雅 行

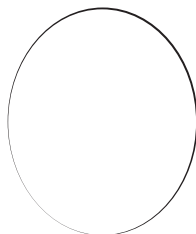
我が国は、世界でも冠たる長寿国となった。健康長寿が達成されたのを受けて、国民生活のレベルも昔年に比べれば雲泥の差がある。長寿を成し遂げた要因は医学・医療の進歩、食生活の改善や国民の健康に対する知識の向上等々、様々挙げられているが、最大の功労者は「公的国民皆保険制度」であることは否やはない。過去に社会保障が充分でなかった時代には、国民の健康度には悲惨なものがあつた。多くの文献・書簡・伝聞がそれらを伝え残している。その様な時代に先達が苦勞して作り上げたこの制度の効果

を今になり、我々は享受していることになる。後の世代にもこの制度は残すべきである。しかし、この貴重な制度が様々な力や理由により少しずつ侵襲されつつある。特に国の変遷する医療費予算から生ずる政策にも拠り、制度は弱体化の危機にある。政府は制度を守ると繰り返し述べている一方、財政的な現状では持続すること自体が困難であるとも述べている。如何なる形・程度の制度存続を考えているのか。小出しに出ている国の方針をまとめて推測すると、低負担・低福祉となる可能性が強い。公的保険と民間保険の組み合わせを考えているのであろうか。完全な補償は望むべくもないが、公的の部分が次第に薄まりつつある感を受ける。

国の興亡は健康を基とした国民の勤勉性と向学心によると申しても過言ではない。先達の遺産の食い繋ぎだけでは将来の展望は見えない。目先の事象のみで行動すれば将来の大計を誤りかねない。1,000兆円にも達する国の借金を返済しようとするれば、国民が長期間に渡り汗水を流して懸命に働かねばならない。基礎となるのが健康と、先達賢人の述べている学問である。国民が健康になれば国も豊かになる。即ち、国力向上に繋がる。国民の健康・生命を守るのは国の最大責務で、その役割を我々医師・医師会が担っているのであり、今こそ、「公的国民皆保険制度」を守るために立ち上がる時である。制度を守るべき立場として、医師が先頭に立つのは勿論で、我々はこの制度の素晴らしさを国に対して訴えると共に、広く国民に知らせる努力を怠ってはならない。高福祉を求めれば当然高負担が生じる。それとも「低負担低福祉」を受け入れるのか。当事者である国民が真剣に考えるべき問題である。しかし、このような当たり前の論理であれば政治は必要ない。「低負担高福祉」の実現を工夫するのが政治の責任であり醍醐味であるとも言える。昨年末の総選挙で予想通り与党が圧勝した。今なら政府が本気になれば何でも出来る。当に、財政状況の厳しい今こそ、100年の大計の元に「公的国民皆保険制度」を堅持していただきたい。

(平成 27年 1 月 26日)

## 日州医談



## 今を観る

常任理事 かね まる よし まさ  
金 丸 吉 昌

はじめに

医療崩壊が叫ばれ始めて10年が過ぎる。今、果たしてその流れは止まったのだろうか。個人的な捉え方かもしれないが、まだしっかり続いていると思う。しかしながら、全く改善されていないわけでもない。では地域医療の再興のためには何が更に必要なのだろうか。

今

国は莫大な借金を抱えている。また更に特別な仕掛けで財政運営がなされている。ある意味、現実を照らせば止むを得ないのかもしれない。しかしながら、どこか危ない予感を感じなくもない。

我が国は、人口減少、少子高齢化、認知症の増加等大変大きな課題に直面している。限られた財源の中で、これらの問題をどのように解決できるのだろうか。

地域医療構想の策定、新しい医療提供体制の構築、地域包括ケアの推進、認知症対策、新たな専門医制度への移行等、将に国は本格的に取り組みを始めてきている。これらの政策に、現場でどう取り組むことが出来るかが、それぞれの地域の「まちづくり」にも直結するのではないだろうか。

郡市医師会への期待

国は地方分権推進の旗印の元、大胆に市町村合併を推進した。財政的な観点からもそうせざるを得なかったのかもしれない。

合併後の市町村の枠組みの中で、これらの政策が進められ、それぞれの二次医療圏毎に、地域での完結が期待されてくる。各市町村行政と地域医師会である郡市医師会がこれまで以上に

深く連携していかなければ、地域包括ケアの推進を始め、さまざまな関連する政策の実効が上がらないのではないかと。将に、地域住民の暮らしの安心に直接影響することになる。郡市医師会を上げて、その期待に応えていただくことが大変重要になってくる。

もちろん二次医療圏毎の事情は相当に違っている。人材も社会資源のあり方も違う。その中でそれぞれの圏域毎に『行政を含めた多職種』が地域に応じた姿で一つになり、これらの政策課題に取り組んでいかなければ、その「まち」が限りなく成り立たなくなってしまうのではないだろうか。将に足下だ。

また、郡市医師会においてもそれぞれに課題を抱えていると思う。救急体制の確保、小児科をはじめとする休日の輪番制の確保等もきびしくなっている。医師会員の平均年齢も上昇してきている。地域の中で中核的な役割を担う病院の勤務医師の確保も困難になっている。また在宅医療を推進するにも郡市医師会によっては相当にきびしい地域もあるのではないかと。

しかしながら、くり返しになるが、さまざまにきびしい現状を抱えてはいるが、郡市医師会が市町村行政と二人三脚で取り組むことが、その地域で暮らす住民の安心に直接繋がっていくので、これまで以上に積極的に市町村と関わっていただきたいと願っている。

医師確保

地域医療の崩壊は、医師の地域偏在と診療科の偏在も背景にしている。これらの解決が、これからの地域包括ケアの推進、認知症対策等にも大変重要である。今、準備されている新しい

専門医制度への移行は将にその解決の鍵を握っているのではないかと。

新しい専門医制度への円滑な移行が、目的ではなく結果として医師の地域偏在と診療科の偏在の解決につながることを大変期待している。決してこれらの偏在を益々助長するような結果にならないように準備をしていただきたいと願っている。

一方、かかりつけ医機能の強化はこの新しい専門医制度の移行後の姿においても大変重要だ。医師会の長い歴史の中で、将にかかりつけ医として、地域医療の現場での活躍があったお陰で、今日まで地域医療がぎりぎりに崩壊しなかったのではないだろうか。この功績は大変大きなものがあると思う。もしもこれから、かかりつけ医機能が強化されずに崩れる方向で進むとなると、皆保険制度の根幹を揺るがしかねないのではないかと。何とかそのような方向にならないようにしっかりと対策していただきたい。

市民の自覚（覚悟）

以上のような現状及び将来を考えると、今まで以上に市民一人ひとりが医療の不確実性のもとより、限られた社会資源（医療、介護資源）であることにも更に認識を深めながら、地域包括ケアの主役として協働しなければ、地域包括ケアの推進だけでなく、認知症対策等のさまざまな政策の実効を上げることはむずかしいのではないかと。

根源的な捉え方になるのかもしれないが、市民一人ひとりがいかに生きるか（裏をかえせば、いかに死を迎えるのか）にかかってくるのではないだろうか。「どれほど今を感謝して暮らしているのか」「どれだけ今が色々のお陰であるのか」を足下で感じながら、市民一人ひとりが心豊かに生きていくことが大切になってくるのではないかと。このことはとてもむずかしく、机上だと言われかねないが、一人でも多くの市民が足下でこのことに気づき、そして多職種チームの主役として参画していくことが大変重要となってく

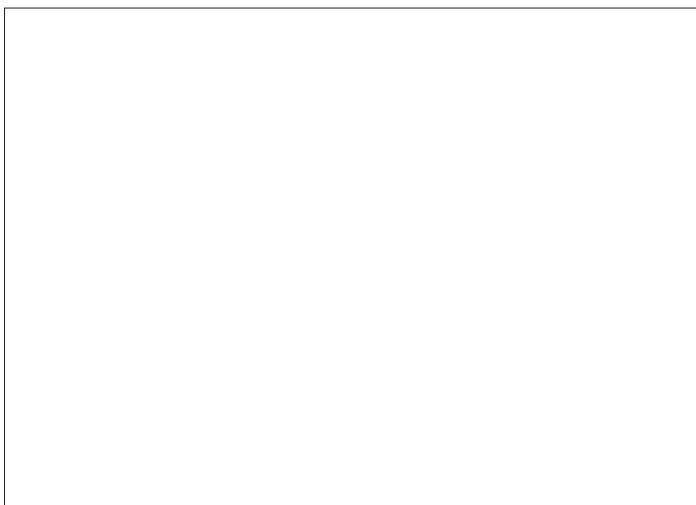
ると思う。是非、国、県、市町村において、これらのことも積極的に啓発を重ねていただき、市民一人ひとりの感得へと繋がって欲しいと願っている。そうなれば、感謝の思いとお陰様の捉え方がより深くなり、今までに述べてきた政策課題の解決のための土台となるお互いの信頼関係の醸成にも大きな役割を果たしてくれるのではないだろうか。

おわりに

大学での医学教育も一つの転換期を迎えていると聞く。医師の人材育成はもちろん大学の担うところが大きいですが、これからは学部教育においても、初期臨床研修においても、後期専攻医としての修練においても、医師会との連携、地域住民とのつながりも益々重要になると考えられる。

医師は患者を「師」とし、医師として成長していく。また地域住民に育まれ、育てられていく。この基本的な原風景を今一度念頭に見据えながら、我々医師会もこれまで以上に医学教育に携わっていかねばならない。否、携わっていくことが大いに期待されているのではないだろうか。

以上、今をどれだけ捉えているのかわからないが、現時点での私の観る今を述べさせていただいた。一部に偏った捉えかたの部分があったかもしれないが、一つの観かたとしてお許しいただければ幸いと念じている。



## 新 春 随 想

( その 2 )

新春の随想を募集いたしましたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございました。1月号にひきつづき掲載いたします。

## 平均寿命と梅毒

宮崎市 たじり皮膚科医院 た田 じり尻 あき明 ひこ彦

今年は還暦である。開業して 22 年になるが、その間大きな病気をする事もなく無事に還暦を迎えることが出来そう。看護学校の講義で最初にするのが平均寿命の話である。大正 9 年 ( 1920 年 ) の平均寿命は男が 42 歳、女が 43 歳であり、現在の約半分となっている。驚くべき数字は乳児死亡率 ( 生後 1 歳未満の死亡 : 出生 1000 対 ) で、現在の 2 に対して大正 9 年には 150 以上である。わずか 90 年ほど前のデータであるが、今では考えられない数字である。当たり前のように子供を育ててきたが、子供が無事に成人していること、自分が無事に還暦を迎えられることに感謝しなければならない。

私が宮崎医科大学皮膚科に入局して与えられた研究テーマは梅毒であった。ペニシリンが 100% 有効であることから、今では忘れられつつある疾患であるが、梅毒は当時の平均寿命を下げたかなりの原因になっているのではないかと考えている。1492 年コロンブスがアメリカ大陸を発見し、この航海で梅毒をヨーロッパに持って帰ったと考えられているが、その後ヨーロッパ全土に拡大、1498 年インド、1505 年中国、そして僅か 20 年後の 1512 年に日本へ伝わったとされている。江戸時代には遊女の多くが梅毒に感染して

おり、一説によると江戸の感染者は人口の 5 割 ~ 7 割と考えられている。人類は性行為をしなれば子孫を残せない。梅毒は性行為によりパートナーに感染し、さらに母親から胎児に感染して先天梅毒を発症する。先天梅毒は流産や死産の原因となるが、東大小児科では明治 40 年 ~ 大正 14 年の 20 年間に 1,077 例の先天梅毒を報告している。正確な数字は残っていないが、かなりの乳幼児が先天梅毒により死亡していたのではないだろうか。

フレミングがペニシリンを発見したのは 1928 年、実用化されたのは 1942 年からであるが、この薬剤により梅毒は 100% 治癒可能となった。生命の予後は劇的に改善されたはずである。1 つの薬剤が人類を救う。ペニシリンはまさしくそういう薬剤であったと思う。梅毒は決して過去の病気ではないが、このような歴史は後輩の医療関係者に伝えていかなければならないと考えている。

カット

## 聴くだけクラシック

日南市 日南市立中部病院 ^{たけ なか こう し} 竹 中 晃 司

大学時代に触れ始めたクラシック音楽への興味は尽きることなく早や 40 年を迎えた。CD で聴くのは手軽だが、生演奏の迫力は別次元だと思う。宮崎では大編成のオーケストラによる演奏会は多くはないので、毎年開催される宮崎国際音楽祭は貴重である。昨年は日本フィル、ローマサンタチェチーリア管などの演奏を聴く機会を得た。佐渡裕氏の率いる PAC オーケストラの“悲愴”は秀逸で、若い演奏家を率いておられる佐渡氏の情熱ごと音になっているように感じた。宮崎のアマチュアオーケストラ、宮崎シティフィルの演奏も音楽に対する思いが伝わってくる。年末の“第九”の演奏も楽しみにしている。自分では楽器を演奏することはない(できない!)ので、オーケストラのメンバーにはいつも尊敬とともに羨望の気持ちをもってしまう。特にバイオリンの音色が好みで、学生時代の同級生にも現在の同僚にもバイオリニストがおり、クラシック好きの自分は恵まれていると感じている。聴くだけのクラシックも楽しみ方は人それぞれかもしれない。自分なりの楽しみ方をもっていることが大切なんだろうと思う。演奏家の方々の練習の厳しさはコンサートではわかりにくい。演奏の楽しみはまた別次元なのだろうと想像するばかりである。

聴くだけクラシックの自分なりの楽しみが何なのかはよくわからないが、名だたる指揮者の方々が言われる楽曲の解釈と作曲者の意図、思いを想像しながら聴くとまた違った味わいがあり、癒しにつながるのかなと思う。初夢に終わ

るかもしれないと思いつつ、世界に冠たるベルリンフィルの宮崎公演が実現することを今年も切望したい。

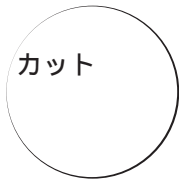
## 挫折もまた楽し

宮崎市 森のクリニック ^{くぼ やま み ほ} 窪 山 美 穂

年女となる 2015 年は、開業して 10 年という節目の年でもあり、感慨深いものがあります。特別な才能のない私が、「カイギョウイ」という慣れない職業に戸惑い、たくさんの試練に襲われたことは言うまでもありませんが、何度挫折してもまたゆっくりと進んでこられたのは、影となりひなたとなって支えてくれた夫の支えがあったからこそと、心から感謝しています。

開業間もない頃は、医療というより雑用ばかりの毎日でした。スタッフの労働環境や精神状態にも気を配り、公平で正当な評価がなされているかを判断し、業務改善にも取り組んではみるものの、新しいスタッフを雇用しては、古いスタッフが辞めていき、何をやっているかわからない状況でした。スタッフも涙目、私も涙目で管理能力のなさを痛感しました。「来るもの拒まず、去る者追わず」という境地は必要だと思いますが、管理者は目標を明らかにし、企業が進むべき方向性を明確に提示することが大切です、

その目標の実現に誰よりも熱心で、努力を惜しまない人間であるべきだと考えようになりました。「道徳なき経済は犯罪であり、経済のない道徳は寝言である。」という二宮金次郎の格言にいたく感動し、自分に厳しく、他人にも厳しく、そしてどこまでも優しくありたいと考え、突っ走ってきた10年でした。挫折するたびに真剣に物事と向き合うこととなり、人生を深く考えるようになりました。腎臓内科医として透析医として、一人の医師にできることには限界があり、管理栄養士、保健師、看護師、薬剤師のコメディカルだけでなく行政にも協力を得て、CKD 予防に関する啓発活動を継続していくことが重要だと痛感しています。今後は、自分にできることの全てを社会に還元していくとともに、革新的に進化していく医学、医工学の融合に少しでも追いつけるよう、自分なりの努力を重ねていきたいと考えています。皆様、今年も宜しくお願い致します。



カット

## 女川町

高鍋町 坂田病院 さか た もろ さと  
坂 田 師 隣

私は、昨年11月、宮城県女川町を旅行しました。

女川町の名前の由来は、西暦105年の前九年の役において阿倍貞任が阿部氏の女性を乱から匿った事から命名されたと聞いています。

女川町は、東日本大震災以前は、宮崎の人には、ほとんど知られていない無名の町でした。震災以後は多くの犠牲者と東北電力の女川原子力発電所の存在で名を知られる様になりました。

私は、家内が女川町出身の為、震災以前と震災以後の女川町を存じています。震災前は、リアス式海岸の静かな漁師町、又原子力発電所が立地している為、東北電力より多くの援助をいただき公共施設等、その他色々と充実した町でした。原発があるにもかかわらず自然を多く残し、まさに、科学と自然の共存共栄する町でした。

震災時には、女川原発が避難場所になったと聞いています。

震災後、幾度か女川町を訪れていますが、徐々に復興は進んでいる様です。しかし、以前の美しい町には程遠いようです。

原子力発電所の再稼動については、福島原発の事故もありいろいろ議論されています。しかし、女川町に限っては震災前と同様再稼動をして、雇用をうみ人々が集まり、町が繁栄することで復興のスピードが増すのではないかと思います。

東北地方の復興を願っている今日此頃です。

## 活字の誘惑

高鍋町 大森内科医院 おお もり ふみ ひこ  
大 森 史 彦

私は活字が大好きです。印刷された文字に惹かれます。診察で患者さんが途切れた時、院内をあちこち見回っている気付くと良いのですが、ちょっと時間があると製薬メーカーのパンフレット、医学雑誌、新聞など手近にあるものをついつい読み始めてしまいます。学会出張に行く際も、移動時間をつぶすため、日頃買い込んで積ん読にしてある本を旅行鞆に入れてしまいます。それで鞆が重くなり、挙げ句の果てに肩こりと腰痛を家に持ち帰ることになります。空港の搭乗待合室でも、時刻表を目にすると必ず一部として端から端まで全部読まないで気がすみません。

でも、パソコン画面の字を読むのは好きではありません。じっくり考えるときは、表示内容をわざわざプリントして、紙の上の文字を追っていくと内容がよく理解できます。電子ブックには手を出さないようにしています。

以前から、妻に言われたことは右から左に流れて全く覚えていません。書いてあることはよく覚えているのです。長年連れ添った妻は、最近やっと私の性癖に気付いたらしく、何か用件があると必ずメモに書いて渡してきます。このままいくと私の周りはメモ用紙であふれてしまうでしょう。ただしたくさんのメモ用紙がどこにあるか、いつの間になくなっているか、保証はありません。

## ちょっとだけ残念だったこと

高原町 ふきやま霧島東麓 ふき やま りょう  
クリニック 柊 山 了

平成 24 年の年末、M R T 県内版のニュースで宮崎市内の広島通にあった宮崎カトリック教会が移転するという話題が出たことがあった。教会内に置かれていた碑が話題の中心で、“敬天愛人”と銘打たれたが碑が撤去されることになった、というものだった。

“敬天愛人”という言葉は、明治維新の功労者：西郷隆盛のモットーである。カトリック教会内にこの碑が残されていたというのは、意外であった。

明治 10 年、西郷軍は熊本の田原坂で政府軍に敗戦し人吉を経由して、宮崎市のこの広島通あたりに 2 か月ほど逗留したという歴史があるが、私は、学校の社会の授業では教えてもらえなかった。

昭和 30 年生まれの我々の時代、私ども薩摩の文化圏であった西諸の地域では、最も尊敬すべき人物として西郷さんのことが教え込まれていた。たとえば、こんな風である。西郷さんは、生まれが非常に貧しい下級武士だったので、幼い頃、お弁当は毎日毎日かぼちゃの煮物だった。だからいつもまわりの子供たちにいじめられていた。しかし、西郷さんは決してくじけることなく、偉大な人物になった、という具合である。

明治 10 年の西南戦争の前夜には、鹿児島県の県政は西郷の私学校党が実効支配していた。明治 6 年に発足したての宮崎県は、強引に鹿児島県に編入させられ、明治 9 年に鹿児島県の支庁が置かれるという状況だったらしい。

西南戦争後、この状況をはね除けるため立ち

上がったのは、川越進という人物であった。ごく最近、私はこの人物が安井息軒で有名な旧飫肥藩士として教育を受けたということを知った。川越の努力で明治 16 年、ようやく宮崎県は鹿児島からの分離独立を果たしたのである。

ただ、西郷さんの痕跡が、宮崎市内のど真ん中から消えてしまったのだと思うと、なんとなくちょっと残念だなあと思うのであった。

## オートバイと私

宮崎市 楠元内科胃腸科医院 くす もと すなお  
楠 元 直

高校まではオートバイに特段の興味は無かったが、清武町の大学に通うようになって、部活もするので、移動手段として原付が必要になり、D先輩から中古の原付を譲ってもらって、乗るようになった。スクーターでもカブでもなく、シフトレバー付きのれっきとしたオートバイであった。瞬く間にオートバイの魅力にとりつかれ、暇さえあれば、あっちこっち乗って回った。慣れない内は路面の砂や落ち葉でスリップしたり、山道のカーブで曲がりきれずにスリップしてバイクを崖に落としてしまったり、振り向き過ぎて路肩の縁石に乗り上げてもんどり打ってしまったりしたが、幸い、いつもせいぜい膝の擦過傷程度で軽く済んでいた。尤も、ヘルメッ

トやグローブ、ジャケットは着用していた。しかしアクセル全開でもせいぜい時速 60km 程度だったことや、エンジンがキックなので冬など特に掛かりにくい事、ヘッドライトが暗い事、すぐに点火プラグがかぶったり逆に灼けすぎたりする為、交換プラグを常に携帯したり、ガソリンタンクが小さくて常にガス欠に気をつけなければいけない事など不便も多かった。熊本県菊池市から阿蘇山に登った時はアクセル全開でも時速 10km しか出なくて、車にどんどん追い越される始末だった。たまらず、自動二輪中型免許を取って、アルバイトでお金を貯めて 400cc の中古バイクに乗り換えた。さらに運転免許試験場での限定解除試験を 7 回目で合格して中古のナナハンに乗り換えた。中型以上のバイクに変わってからは立ちゴケ以外の転倒は無くなった。社会人になってから大型バイクを 3 台乗り換え今も乗る事があるが、車にはね飛ばされる事態も想定して、エアバッグジャケットやプロテクターなど重装備で乗っている。それでも爽快感は車の比ではない。泊まりがけでのツーリングが現在の夢である。

カット

## 鶴の恩返し

宮崎市 平部整形外科医院 ^{ひら}平 ^べ部 ^{ひさ}久 ^{よし}彬

先日、宮崎市郡医師会の忘年会があり、出席させていただいた。産婦人科のN先生が来ておられた。子供がお世話になったので、「どうか、先生？」と声をかけさせていただいたところ、「もう来年診療所を閉鎖する。診療所は診療は三分の一だ。脊柱管狭窄症で下肢が痛い」など仰ったので、「下肢の痛みに関しては、ダメもとで私が開発した下肢などの血流を増加させる靴の中敷を試用してみられませんか？」とお勧めしたところ、「何でもよいから試してみたい。何曜日に受診する」と言われました。その日は飲んでおられたので、憶えておられるのだろうかと危惧しながら職員ともども待機していたところ、先生が来院されたので、中敷合わせ、中敷の固定をよくする靴下の選択など行い帰っていただきました。様子につき電話をいただけるとのことでお待ち申し上げたが、いただけませんでしたので、少し不安になり何かトラブルが発生したのではと気になりました。それでもさらに少しお待ち申し上げましたが連絡いただけませんでした。いよいよ気になり、先生に失礼であったかなと思い、先生の診療所に電話さしあげ、「申し訳ございませんが、中敷と靴下はお返しいただいた方がよいのではないのでしょうか？取りに伺いますので、預かっておいていただけないでしょうか？」とスタッフの方をお願いし、家内と伺って、スタッフの方に「中敷と靴下を取りに来ました」と申し上げたところ、先生に電話され、「使っている」とのことですとの返事をいただき、びっくりしました。先生が出てこれ、下肢が温

かい、こむら返りがなくなった、ゴルフがスムーズにラウンドできたなど言われました。まさかの展開に驚くこともあったのですが、お孫さんが来ておられたので、電話できなかったとのこと。

帰りに娘さんが作られた美味しいパウンドケーキをいただき、帰路につくことになりましたが、その時先生が靴下の換えをと仰った時は、かなり使用しておられるのだなと嬉しくなりました。車のなかで先生が喜んでおられる様子を家内と話している時に、家内が言いました。「鶴の恩返しよ。私の名前は千鶴よ。子供3人お世話になったんだもの」

## 木彫りのフクロウ

串間市 ^{みつ}みつとめ眼科 ^{とめ}満 ^{たけ}留 ^{のぶ}武 宣

今年で、串間に眼科を開業して20年。

当時3歳、現在5歳。20年経っているのだから当り前...なのだけど58歳という数字と体感年齢が違うような、今でも若いと思い込んでいる自分がいる。

しかし、若さが減ってきたのを最近実感することがある。

以前ならやりたいと思ったことはとりあえず始めていたが、今は体力と相談しながらやりきれそうかどうかと考えてるうちにやる気が失せ

てしまっている。これじゃいかんと思いながら毎日毎日何かやっている、やろうとしている。

「少しは、じっとしてたら？」かみさんが投げかける言葉を背にしながら毎日毎日何かやっている、やろうとしている。

小学校の頃の通信簿に「落ち着きがない」という文字が常にくっついてたのを思い出す。

この20年で確実に趣味(趣味と言っているのか何かやってること)の数が増えた。

小さい頃、親父(旧会員の新納武敏)の車のブラグ磨きをさせられていたせいか機械いじりが好きで、それが高じて、ひと通りの修理ができるくらいのリフトを備えたメンテナンスガレージをつくった(日常のタイヤローテーションやオイル交換から重整備は蛙目のドイツ車のエンジンを降ろしてミッションのオーバーホールまで)、またその横に赤い車を眺めながらソファで寛ぐガレージも...物欲に取りつかれてます。

開業当初やらなかったゴルフも今じゃ毎週木曜午後にスループレイ、毎年40回ラウンド記念の無料券までもらっている。

現代農業を定期購読し、一時期裏山に畑を作ってちょっと大きめの家庭菜園作ろうと目論んだが今は細々と菜っ葉が生えているだけ。まだ土に愛情を注げるまで大人になってないようだ。

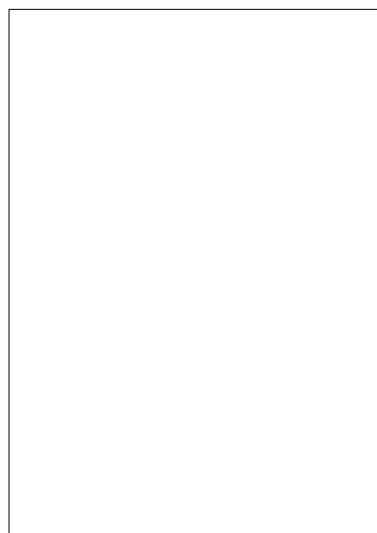
溶接をやりたくて半自動溶接機を買いあっちの鉄とこっちの鉄をくっつけたり、木工旋盤買って木製ワイングラス作ったり、古いエアコンをもらってきてガレージに取り付けたり(学生の頃バイトでやってた杵柄で)、カーポートの上にウッドデッキを作ったり...。

さて、今のマイブームは木のフクロウをつくること。チェンソーでおおよその形をつくり、ディスクグラインダーで仕上げていく。

10年程前、裏山の杉を切り倒してチェンソーでくりぬいて椅子にしたり、子供たちにシーソーを作ったりしたことがあった。今はそのチェンソーを使ってフクロウづくりをしている。義弟がログハウスを建てたときに出た端材でフクロウをつくり、その新築祝いにあげたらたいそう喜ばれた。妻と娘たちも自分のが欲しいというので作っているうちに注文が来て7体、8体と増えてきた。当院の入り口にもドングリの木から彫りだしたフクロウがとまっている。

電気ドリル、切断機、グラインダー、インパクトレンチ、エアラチェット、ジグソー、スライド丸のこ、ボール盤、半自動溶接機、木工旋盤、チェンソー、トラクター、パワーショベル等、数え切れないほどの器械や機械たち。

かみさんが今のうちから処分の心配をしている。



## 時間感覚

宮崎市 アイレHDクリニック ひだか けい こ

あと2年で半世紀を生きていることになりました。年女を迎えるなんて驚きでした。前回の年女がつい2, 3年前のことのようです。年々時が経つのが速いと感じているのは私だけではないでしょう。これまでの人生で長かったのは幼稚園と小学校時代だけです。それ以前はもっと長いのですが、記憶がありません。小学校の夏休みなど、毎日することがなく、どうやってこの退屈な時間をしのごうかと毎日考えて過ごしていました。中学生が高校生の頃、よく父に言われていました。『時間の流れは加速度的に速くなっていくものだ』と。当時は他人事に感じていましたが、さすがに実感する歳になってきました。

ジャンナーの法則『生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する』, 50歳にとっての1年は人生の50分の1, 5歳にとっては人生の5分の1を占めるという意味だそうです。まさにそう感じます。いつの時代もどの国でも、人が感じることは同じなのでしょう。

50年や100年という数字は、子どものころはとてつもなく長い年月だと思っていました。いざ自分が50年近く生きてきたことを考えると、そう長い年月ではないような気がします。そう思うと、戦国時代や江戸時代などはそんな昔のことではないように感じます。

時の流れの感覚は不思議なものです。

つらい時は時間を長く感じ、楽しい時や充実しているときは短く感じます。年齢とともに時の流れを早く感じるということは、歳とともに

充実した毎日を過ごしていると考えてよいのでしょうか。そう考えて、楽しく幸せに生きていきたいと思います。

## 蛍の航跡

都城市 佐々木医院 ささき こう じ

第114回九州医学会での梶木蓬生先生の特別講演『軍医たちの無念』の会場はほぼ満席であった。座長から「質問した方には先生の書かれた本を差し上げます。3人まで」とアナウンスされた。1人目は精神科の医師から中尾先生にまつわる質問, 2人目は沖縄の医師からインパール作戦に関する質問が出た。「ほかに？」と座長の声、本を頂きたいのだが質問が思い浮かばない。気が付くと手を挙げていた。

「父は昭和16年京都府立医大卒業の年、近衛師団にて軍事訓練を受け、その後満州の牡丹江第3陸軍病院に配属となりました。しかし、20年8月ソ連軍の侵攻の時最後まで残ったため捕虜となり、2年までシベリアに抑留されました。『軍医は逃げる時はいつも最後になるんだ』と言っておりました。使命感の赴くまま発言したが、会場が少し響めいた。おそらく同様の処遇を受けた父親をもつ医師も多く居られたであろう。

梶木先生から「シベリア抑留も大変だったのですよね。無事に帰ってこられて、長生きされてよかったですねえ…」と優しい言葉とともに、最

後の三人目に、毛筆サイン入りの本『蛍の航跡』を頂いた。

平成 14 年 3 月、挿管された臨終の父に「何もできず、駄目な息子でごめんね」と零したが、眉間に皺を寄せて首を横に振っていた。死後数週間たったある日の夕方、医局に見かけぬ黒い虫が入ってきた。思わず叩き落としたその尾部が床で光を放つではないか...それは紛れも無くホタルであった。

成仏出来ない父の無念さを感じ、自責の念に苛まれた。幼い僕をよく蛍狩りに連れて行ってくれた父は多くを語らなかったが...

「お陰様で軽快しました。退院後は部隊と共に南方に行きます」と言ってきた兵士に父は「まだ完全には治っていない、病院を手伝ってくれないか？」と彼を病院に残したそう。後日その部隊は玉砕したとの報があった(一命を取り留めたその兵士は女流奇術士松旭斎天勝の弟子で、父に手品を教えたとの事)。

昭和 20 年 8 月ソ連軍が満州侵攻の際、戦車刺突爆雷で爆傷した兵士は下肢の処置を受けると「隊長、御無事で御帰国下さい。自分はもう一度戦車遣っ付けてきます」と勇ましく戦場に散っていった。また祖国を思いながら回帰熱、腸チフスなどで無念の死を遂げた数百の兵士達の霊を父は背負って生きてきたと思う。

終戦のはずが、日本への帰還は叶わず、連行された極寒の地シベリアの捕虜収容所病院で、過酷な診療従事が待っていた。学生時代覚えたマンドリンで負傷兵士を慰問し共々ダモイを誓い合った。

昭和 24 年、映画「青い山脈」が公開の年の 7 月、漸く釈放された父は京都府舞鶴の港に軍服姿で降り立った。医師になり 8 年の永き年月

が過ぎていた。軍医とは白衣を軍服に替え、青春を散らした医師達であった。

新春早々遠い昔の話になったが、終戦後、無実の罪で抑留され囚人同様の処遇を受け死んでいった 10 万弱の人達、彼等の無念の霊は、今も蛍となり航跡を残している。

## おこのみやき パート

高鍋町 海老原総合病院 よね ざわ つとむ  
米 澤 勤

前回、平成 15 年 2 月のこの欄で「おこのみやき」と題し投稿させていただきました。今回も飽きもせずお好み焼きについて語らせていただきます。まずは、この 12 年間の個人的トピックスを羅列してみますと、* 子供たちが皆成人した、* 父親を亡くした、* 初めてアジア以外の外国に行った、* 一級小型船舶操縦免許を取得した、* ダイビングを始めた(現在 A 1 特訓中)などがありますが、平成 19 年には調理師免許を取得し、お好み焼き屋開店についても私なりに準備をしていました。そして、今年はいよいよ「おこのみ・よねちゃん」オープンを目指しての正念場です。店舗の準備から始まり各種申請、仕入先確保、経理等々、やらねばならない作業、越えなければならぬ高いハードルが数多くありますが、何とか実現を目指して精一杯努力する所存です。「医業(いちおう医師会員です)」について努力が足りない」とおしかりを受けるかとは思いますが、還暦 = 零歳ということで「赤子の戯言」とご容赦

いただきますようお願い致します。

さてここで、前回紙面の関係でご紹介出来ませんでした「亡くなった母とのエピソード」を紹介させていただきます。私が小学生の頃、毎日のように通っていた「みき」というお好み焼き屋は、今から思えば 70 歳過ぎの「おばあさん」がやっていました。ある日(確か日曜日)私が母にお好み焼きを作ってあげると、準備にとりかかりました。「みきのおばさんのやってる通りにやるから見ててね」と言って。具材の準備が整い、鉄板に火を入れて次の作業にとりかかった時にそれは起こりました。母が「エー、ツンちゃん(私の愛称)ホンマにはないしょん(本当にそうしているのか)?」と悲鳴を上げたのです。私がした行為は、鉄板の熱し方を確かめるために唾を鉄板にかけた事でした。もちろん「みきのおばさん」はそんなことはやってはいませんでした。そして、「おこのみ・よねちゃん」のオヤジも決してやりませんので、首尾よく開店出来た際には安心してお越しいただけると幸いです。

## 前回の末年と次回の末年を想う

宮崎市 宮崎大学医学部 産婦人科 おおにしじゅんじ 大西淳仁

新年あけましておめでとうございます。本年も宮崎大学産婦人科をよろしく願いいたします。

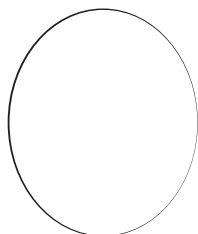
宮崎大学産婦人科の医局長として 3 回目のお正月を迎えることになりました。昨今の産婦人

科医療が抱える諸問題に日々頭を悩ませる状態は今年も変わらないようですが、より良い年になるよう宮崎県の産婦人科医療に誠心誠意頑張る所存です。

昨年末に新春随想の依頼をいただき、今年が末年であり自分が年男であることに気づかされました。そこで前回年男であった 2003 年と次回年男になる 2027 年について少しだけ随想してみたいと思います。

前回末年であった 2003 年の元旦は福岡の実家で迎えました。なぜ 12 年前のことを記憶しているのかと言うと、前年 12 月末に米国のポスドクから約 2 年半ぶりに帰国し、職場復帰する直前の正月だったからです。干支の未(羊)つながりではありませんが、米国での研究テーマは長期高地低酸素環境が羊の胎仔の心機能に与える影響についてでした。そのため実験の準備で妊娠羊の毛刈りをたくさんしましたが、帰国時には自分も 2 年半伸ばし続けた髪をぱさぱさ切って首もと寒い正月でした。あの頃は黒かった髪も現在はすっかり銀色(微妙に白色ではない)になり、12 年という年月は思いの外自分に変化をもたらしたようです。これを想うと、先の 12 年後にどのような世界(または自分)がまっているのかは想像が付きません。しかし次の末年である 2027 年にリニアモーターカー東京 - 名古屋間が開業であることは、予測可能な未来かもしれません。もちろん、予定ですので前後するかもしれませんが、自分たちが子供のころかならず絵本に載っていた未来の乗り物リニアモーターカーがついに開業するとなるとわくわくしますし、次の 12 年への希望にもなります。今年も未(羊)に導かれて宮崎の産婦人科にとって良い年になるよう頑張ります。

## 寄 稿



## 自賠責保険における諸問題

宮崎市 尾田整形外科医院 お だ とも き  
尾 田 朋 樹

はじめに

国民皆保険制度の開始から遡ること5年、急増する交通事故が社会問題となり、1956年(昭和33年)に自動車損害賠償責任保険(自賠責保険)が施行されました。国民健康保険とは異なり、「基本的な対人賠償を確保し、加害者が負うべき経済的負担を補填すること」を目的としています。自賠責保険では、被害者に7割未満までの過失があっても支払い限度額(120万円)まで給付されますが、7割以上の過失があれば2割減額、10割過失では保険金は支払われません。交通事故に係る医療は自由診療とされ、休業補償や慰謝料など手厚い給付が受けられる反面、医療機関による治療費の価格高低により、損保会社との間で支払いの際の様々なトラブルが発生しました。そこで大蔵大臣(当時)の諮問を受けた自動車損害賠償責任保険審議会(自賠責審議会)が、「新たな診療報酬基準案を早期に決定することが肝要である」と答申し、これを受けて日本損害保険協会、自動車保険料率算定会(現在の損害保険料率算出機構)が日本医師会の協力を得て協議を重ねた結果、1989年(平成元年)6月に自賠責保険診療費算定基準(以下、「新基準」)が策定されました。

診療費請求の実際

「新基準」は現行の「労災診療費算定基準」に準拠し、薬剤など「モノ」については1点単価12円、技術料については20%を加算した額が上限とされ、実際は労災基準をやや上回る診療報酬となっ

ています。診療費の支払いについては、自賠責保険の場合は請求書類受理日から2か月以内、自賠責・任意一括の場合は翌月末日までに支払うことを原則とし、各地域の実情に応じて協議、決定されています。これら「新基準」は、現在では山梨県を除く全国46都道府県において採用されており、実際の診療費請求は個々の医療機関の裁量に任せられ(手挙げ方式)、独占禁止法に抵触しない形として医療側、支払い側が認識しています。「新基準」は交通事故診療費の請求基準であると同時に、診療費の請求・支払いに関する周辺問題の解決を図るという役割も担っていましたが、策定から既に四半世紀が経過しようとしている現在もなお、特に健康保険使用に係るトラブルは後を絶ちません。

健康保険使用の状況

加害者が任意保険に加入していない場合、自賠責保険の限度額を「超えた分」、あるいは入院や手術の必要性から限度額を超えることが明らかであれば、加害者、被害者双方の負担を軽減するために必要に応じて健康保険を使うことは納得できます(日医)。交通事故に健康保険を使用すると、患者の「損害」として算定されるのは「窓口負担金のみ」であり、かつ患者の過失分は「私病」として健保が負担するため、医療機関が健保使用を承諾すれば「患者の損害額」から治療に係るコストを大幅に節約できます。

しかし、加害者が任意保険に加入している場合は自賠責限度額を超える分は任意保険から給

付されますので、健保や医療機関にツケを回してまで加害者、被害者の負担を考慮する必要はありません。患者にも過失があり、その減額（過失相当）分を「自己責任」として納得できなくても、患者が「人身障害補償保険」に加入していれば過失相当分も補償されます。現在、人身障害補償保険はほとんどの自動車保険（任意保険）にセットされているため、入院のように治療費が高額になる場合でも健康保険を積極的に使用する必然性はありません。

#### 自賠責保険制度概要の周知

交通事故診療における健保使用は、本来、医療機関、損保会社が患者にとってのメリット、デメリットを十分説明し、患者自身の意志によって決められなくてはなりません。これは医療側（県医自賠委員会）、損保会社（損害保険同業会）、自賠責損害調査事務所（損害保険料率算出機構）で構成される宮崎県損害保険医療協議会（三者協議会）における確認事項であり、「健保使用を強制してはならない」というのは医療側、支払い側の共通認識です。

しかし、患者のみならず自賠責診療や労災診療に馴染みのない医療機関においても「難解な問題」であり続けているため、前述の三者協議会において繰り返し「確認と合意」が得られているにも拘らず、「健保を使用すると治療費を安く抑えることができる」「医療機関は保険証を窓口で提示されれば（診療）拒否できない」「過失があるの

で健康保険を使う」などといった文言が飛び交い、あろうことが「患者が健保使用に同意したのに診療拒否ですか？」といった暴言さえも珍しくないのが実情です。自賠責保険制度、特に健康保険の使用については、医師会主催の自賠責保険研修会などでその問題点に触れる機会は従来からありました。このような現実的な医療者への周知、教育は、「指導」を行う立場の行政には期待できず、今後も様々な機会を用意して医師会側が行っていくべきだと考えます。

#### まとめ

今回は「自賠責保険における諸問題」と題して、交通事故診療における原則論を紹介させていただきました。これに「過失相殺」、「人身障害補償保険」の取扱いや医業類似行為業者（柔道整復師、あん摩、鍼・灸）の参入が絡むと更に問題が複雑化します。現在、TPP問題で金融庁の俎上に上がっている「民間保険の現物給付化」問題は、医療側と支払い側（民間保険会社）の様々なトラブルの可能性を含んでいます。交通事故診療に限らず、その対応については到底個々の医療機関だけで解決できる問題ではないのです。

#### おこたわり

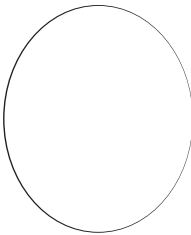
本原稿は、宮崎市郡医師会報「醫友しののめ」の平成 27年 3月号に掲載されたものですが、宮崎市郡に限らず多くの方々に目を通していただきたいと考え、本誌への掲載をお願いしたものです。

## エコー・リレー

( 47 回 )

( 南から北へ北から南へ )

### 開業を振り返って

日向市 やまうち泌尿器科内科 やま うち まさ みち  
山 内 正 倫


日向で開業して、もうすぐ  
3 年を迎えようとしており  
ます。

振り返ればあっという間だ  
なあと感じます。何もわから  
ないところからスタートして  
日々あたふたとしている間に  
時間が過ぎていきました。

よく開業するとお金の回りが良くなるような  
夢のような話を聞きますが、まず思い知ったの  
は、働いても通帳残高が減っていくことがある  
ということでした。勤務医時代( サラリーマン時  
代 )は仕事量にかかわらず、どんなことがあつて  
も給料の単位がマイナスになることはなかった  
わけで、サラリーマンのころは感じなかった給  
料というもののありがたみをしみじみと感じた  
ものです。

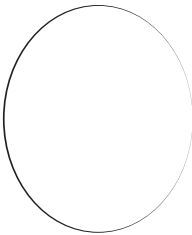
と、マイナスイメージばかりではありません。

勤務医時代とは全く違う、楽しみもあります。

自分でも驚きましたが、学会会場にいる時間  
が長くなったのもいい変化の一つです。少し、  
宮崎市からはなれた所で開業してしまったので  
普段なかなか勉強会に参加する機会がありませ  
ん。昔は、学会と言えば少し観光気分( だいたい... )  
で楽しみにしていたものです( もしかして僕だけ  
でしょうか??? )。が、勉強する機会が少なく  
なると少し不安な気持ちがするもので学会で勉  
強しようとする気持ちが強くなるのです( 自分で  
も意外です... )。取り留めのない文章になつてし  
まいましたが、いろいろ勉強しながら自分自身  
を成長させていかなければいけないと思う今  
日この頃です。

[ 次回は、都城市の永野 由起先生をお願いします ]

### スキューバダイビング

都城市 いけのうえ いけ の うえ たかし  
池之上 貴


私がスキューバダイビング  
を始めたのは 26 歳です。こ  
れまでに、国内、国外問わず  
様々なダイビングスポットを  
訪れました。なかでも 20 年前  
のパラオ諸島でのダイビング  
は衝撃的でした。30 メートル  
以上の透き通った海中で、魚

の大群、サメ、ウミガメ等が大挙して目の前を  
通り過ぎていくのです。あの瞬間には日々の雑  
踏なんか頭の中から全て消え去ってしまいます。  
それ以来パラオには何度も通っています。透明  
度でいえば、サイパンが群を抜いています。40  
メートルぐらいの透明度で、少しの濁りも感じ  
させないあの海は格別です。初めての海外ダイ  
ビングを経験したのがヤップ島でした。当時( 平  
成 8 年頃 )のヤップ島はまだ未開の地で、飛  
行場に降り立つと、木枠牢屋の様な税関の中で  
ヤップ人が気怠そうに入国スタンプを押してい  
たのを覚えています。ヤップ島の海で初めてマ  
ンタに遭遇したのですが、マンタが目前に現れ  
た瞬間は時間が止まっている様で、優雅に泳いで  
いる姿は圧巻でした。いろいろと南方の島を訪  
れる度に感じるのですが、太平洋戦争中、日本  
軍がこの島で基地・飛行場を作り、荒れ地を開  
拓して必死で頑張っていたのだなあと感概深  
くもなります。パラオのペリリュー島では  
壮絶な銃撃戦があり、海が真っ赤に染まったそ  
うです。当時の戦車、大砲がそのままの姿で残  
っていたのを覚えています。そして、つくづくこ  
のまま平和な日本であってほしいと願うこの頃  
です。

[ 次回は、日向市の首藤 敏秀先生をお願いします ]



## あなたできますか？

— 平成 25 年度 医師国家試験問題より —

( 解答は 85 ページ )

1. 診療情報を第三者に開示する際の個人情報の保護として適切なのはどれか。

- a 保険会社の同意が必要である。
- b 利用目的の特定は不要である。
- c 死者の情報の保護は不要である。
- d 特定機能病院では本人の同意は不要である。
- e 法に基づく保健所への届出に本人の同意は不要である。

2. 医療安全支援センターの機能について正しいのはどれか。

- a 医師と患者の利害調整
- b 医療訴訟の際の証拠保全
- c インシデントレポートの集計
- d 患者からの苦情や相談への対応
- e 医療過誤に対する民事責任の追及

3. 過敏性腸症候群でみられるのはどれか。

- a 嘔 吐
- b 下 血
- c 脱 水
- d 発 熱
- e 便 秘

4. 聴診法による血圧測定について正しいのはどれか。

- a マンシエットの中に聴診器のチェストピース全体を差し込んで測定する。
- b 上腕動脈の上に聴診器を置き、血管雑音を確認してから加圧を開始する。
- c 70mmHg まで速やかに加圧し、その後 10mmHg ずつ加圧しながら測定する。
- d K orotkoff 音の第 1 点の確認できない時は、一度完全に減圧してから再度測定する。
- e 減圧を進めて K orotkoff 音が消失したら、すぐにバルブを全開にして急速に減圧する。

5. 直腸指診で前立腺癌を疑う所見はどれか。

- a 圧 痛
- b 石様硬
- c 弾性硬
- d 血液付着
- e 表面平滑

6. 全体状態・疾患とそれに伴う貧血の原因の組合せで誤っているのはどれか。

- a 妊婦 ————— 葉酸不足
- b 肝硬変 ————— 脾機能亢進
- c 子宮筋腫 ————— 鉄欠乏
- d 慢性腎不全 ————— エリスロポエチン低下
- e 胃全摘後 5 ~ 10 年 ————— ヘプシジン高値

7. 80 歳の女性。肺炎のため入院中である。症状が改善したため退院を計画している。75 歳で脳梗塞により左不全麻痺となったが、リハビリテーションによ

り屋内杖歩行が可能である。排泄や食事も自立している。主な介護者である夫は、自宅療養にあたって経済的な不安を訴えている。

担当医が夫に勧める相談者として最も適切なのはどれか。

- a 薬剤師
- b 管理栄養士
- c 作業療法士
- d 理学療法士
- e 医療ソーシャルワーカー

8. 30 歳の女性。転倒し右膝部挫創を生じたため救急外来を受診した。創部洗浄などの処置が行われ、抗菌薬と鎮痛剤とが処方された。医師と看護師による説明の後、処方薬を手渡す窓口で患者が薬剤師に質問をした。

患者の質問で薬剤師が医師に確認すべきなのはどれか。

- a 「副作用はありますか」
- b 「傷は何日で治りますか」
- c 「薬の名前を教えてください」
- d 「お茶で飲んでも良いですか」
- e 「薬は冷蔵庫で保管するのですか」

9. 2 歳の男児。発熱と皮疹とに気付いた母親に連れられて来院した。前日の夜から胸部と腹部とに皮疹が出現し、今朝から 38.0 の発熱がある。同居している祖父が 2 週前に右頬の帯状疱疹に罹患している。体温 38.2。直径 2 ~ 5 mm の紅斑が顔、胸部、腹部および四肢に散在し、一部は水疱を伴っている。

この患児が 4 日後に再診したときに最も多く見られる皮疹はどれか。

- a 丘 疹
- b 水 疱
- c 痂 皮
- d びらん
- e 苔癬化

10. 50 歳の男性。右足先が上がらないことを主訴に来院した。昨夜、泥酔して右脚を上にして脚を組んだ状態で寝込んでしまったところ、今朝、目覚めたときに右の足関節を背屈できなくなっていた。徒手筋力テストでは、左下肢はすべて正常、右下肢では膝関節の屈曲伸展と足関節の底屈とは正常、足関節の背屈は 2 と低下している。右下腿外側と足背とに感覚低下を認める。下肢の腱反射は左右とも正常である。

障害されているのはどれか。

- a 大腿神経
- b 閉鎖神経
- c 坐骨神経
- d 脛骨神経
- e 総腓骨神経

## 宮崎県感染症発生動向 ～ 12 月 ～

平成 26 年 12 月 1 日～平成 26 年 12 月 28 日( 第 49 週～ 52 週 )

## ■ 全数報告の感染症

1 類：報告なし。

2 類 ○結核 20 例 保健所別報告数を【図 1】に示した。  
患者が 8 例、無症状病原体保有者が 12 例であった。患者はいずれも肺結核であった。性別は男性 8 例・女性 12 例で、年齢別報告数を【表 1】に示した。

3 類 ○腸管出血性大腸菌感染症 2 例 宮崎市保健所及び中央保健所管内で各 1 例ずつ報告された。  
・1～4 歳で、主な症状として腹痛、血便がみられた。原因菌の血清型は O 121 (V T 2 産生)。  
・20 歳代で、主な症状として腹痛、発熱がみられた。原因菌の血清型は O 111 (V T 1, 2 産生)。

4 類 ○E 型肝炎 1 例 宮崎市保健所管内で報告された。  
50 歳代で、主な症状として全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常がみられた。  
○つつが虫病 1 例 宮崎市保健所管内 4 例、都城保健所管内 2 例、日南保健所管内 5 例及び小林保健所管内 6 例であった。年齢別報告数を【表 2】に示した。主な症状として頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹がみられた。  
○日本紅斑熱 2 例 宮崎市保健所管内及び日南保健所管内で各 1 例ずつ報告された。  
・60 歳代で、主な症状として発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常がみられた。  
・70 歳代で、主な症状として発熱、発疹がみられた。

5 類 ○後天性免疫不全症候群 1 例 宮崎市保健所管内で報告された。40 歳代男性で AIDS。指標疾患はニューモシスティス肺炎であった。  
○侵襲性肺炎球菌感染症 1 例 宮崎市保健所管内で報告された。70 歳代で、主な症状として発熱、嘔吐、意識障害、項部硬直、髄膜炎、菌血症がみられた。ワクチン接種歴は 1 回であった。  
○水痘 (入院例) 1 例 宮崎市保健所管内で報告された。0 歳で、臨床診断例であった。主な症状は発熱、発疹で、ワクチン接種歴はなかった。  
○梅毒 3 例 宮崎市保健所管内、都城保健所管内及び日向保健所管内で各 1 例ずつ報告された。いずれも無症状病原体保有者で、男性 1 例・女性 2 例であった。年齢別は 20 歳代 2 例、60 歳代 1 例であった。  
○播種性クリプトコックス症 1 例 宮崎市保健所管内で報告された。70 歳代で、主な症状として発熱、意識障害、項部硬直がみられた。

## ■ 5 類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は 5,901 人( 定点あたり 151.1 )で、前月比 238% と大幅に増加した。また、例年の 105% と多かった。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザと RS ウイルス感染症であった。

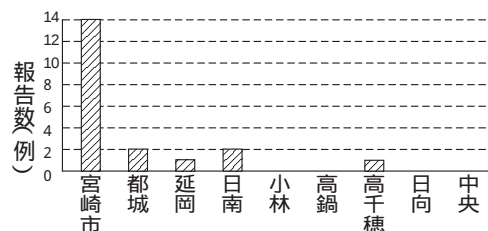


図 1 結核 保健所別報告数

表 1 結核 年齢別報告数( 例 )

1～4 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	90 歳代
1	2	2	1	1	5	3	4	1

表 2 つつが虫病 年齢別報告数( 例 )

5～9 歳	30 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代
1	1	1	3	5	6

前月との比較

	2014 年 12 月		2014 年 11 月		例年との比較
	報告数 (人)	定点当 たり(人)	報告数 (人)	定点当 たり(人)	
インフルエンザ	1,746	29.6	5	0.1	
RS ウイルス感染症	222	6.2	183	5.1	
咽頭結膜熱	145	4.0	122	3.4	
溶レン菌咽頭炎	384	10.7	243	6.8	
感染性胃腸炎	2,775	77.1	965	26.8	
水痘	258	7.2	238	6.6	
手足口病	126	3.5	77	2.1	
伝染性紅斑	4	0.1	1	0.0	
突発性発しん	130	3.6	144	4.0	
百日咳	0	0.0	0	0.0	
ヘルパンギーナ	35	1.0	67	1.9	
流行性耳下腺炎	32	0.9	28	0.8	
急性出血性結膜炎	1	0.2	0	0.0	
流行性角結膜炎	41	6.8	35	5.8	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	0	0.0	0	0.0	
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	1	0.1	0	0.0	

例年同時期( 過去 3 年の平均 )より報告数が多い  
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

インフルエンザの報告数は 1,746 人( 29.6)で、前月の約 35 倍、例年の約 8.3 倍であった。日南( 118.0)保健所からの報告が多く、年齢別では 5 歳未満が全体の 14%、5 ～ 9 歳が 32%、10 ～ 14 歳が 29%、15 ～ 19 歳が 6 %、20 ～ 59 歳が 16%、60 歳以上が 3 %を占めた。

RS ウイルス感染症の報告数は 222 人( 6.2)で前月の約 1.2 倍、例年の約 2.0 倍であった。高千穂( 11.0)、都城( 9.2)保健所からの報告が多く、年齢別では 1 歳が全体の約 4 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 2,775 人( 77.1)で前月の約 2.9 倍、例年の約 0.9 倍であった。小林( 175.7)、日南( 117.3)保健所からの報告が多く、年齢別では 1 ～ 2 歳が全体の約 4 割を占めた。

## ■ 月報告対象疾患の発生動向 12 月

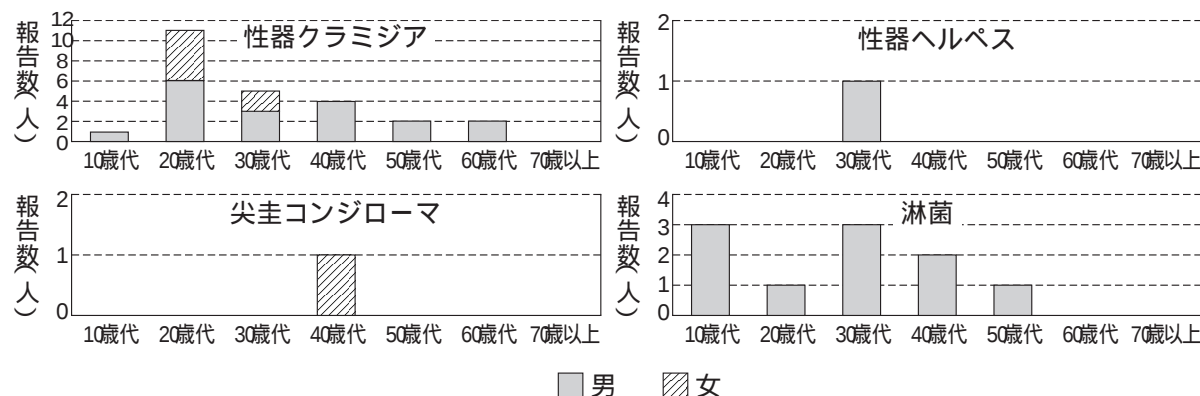
### □ 性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数 13

定点医療機関からの報告総数は 37 人( 2.9)で、前月比 106%と増加した。また、昨年 12 月( 2.3)の約 1.2 倍であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症 報告数 25 人( 1.9)で、前月と同程度、昨年 12 月の約 1.3 倍であった。年齢別では 20 歳代が全体の約 4 割を占めた( 男性 18 人・女性 7 人)。
- 性器ヘルペスウイルス感染症 報告数 1 人( 0.08)で、前月の約 0.3 倍、昨年 12 月の約 0.1 倍であった( 男性 1 人)。
- 尖圭コンジローマ 報告数 1 人( 0.08)で、前月と同じ、昨年 12 月の 0.5 倍であった( 女性 1 人)。
- 淋菌感染症 報告数 10 人( 0.77)で、前月の 2.0 倍、昨年 12 月の 5.0 倍であった。10 歳代及び 30 歳代がそれぞれ全体の 3 割を占めた( 男性 10 人)。



### □ 薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数 7

定点医療機関からの報告総数は 21 人( 3.0)で前月比 100%と横ばいであった。また昨年 12 月( 2.7)の約 1.1 倍であった。

#### 《疾患別》

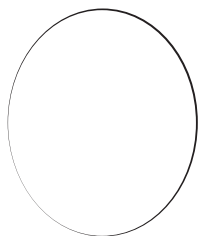
- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 報告数 19 人( 2.7)で、前月と同程度、昨年 12 月の約 1.1 倍であった。70 歳以上が全体の 7 割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 報告数 1 人( 0.14)で、前月及び昨年 12 月と同じであった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症 報告数 1 人( 0.14)であった( 前月及び昨年 12 月報告なし)。

( 宮崎県衛生環境研究所 )

## ■ 病原体検出情報( 微生物部 )

	検 出 病 原 体	件
ウ イ ル ス	インフルエンザウイルス A H 3 型	6
	コクサッキーウイルス A 10 型	1
	コクサッキーウイルス A 16 型	1
	ライノウイルス	7
	RS ウイルス	11
細 菌	Bordetella pertussis( 百日咳菌 )	4
	O 111 抗原凝集抗体( × 40 倍 )	1
	EHEC( 腸管出血性大腸菌 )( O 111 H 7 VT 1, 2 )	1
	EHEC( 腸管出血性大腸菌 )( O 121 H 19 VT 2 )	1
	EPEC( 腸管病原性大腸菌 )( O 20 H 6 eae )	1
	EPEC( 腸管病原性大腸菌 )( O 55 H 7 eae )	1
	EPEC( 腸管病原性大腸菌 )( O 145 H UT eae )	1
	Salmonella Infantis( O 7 r 1, 5 )	1
	Salmonella Schwarzengrund( O 4 d 1, 7 )	1

## メディアの目



## 子どもの貧困を取材して

共同通信社 宮崎支局長

いけ たに たか し  
池 谷 孝 司

「この子、前歯がないな。親の経済状態は大丈夫か」。子どもを見ると、ついそんなことを考える。厳しい家計は健康を直撃する。高熱の子に「我慢しなさい」という親はいないが、歯の治療は後回しにされがちだから、「虫歯は家計のバロメーター」になってしまう。

昨年7月、宮崎に異動するまで東京の社会部で教育担当デスクをしていた。2009年、政権が自民党から民主党に移る少し前から「子どもの貧困」を取材し、1年間新聞連載した。それを「ルポ 子どもの貧困連鎖 - 教育現場のs.o.sを追って」(光文社)という本にまとめてもうすぐ3年。子どもの貧困が常に頭にあるのはそのせいだ。

赴任先が決まり、宮崎日日新聞の連載「だれも知らない～みやざき子どもの貧困」を読み返した。毎回、悲惨な事例が出てきて「地方はより深刻かも」と思えた。

「だれも知らない」というのは、その通りだ。今も「日本にあるの? ごく一部だよ」と言われる。6人に1人の子が平均的な所得の半分未満で暮らし、貧困状態にあるのに。それでも「子どもの貧困対策推進法」ができ、やっと広く認識されるようになった。

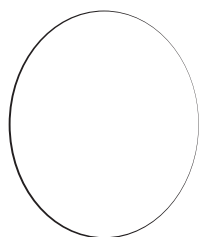
貧困が見えにくいのは、見ようとしないと見えない上、当事者が隠すからだ。子どもだって

貧乏だと思われるのは嫌だ。今は百円ショップやユニクロで安くてそこその物を買える。スマホだって皆持っている。外見だけでは分らない。だからこそ、「あれ?」と思ったら「大丈夫?」と声を掛けることが大切だ。

私が取材した定時制高校の女子生徒は家庭の事情でアルバイトを三つ掛け持ちし、深夜も働いて、終電後、駅前の多目的トイレで寝泊まりしていた。半年取材を重ねると「親にも言っていないんですが」と話してくれた。腹痛でも病院に行けない無保険の子、親の借金から保育園児が車上生活していたケース、前日の給食のパンと牛乳を朝食として出す保健室に集まる小学生も取材した。どれも献身的な教師が支えたから見た貧困だ。服の汚れを見つけ、「おなかがすいた」という声を聞いても見逃す教師は少なくない。それでも、気づく機会が一番多いのは学校だろう。特に保健室の養護教諭は貧困や虐待に気づく機会が多い。

医師や歯科医もその可能性が大きい。「おかしい」と感じたら、ぜひ「お節介」をお願いしたい。解決は容易でないが、親に「大丈夫ですか」と声を掛け、関係者と連絡を取って子どもの生活が少しでも改善できれば、貧困の連鎖を断つことに一歩近づくはずだ。

## 宮崎大学医学部だより

機能制御学講座  
- 応用生理学分野 -まるやま ますぎ 教授  
丸山 真杉 教授

応用生理学分野(旧 生理学第二講座)は宮崎医科大学創設に伴い教室開講 40周年を迎え、また、平成 7 年より丸山真杉先生が教授に就任されて 2 年目となります。教室の近状として去年平成

26 年 4 月より基礎臨床研究棟 3 階南に位置していた教室が 5 階東に移転しました。施設としては、P 2 レベルの遺伝子組換え生物も扱える部屋を新設し、分子生物学的な研究にさらに重きを置けるようになりました。同じ 5 階フロアには、統合生理学分野(旧 生理学第一講座)、遺伝子組換え動物の短期飼育・動物実験も行えるフロンティア科学実験総合センター・生体生理機能解析ラボと集約され、従来の“生理学”的な研究手法も健在で、研究活動がし易い環境が整ったのではないかと思います。

また、教室員のご紹介として、丸山教授が去年平成 26 年 4 月より医学部長に就任されました。新しい教授室に落ち着かれる間もなく、医学部長としての公務に加え、学生の講義、教室員との研究打ち合わせと多忙な毎日を送られています。他の顔ぶれとしては、准教授の中島、助教授のラダ・マジェスタ(インド)、ハリシュクマール・マジェスタ(インド)、教務職員の大村さゆりがスタッフとして在籍しています。また、大学院生として山口優也、ユッタナ・ペンジャム(タイ王国)、チャヤボン・ジュタボン(タイ王国)と、教室員の半数が外国籍の国際色豊かな教室の 1 つです。また来年度から新たに外国籍の留学生・大学院生が加わり、ついに教室の日本人

よりも外国人が多くなる予定です。このような環境ですので、タイ王国の Prince of Songkla University や中国・上海交通大学からの医学部生の短期留学受け入れや、インドの Indian Council of Medical Research との共同研究等、国際交流にも積極的な参加をしています。

研究面においては、各教室員は「自分の興味あるテーマを、自由に、楽しく」をモットーに以下の研究を、細胞から実験動物を使用した生体レベルで行っています。

細胞線溶と細胞運動：線溶酵素の役割には血栓の溶解以外にも、細胞の運動性や機能亢進といった細胞線溶機構が存在し、癌細胞の浸潤・転移、炎症、血管新生、創傷治癒などの現象に深く関わっています。現在、線溶酵素やその阻害因子と糖尿病罹患における創傷治癒遅延などの病態との関連性や制御機構の解明を進めています。

希少糖の生理活性：希少糖とは、自然界に大量に存在する「天然型単糖」に対して、微量しか存在しない単糖類と定義されています。この中で、新規のリボース誘導体を用いて、その生理活性機能を探求しています。今まで、ある種の固形癌に対する増殖抑制や転移・浸潤抑制効果が確認できました。この希少糖の癌の微小環境内における間質細胞や炎症細胞との間で癌代謝や相互作用への関与に対する研究を進めています。

学生教育においては、2 年生の医科生理学の講義・実習を担当しています。学生の間では進級の鬼門であるとか、ウサギを使った深夜まで続く実習の過酷さが伝承されているようですが、学問としての医学・生理学への探求心と、その基礎知識が臨床へと繋がるように考えられる応用力を持てる学生を 1 人でも多く輩出したいと考え、学生と接していきたいと思っています。

( 准教授 中島 融一 )

## 各都市医師会だより

### 南 那 珂 医 師 会

南那珂医師会では、毎月日南と串間でそれぞれ「在宅ケア研究会」を開催している。日南では今年 1 月で 23 回目の研究会だったので約 20 年前から継続していることになる。20 年も前から在宅医療の必要性に着目していたのかと驚いたが、当時、当医師会が「かかりつけ医モデル事業」を担当、その事業の一環としてかかりつけ医とはどうあるべきかを検討し、在宅医療にも目を向けるべきとこの研究会が設けられたようである。初期の頃の姿は不明であるが、現在は医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、行政から日南保健所、日南市地域医療対策室等の担当者が参加しての会である。内容は活動状況や具体的事例の報告、抱えている問題、取り組むべき課題の提言等を事業所や団体ごとにしてもらい、全体で意見を出し助言をしたり、あるテーマを決めておいて、グループごとにその対応策を考えたり、講師を招いて勉強会をしたりと他職種間のコミュニケーションと情報共有の場を提供している。

これとは別に日南市が事業主体となって昨年設置された「日南市在宅医療・介護連携推進協議会」に医師会として参加している。在宅医療、介護をするにあたり、関係者が必要な情報、欲しい情報を円滑に共有できる IT システムの開発を目的とした事業で、協議会の中で「ネットワーク構築 W G」に参加して市の事業を支援しているが、ここに在宅ケア研究会 20 年の経験、成果が活用されるであろうと期待している。

国の医療政策方針からみて、在宅医療は増々重視されるであろう。関係者に役立つ情報を提供できる研究会に発展していくことを願う。

（中村 彰伸）

### 宮 崎 市 郡 医 師 会

宮崎市夜間急病センター小児科が内科・外科と分かれ、県立宮崎病院敷地内に移転して 9 か月が経過しました。移転前には様々なご意見、ご批判がありましたが、小児科医会と宮崎大学小児科、県立宮崎病院小児科の先生方のご尽力と工夫で、何とか大過なく年を越すことができました。特に快く二次救急の患者を受け入れていただいている、県立宮崎病院小児科の先生方には感謝を申し上げます。また、宮崎市郡薬剤

師会、宮崎県放射線技師会の先生方にもご協力いただき、誠にありがとうございます。時間外の小児診療はたくさんの方々に支えられているということが実感できる 9 か月でした。今後ともよろしくお願いいたします。（高村 一志）

### 都 城 市 北 諸 県 郡 医 師 会

新医師会病院の 4 月開院に向け準備を進めておりますが、現在の医師会病院と同時に診療が出来ないので色んな問題があります。入院患者さんの数を減らし、その間の入院や手術が何時

まで可能か？CT, MRI等検査, 救急センターの運営は続けられるか？など移転となると多くの課題が出てきてます。今, 苦しいですが, きっと笑顔で4月1日を迎えられるよう会員・スタッフ皆で頑張ります。(山路 健)

### 延 岡 市 医 師 会

延岡市医師会病院は現在の地に10年前に移転してきました。その時購入したMRIやCTが更新の時期を迎え, 昨年はMRIを1.5Tから3Tに, 本年はCTを16列から32列に更新します。最初の購入は全額補助金で可能でしたが, 今回は1億円ほどの手出しが必要でした。この10年間で医師会病院の資金は次第に減少してきており, 更なる減少はとても辛いものでしたが, 投資しなければじり貧になりますので, ここは頑張っ

### 日 向 市 東 臼 杵 郡 医 師 会

年末の12月24日に看護学校の職員会議を開催いたしました。協議事項は, 2学期の反省を中心に, 学業成績, 実習の状況報告が主なものでした。状況報告を聞いて感じることは, 高校から現役で入学してきている学生の学習意欲や実習意欲の低下です。中には, 卒業間近のこの時期に進路選択の間違いを口にする学生もいます。

当看護学校では, このような学生が出ないよう入試段階での面接チェック, 入試科目の変更, 入学後のこまめな面談を行っているところですが, 改善につながらないのが現状です。

来年度は, 将来を見据えた進路指導をしていただけるよう高校と連携を取っていきたいと考えています。(渡邊 康久)

### 児 湯 医 師 会

年末の衆議院選, 県知事選のダブル選挙で, 県医師会の推薦する候補者が全員当選され, ホッとしたところで新しい年を迎えました。

今年はアベノミクスはどうなるのかなど, 我々の業界もまだまだ先行き不安なことばかりですが, どうかこの一年が良い年になりますように願ってやみません。(内田 俊浩)

### 西 都 市 西 児 湯 医 師 会

正月明けからインフルエンザの大流行で宮崎県はついに定点あたりの患者発生数全国1位となりました。西都地区では内科夜間救急外来の体制が取れなくなった状況での大流行です。休日明けは特に高熱の患者さんが朝早くから受診されます。宮崎市夜間急病センターを受診された患者さんも多くいます。内科夜間外来が休診となってもう2年近くなるため, 早急に何らかの形で地域住民への救急医療体制を整える必要があります。宮崎市郡医師会の先生方にはご迷惑をおかけしており申し訳なく思っております。(杉尾 克徳)

### 西 諸 医 師 会

小林看護医療専門学校が今春の開校に向けて最終段階に入りました。医師会, 二市一町と学校が一丸となって3年近く協議を重ね, また卒業後の地元定着のための独自の奨学金制度の設立等, 会員の意見を集約しつつ準備を進めて参りました。小林駅南の, 遠くに霧島連山を望む素晴らしい地に, 将来の看護職を担う若者が集うことを期待しています。(矢野 裕士)

## — 各種委員会 —

## 介 護 保 険 委 員 会

と き 平成26年11月17日(月)

ところ 県医師会館(テレビ会議：西諸)

金丸常任理事により開会，河野会長の挨拶があった。

まず，任期満了に伴う委員改選により，委員長に石川智信先生，副委員長に三股俊夫先生の就任，他の委員メンバーについて報告があり，自己紹介があった。

また，河野会長より石川委員長へ「地域包括ケア・認知症への対応」について諮問した。

その後，石川委員長の司会進行により以下のとおり報告，協議が行われた。

1. 主治医研修会について

石川委員長より毎年県から委託を受けて行う介護保険主治医研修会について説明があり，実施要領を確認の上，企画を行った。

2. 地域包括ケアシステム構築に向けての各郡市医師会の取組みについて

3. 認知症への取組み(認知症地域医療支援事業等)について

金丸常任理事より県からの委託事業「認知症地域医療支援事業」等について説明があり，一括して意見交換を行った。

4. 特養入居者に係る医療行為について

立元常任理事よりアンケート実施について説明があり，集計結果の途中報告があった。

5. 県医師会在宅医療協議会について

6. 在宅医療推進のための連携・スキルアップ研修事業について

一括して牛谷常任理事より説明があった。連携・スキルアップ研修事業については補助

金分配の説明，各郡市医師会の企画等について協力を依頼した。

出席者 - 石川委員長，三股副委員長，牛谷・山路・榎本・上山・川越・矢野・鳥取部委員

(県医)河野会長，富田副会長，立元・牛谷(重複)・金丸常任理事，米澤理事，竹崎次長，鳥井元課長補佐

## 健 康 ス ポ ー ツ 医 学 委 員 会

と き 平成26年11月27日(木)

ところ 県医師会館

佐藤理事より開会，河野会長の挨拶に続き，本会全理事協議会において，本委員会委員長に押川紘一郎先生，副委員長に田中俊正先生，帖佐悦男先生の就任が承認されたことが報告された。

次に，河野会長から諮問事項「スポーツメディカル医療機関ネットワーク(スポメディネット)の再検討について」が示され，任期中に協議・答申することとなった。その後，押川委員長の進行で報告・協議が行われた。

## 報 告

1. 平成 25 年度県民健康セミナーについて  
2 月 16 日に開催した県民健康セミナー「豊かな人生のために」について報告があった。
2. 平成 25 年度県医健康スポーツ医学セミナーについて  
平成 26 年 2 月 8 日に開催した県医健康スポーツ医学セミナーについて報告が行われた。

## 協 議

1. 平成 26 年度県民健康セミナーについて  
健康教育委員会との合同の講演形式で本年度も健康スポーツ医学委員会から講演を 1 題提案して行うことが承認され、テーマ・講師案等について検討を行った。健康教育委員会において最終決定される。
2. 平成 26 年度県医健康スポーツ医学セミナーについて  
テーマ・講師案について様々な意見が出された。執行部で検討し、平成 27 年 2 月中に開催することが承認された。
3. 宮崎県スポーツドクター連盟について  
本連盟役員について、会則にしたがい県医スポーツ医学委員会委員が務めることが承認された。また、平成 25 年度の歳入歳出決算、平成 26 年度事業計画・予算について協議し承認された。
4. 諮問事項「スポーツメディカル医療機関ネットワーク(スポメディネット)の再検討について」  
スポメディネットの今後の方針について、まずは委員宛てにパンフレット等を送付し、実際のどのくらいの利用があるか把握することとなった。
5. みやざき東京オリンピック・パラリンピックおもてなしプロジェクトとの関わり方について  
県が立ち上げた同プロジェクトへの関わり

方について、今後の動きをみて検討していくこととなった。

出席者 - 押川委員長、宮永・柳田・名越・森委員  
(県医) 河野会長、濱田副会長、佐藤・川野理事、久永課長、高山主事

## 健 康 教 育 委 員 会

と き 平成 26 年 12 月 1 日(月)  
ところ 県医師会館

小牧常任理事より開会、河野会長の挨拶に続き、本会全理事協議会において、本委員会委員長に中山健先生、副委員長に帖佐悦男先生の就任が承認されたことが報告された。次に、河野会長から諮問事項「県民への健康教育のすすめ方について」が示され、任期中に協議・答申することとなった。その後、中山委員長の進行で報告・協議が行われた。

## 報 告

1. 平成 25 年度健康教育事业について  
昨年度宮崎県医師会が開催した健康教育事业(宮日新聞への掲載等)、会員、各専門分科医会が行った健康教育事业について報告を行った。
2. 平成 25 年度宮崎県医師会県民健康セミナーについて  
「豊かな人生のために」をテーマに平成 26 年 2 月 16 日に開催した。183 名の参加があり大変好評であった。
3. 健康教育事业費補助事業について  
本年度より開始した同補助事業について説明があり、来年度も引き続き実施予定であることが報告された。

## 協 議

1. 平成 26 年度宮崎県医師会県民健康セミナー  
について

本年度の県民健康セミナーの企画を協議した。開催時期は平成 27 年 2 ～ 3 月の日曜または祝日の予定で、テーマを「あなたの身体大丈夫ですか?」とし、講演内容を健康スポーツ医学委員会からの 1 題、もう 1 題を「感染症について」とすることが承認された。

## 2. 諮問事項「県民への健康教育のすすめ方について」

任期中の答申のため、今後検討を重ねていくこととなった。

出席者 - 中山委員長, 帖佐副委員長, 高橋・松本・竹中・糸数・檜原・谷口委員  
(県医) 河野会長, 濱田副会長, 小牧常任理事, 久永課長, 高山主事

## 医 学 賞 選 考 委 員 会

と き 平成 26 年 12 月 25 日(木)

ところ 県医師会館

上田理事より開会, 濱田副会長の挨拶に続き, 本会全理事協議会において, 本委員会委員長に中山健先生, 副委員長に松岡均先生の就任が承認されたことが報告された。その後, 今年度の医学賞について協議した。

昨年発行された 3 巻第 1 号および第 2 号を対象とし, 各専門分科医会に事前に論文の推薦を依頼したところ, 4 つの論文について推薦があった。この 4 つ以外の論文も含め検討した結果, 「過疎地域に位置する当院の高齢者胆道内視鏡治療の現状と問題点」(井上龍二先生他 第 3 巻第 1 号) の 1 論文について, 地域に特化した内容である点等が評価され, 医学賞受賞候補論文として河野県医師会会長に推薦することとなった。

出席者 - 中山委員長, 松岡副委員長, 河野・濱田・小牧・上田・鮫島委員  
(県医) 牧野課長補佐, 高山主事

## 宮崎県医師会医療情報コーナー

県医師会館 1 階の「医療情報コーナー」では, 分かりやすい医療や介護の本, 闘病記のほか, 難病・認知症・健康増進や子育てに役立つ本・雑誌・DVD などを幅広く取り揃えています。県民の皆様への貸出もしておりますので, お気軽にお立ち寄りください。パソコン情報検索, ビデオ・DVD の視聴もできます。

開室時間 月～金曜日 10:00～19:00, 土曜日 10:00～18:00

休館日 日曜・祝日, 12 月 29 日～1 月 3 日, 8 月 14～15 日, 特別整理期間(3 日間)

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地

TEL 0985-22-5118 E-mail tosho@m-iyazakimedor.jp

「保険管理表」作成サービス

## 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会

と き 平成26年12月2日(火)

ところ 県医師会館

今回は県医師会の主催であることから立元常任理事の司会により開会。河野会長、佐藤福祉保健部長、渡邊病院局長の挨拶の後、事前に郡市医師会の意見も踏まえ、取りまとめた下記項目について要望し、意見交換を行った。これに対し県は現状を説明した上で、予算確保・維持に全力で取り組んでいくとの回答があった。

### 要望事項

1. 医師確保について(富田副会長)
  - ・県内医師会病院における医師確保の整備について(宮崎市郡医師会)
  - ・延岡市における医療体制の確保について(延岡市医師会)
  - ・医師輸出県からの脱却と「人財」の地産地消による医師不足対策(西諸医師会)
2. 子どもの発育段階に応じた医療の充実について(高村常任理事)
3. 宮崎県周産期医療体制の維持のために(濱田副会長)
4. スポーツランドみやざきについて(佐藤理事)
5. 女性医師等の勤務環境改善策について(荒木常任理事)
6. 看護学校の運営について(佐藤理事)
  - ・看護学校の運営、環境整備を含めた看護師等養成所運営費補助金の基準額の見直しについて(宮崎市郡医師会)
  - ・看護学校運営にかかる補助金の増額及び早期交付について(延岡市医師会)
  - ・臨地実習における実習指導者確保に対する補助金の増額、看護教育教材備品充実に

対する新たな事業の追加について(延岡市医師会)

- ・看護学校運営助成金について(児湯医師会)
7. 在宅医療推進のための提言(牛谷常任理事)
    - ・在宅医療について(宮崎市郡医師会)
  8. 救急医療について(小牧常任理事)
    - ・民間救急指定病院に対する公的補助金支給について(南那珂医師会)
  9. その他
    - ・エボラ出血熱患者に対応する第一種感染症指定医療機関の整備について(宮崎市郡医師会)
    - ・肝炎ウイルス検査および陽性者フォローアップ事業の推進について(宮崎市郡医師会)
    - ・地域災害拠点病院の高台移転に係る用地買収及び造成並びに建設費用の交付金制度の創設について(宮崎市郡医師会)
    - ・県西地区の支援について(都城市北諸県郡医師会)
    - ・非営利ホールディングカンパニー型法人について(延岡市医師会)

### 出席者

#### 【県福祉保健部】

佐藤部長、高原(福祉担当)・  
日高(保健・医療担当)次長、  
長倉医療薬務課長、松田長寿介護課長、  
川原障害福祉課長、瀧口健康増進課長、  
片平感染症対策室長

## 【病院局】

渡邊局長，緒方次長兼経営管理課長，  
松元県立病院整備対策監，  
横山経営管理課課長補佐(総括)・  
米良課長補佐(経営・財務担当)

## 【教育長】

内山スポーツ振興課健康教育担当

## 【医療薬務課】

重盛課長補佐，津田主幹(医務担当)，  
徳地主幹(地域医療担当)，  
児玉主幹(医師確保担当)，  
坂本副主幹(看護担当)

## 県医師会

河野会長，富田・濱田副会長，立元・吉田・  
小牧・荒木・池井・牛谷・金丸・佐々木・  
高村常任理事，上田・峰松・川野・佐藤・  
佐々木・岩村・米澤・鮫島・糸数・内村  
理事，大重事務局長，小川・竹崎次長，與・  
久永課長，田崎主事，杉田国保次長

## 県医師会在宅医療協議会入会のご案内

県医師会在宅医療協議会は，在宅医療に携わる医師の知識向上，情報交換，並びに在宅医療の普及を目的に平成 24 年 5 月に会員 130 名をもって設立されました。

年数回の研修会開催のほか，現在は地域ごとの在宅医療ネットワーク構築に向け，役員，世話人が奔走しています。また，在宅で困っていること，多職種連携の方法など会員同士の情報交換のためにメーリングリストを運用しています。

ご興味のある先生は，ぜひご入会いただき，いっしょに在宅医療を推進していきましょう。ご入会につきましては，県医師会地域医療課に入会申込書をご請求ください。

* 協議会に入会済みでメーリングリストに加入されていない先生は，事務局までメールアドレスをお知らせください。

お問い合わせ先 宮崎県医師会 地域医療課

TEL 0985 - 22 - 5118

## 医師会立看護学校担当理事連絡協議会

と き 平成 26 年 12 月 8 日(月)

ところ 県医師会館

佐藤理事の司会進行のもと、河野会長から、「本県の地域医療は医師会立看護学校の卒業生なしには成り立たない。医師会立看護学校の厳しい経営状況や新入生の確保の問題を県にご理解していただき、今後も県と医師会が協力して努力していきたい」という旨の挨拶があり、報告と協議に入った。

### 報 告

1. 平成 27 年度県に対する要望事項について
2. 平成 25 年度看護学校卒業生および平成 26 年度入学生の状況について
3. 医師会立看護学校卒業生就業状況(平成 17~24 年度)について
4. 医師会立看護学校運営状況について
5. 医師会立看護学校入学試験案内広告について
6. 平成 25 年度看護教育充実支援事業費補助金について
7. 第 45 回中四九地区医師会看護学校協議会について

### 協 議

1. 平成 26 年度看護師等養成所に係る補助金について

県医療薬務課より、看護師等養成所運営費補助金と看護師等教育環境整備事業と看護教育充実支援事業の 3 つの説明が行われた。看護師等養成所運営費補助金は今年度から国庫補助事業が廃止され、地域医療介護総合確保基金を財源として実施される。ただし、本年度は補助基準額の見直しをしないことが国の

条件の一つでもあったため、昨年度の条件と同様に実施している。県内就職率の高い養成所に少しでも多くの補助金が行くように、県では平成 25 年度から独自に 5 段階の調整率(0.96~1.04)を導入し、平成 27 年度まではこの調整率の幅で予算を確保する。全国の調整率とあまり変わらない形で設定しており、3 年間、状況や実績等を整理して、調整率の幅について考えていく。

看護師等教育環境整備事業については、県医師会から強い要望があり、地域医療介護総合確保基金による新規事業として確保した。この補助額は県内就職率に応じて 3 段階(80%以上が 200 万円、70%以上 80%未満が 150 万円、60%以上 70%未満が 100 万円)で設定し、医師会立の全課程が対象となる。地域医療介護総合確保基金は、いわゆる新たな基金である。出所が変わったので増額の可能性はあるが、基金の財源がとても少なく、増額できるか未定である。

看護教育充実支援事業は平成 27 年度が最終事業年度であり、教員等養成支援と臨床実習充実支援については、増額する方向で検討する。地域医療再生基金の積み増し分で配置したものであり、積極的な活用をお願いしたい。

2. 看護学校に関する問題点について

看護学校の現状について意見が交わされ、入学者の確保、新卒者の減少、男子学生の増加、入学者の学力、教員のメンタルケア、実習時間の減少、専任教員の確保等が課題とし

て上げられた。

実習施設の調整が厳しいとの意見も多く、県は「基本的には既存の学校が使っている実習施設は侵さないという暗黙の了解のはずである。医師会立の養成所には、1割を超えて入学者を入れてはいけなと厳しい指導をしているが、5年一貫の所はあまり厳しくなく定員の1.5倍を入れたりしており、実習施設の調整が難しくなっている。医師会立の養成所を侵してもらっては困ると、新しくできている3年課程の養成所には厳しく話している。必要があれば県からルールを守ってほしいと話す」と回答した。

専任教員養成講習会について県から説明があった。県内の専任教員のうち未受講者12名は来年度以降受講の必要があるが、宮崎での開催の目処は立っていない。今年度は12の都道府県で開催される。来年度は九州では福岡のみが実施する。福岡には宮崎から2～3人を受け入れてもらっていたが、各県から1人のみの受け入れになるかもしれない。7月の九州各県看護担当係長会議にて、福岡県以外の九州各県で持ち回りでの開催を検討していくべきではないかとの議題が上がった。宮崎県も将来的に実施しなければならない。宮崎で開催する場合は、e-ラーニングを最大限導入して、専任教員の負担を減らして実施したい。受講料の助成も課題である。九州・関西での開催や1年間の通信制コースのご利用も検討いただきたい。

新たな基金になり県の負担が1/3あるから専

任教員養成講習会の開催が厳しいという県の主張に対しては、消費税から社会保障に充てるという約束で基金ができ、医療や介護に使うように新たな予算が県に来ているので、負担を理由に開催ができないのはおかしいのでしっかり主張してほしいとの意見があった。

平成31年までに看護職員を50万人増やすとの大目標だが、養成の規制の厳しさは矛盾しているとの意見に対しては、県は「国が定めたカリキュラムや規則等に基づき実施している。看護教育の質は維持する。資格を持っていたも今は働いていない人たちを働く場に引っ張り出そう(掘り起こし)と国も力を入れようとしている。宮崎の場合、養成所の定員を増やし過ぎても実習施設の取り合いの問題もあるので、指導しながら行う」と回答した。

出席者—

宮崎—弘野・白尾副校長、中村事務長  
都城—野田副校長・担当理事、若松事務係長  
延岡—野田学校長、佐藤副校長・担当理事、  
井野内事務長

日向—渡邊学校長、椎葉事務員  
児湯—坂田学校主事(医師会理事)、  
黒木事務長

西諸—内村校長、遊木事務局長  
県医療薬務課—坂本副主幹、村田主査、  
丹波主任技師

(県医) 河野会長、富田副会長、立元常任理事、  
佐藤(重複)・内村(重複)理事、  
久永課長、瀬戸山主事

## 九州医師会連合会第 108 回臨時委員総会

と き 平成 26 年 11 月 21 日(金)

ところ 大分オアシスタワーホテル

九州医師会連合会長である近藤大分県医会長の挨拶の後、横倉日医会長が来賓祝辞を述べられた。

来賓祝辞

横倉日医会長

各地で様々な災害が発生している。特に 8 月の広島市における大規模な土砂災害や 9 月末の木曽御嶽山の噴火など多くの方々が犠牲になった。被災された方々に心からお見舞いを申し上げるとともに、お亡くなりになられた方々、ご家族、関係者の皆様に衷心よりお悔やみ申し上げます。また、これらの災害では、地域医師会、会員が避難所での健康管理や検案などでご活躍された。国民の生命を守るのは医師の専門家集団である我々医師会であると強く実感をした。

本日、衆議院が解散をした。消費税増税先送りの判断を国民に問うということが理由の一つである。増税すると経済成長が腰折れをするという心配からであるが、経済成長がないと社会保障財源が枯渇してしまう。非常に残念なことであるが、財源確保に向けて政府に訴えていく。一方、控除対象外消費税の問題については、もう少し詰める時間が出てきた。医療機関の立場によって消費税の負担率が違い、課税転換を主張する意見と、非課税のままの方がいいという意見など、様々な立場がある。10%時に税制上の解決を図るという表現で意見を取りまとめたが、時間が出来たので解決策を作っていかなければならないと考えている。

産業界からの医療への参入の圧力がかかっている。一方で我々は公的医療保険で医療をして

いるがその財源が厳しいのも事実である。この二つの間でどう対応していくか、国民の健康を守るために医療を行っているという視点を忘れずに対応をしていきたい。

報告

第 34 回常任委員会について

直前に開催された常任委員会について報告があった。

第 114 回九州医師会連合会医学会および関連行事について

翌日、翌々日に開催される医学会及び関連行事について日程の説明があった。

議事

第 1 号議案 第 114 回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)に関する件

翌日開催される総会に上程する宣言・決議(案)について検討し、原案通り承認された。

講演

いわゆる「非営利ホールディングカンパニー型法人」構想について

今村日医常任理事

複数の医療法人や社会福祉法人等について、一体的な経営を可能とする「非営利ホールディングカンパニー型法人制度(仮称)」を創設することが「日本再興戦略」の中に盛り込まれ、1 年間をかけて制度上の措置を目指すこととされた。

これに対して日医は、この名称自体が株式会社の持株会社を想起させ医療側にとっては抵抗感があり時期尚早である等と反対しているが、すでに閣議決定されており、構想自体を覆すこ

とは不可能という当局の強い主張であった。

そこで日医は別の考え方を対峙させることで、この制度を日医の考えのものにしていきたいと考えている。私が出席をしている厚労省検討会の案では、名称は「地域連携型法人」に、地域医師会が積極的に関与できる制度とし、事業範囲が都道府県単位から二次医療圏に狭められるなど、ある程度日医の考えが反映されてきた。参加できる法人は医療法人だけでなく社会福祉法

人も対象であるが、社会福祉法人の中でも医療を行っている社会福祉法人だけに限定するよう主張している。今後も医療の非営利性を堅持した制度になるよう国に要請していく。

出席者—河野会長、富田・濱田副会長、  
立元・吉田常任理事、大重事務局長、  
小川・竹崎次長、與・久永課長、  
大野課長補佐、喜入主事

## 女性医師メーリングリストのご案内

仕事や育児のちょっとした悩み相談やお役立ち情報の提供など、女性医師同士で気軽に情報交換を行いませんか。女性医師であればどなたでも参加できます。医師会の会員・非会員、現在の仕事の有無などは問いません。

お申し込み

E-mail: [wdr-admin@miyazakimed.or.jp](mailto:wdr-admin@miyazakimed.or.jp)

FAX : 0985-27-6550

「女性医師メーリングリスト申込書」は、宮崎県医師会ホームページのDoctors Pageからダウンロードできます。

お問い合わせ

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

担当 野尻・竹崎

## 九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会

と き 平成 26 年 11 月 22 日(土)

ところ 大分オアシスタワ - ホテル

挨拶 近藤稔九州医師会連合会長  
みなさんおはようございます。早朝からの合同協議会にご出席いただきまして有難うございます。昨夜の大分の夜はいかがでしたでしょうか。また、今日お越しいただきました方には、ゆっくりと大分の温泉に入りながら、日頃お疲れになっているお体を癒していただければ、幸いに存じます。

日本医師会長の横倉先生には、大変お忙しい中にもかかわらず九州医師会連合会にご出席いただきまして大変有難く思っております。また今日は、合同協議会で中央情勢につきまして、ご報告をいただくことになっております。この合同協議会では、予め日医に対する意見・要望等を九州各県に照会し、それらに対する日医の回答・見解も含めてお話をしていただくことになっております。

今年度も各県より 5 題のご意見・ご要望がございます。

A i)における諸問題(熊本県)

児童生徒の健康情報の管理分析が必要

(熊本県)

医師臨床研修制度の見直しについて

(鹿児島県)

「地域包括診療料」と「地域包括診療加算」について(沖縄県)

柔道整復師の諸問題(熊本県)

現在は、少子高齢化社会が進んでおり、過疎化におきましては消滅する危険のある状況の自治体がございます。地域医療を我々が支えてい

くには大変難しい問題があるのではないかと考えております。これからは現場の声を日医と共に上げ、日医からも適切なご指導をいただきながら努めて参りたいと思っております。また、講演終了後にいくつかの質問をお受けしてもいいということですので、後程、ご発言いただきますようお願い申し上げます。どうぞ最後までご清聴お願いいたしまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

座長選出

座長については、慣例として九州医師会連合会長が務めているとの説明により、近藤会長が座長に選出された。

中央情勢報告

座長である近藤会長により、横倉日医会長のご略歴の紹介の後、会が進められた。事前に照会のあった質問等を踏まえ、横倉会長より「中央情勢報告」と題し講演が行われた。

私たち医師というものは、国民の健康・生命を守るということが一番である。そういう仕事をしている専門職が一致団結して、強い医師会

という集団を作っていかなければならない。医師会というものを医学生にも理解してもらうため、全国の医大生宛てにDOCTOR -ASEという雑誌を6万部無料配布し、最近では、高校からの要望も増えてきている。ただ一方では、学校には届いているが学生には届いていないという現状もあるようだ。会員が増えると、医師会独自の情報収集・分析能力の強化や、機動力を発揮できる体制が強化される等の利点が増えてくる。まずは、郡市医師会のみに参加している会員が全国に約35,000人もいるので、この人達を日医まで入会させたいと思っている。

2025年という団塊の世代の方々が75歳以上になる年であり、その時を見据えて、どういう地域医療体制を作っていくか、その中心にはかかりつけ医が必要ということを我々は国民にいかに関心を持ってもらうかである。人が住める街、これには国土交通省が調査したところ、人口500人が住める街には何の施設があるのかという結果で、郵便局と診療所であった。医師会活動というのは、郡市区医師会の活動が基本であると思っている。この郡市区医師会が、国民にいちばん身近なところにあるので、国民に信頼されるようにしたい。我々の目標は、国民にとって必要とする医療が過不足なく受けられる社会を作り上げていくことである。

## 意見交換

講演終了後、意見交換に入った。熊本県よりA市における諸問題、児童生徒の健康情報の管理分析等の説明がなされた。また柔道整復師の諸問題として、打撲・ねんざ・挫傷のみに原則限られている保険請求が、慢性疾患・変性疾患にも施術保険請求されているのが現状とし、保険請求を正しく行っているか保健所の立ち入り検査を定期的に行う、保険診療の受領委託払いの廃止、保険診療を全般的に廃止、養成校の新設を認めない、施術所は一代限りとして新規開業を禁止する、の5点について政府に働きかけを求めた。これに対し横倉会長は、柔道整復療養費は厚労省に専門の柔道整復療養検討専門委員会を設置し、適切な療養費になるように検討し、療養費の改定を行ってきている。これまではこのような審議会の場が全くなかったことからすれば、少しは進歩したと考えている、とした。

出席者—河野会長、富田・濱田副会長、  
立元・吉田・荒木・池井・金丸・  
佐々木(幸)・高村常任理事、上田・  
峰松・米澤理事、大重事務局長、  
小川・竹崎次長、與・久永課長、  
大野課長補佐、喜入主事

## 第 114 回九州医師会連合会総会・医学会

### 総 会

開会の辞，国歌斉唱の後，平成 25 年 11 月 1 日から平成 26 年 10 月 31 日までに逝去された，九医連会員 25 名の御霊に対し黙祷が捧げられた。引き続き，近藤九医連会長の挨拶，横倉日医会長・広瀬大分県知事・釘宮大分市長の祝辞があった。

挨 拶 近藤稔九州医師会連合会長

九州医師会医学会は，古くは明治 25 年より開催され，以来今日に至るまで実に 120 年以上にわたり，我が国における医学の向上発展に寄与して参りました。今日における九州医師会医学会の発展があるのも，九州各県先人の並々ならぬご尽力と結束力の賜物であり，本日，ここに第 114 回目の歴史ある大会を無事迎えることができましたことに対し，九州各県医師会の諸先輩方並びに関係各位へ，改めて敬意と感謝の意を表します。

さて，政府は成長戦略に医療を掲げ，安全で安心な医療を格差なく公平に提供できるようにする規制を「岩盤規制」と称し，これを打破しようとしています。混合診療等の解禁を意図しております。また，医療と介護などを一体的に提供する非営利ホールディングカンパニー型法人制度の創設も検討されております。市場経済社会は営利を第一に考えています。医療に営利を導入すれば，安全で安心な医療は提供できず，地域医療の衰退が危惧されます。かかる状況の中，我々は国民の健康と安心を担う専門家集団として日医綱領に則り，医師としての高い倫理観と使命感を胸に人間の尊厳が大切にされる社

と き 平成 26 年 11 月 22 日(土)

ところ 大分オアシスタワーホテル

会の実現のために邁進しなければならないと考えております。

後程，その実現に向けて宣言・決議案を上程いたしますので，会員各位の絶大なるご理解とご支援をお願い申し上げます。

### 来賓祝辞

#### 1. 横倉義武日本医師会長

私は 2 期目の会長就任にあたって，「地域を支え，組織を強化し，将来の医療を考える」という 3 つの基本方針を掲げました。今後，団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を見据え，地域包括ケアを推進していくことが求められております。その中心を担っていかなければならない地域の医師会には，「かかりつけ医」を中心として，地域行政と一体となって，地域の実情を反映した，地域に即した形での「まちづくり」に大きな期待が寄せられています。

一方，国の債務は 1,000 兆円を超え，我が国の経済成長は伸び悩み，労働力人口も今後減少することが見込まれています。また，高齢化と医療技術の進歩によって医療費の増加にも歯止めがかからない状況となっており，今後も財政を緊縮しようとする立場から，規制改革や成長戦略の名のもとに，公的医療保険給付の範囲を狭める圧力が続いていくことが予測されますが，その一方で，経済を再生するために，経済界は年間約 40 兆円に上る医療費に何とか参入しようと様々な仕掛けをします。その一つとして「選択療養」という提案がありましたが，医療における規制の多く

は、国民の生命と健康を守るためであり、我々医療提供者側を守るものではありません。しかし、一方で医療提供への自由度を少し広げてほしいという要望があることも事実ですので、そこをよく見極めて、変えるべき規制は変え、守るべき規制は守らなければなりません。最終的には「患者申出療養」という名称になり、また、安全性・有効性の確認と将来的な保険収載が組み込まれたことで、我々としては従来の保険外併用療養における評価療養の一つという落としどころを見出すことができたと思っています。今後、この制度が蟻の一穴にならないように、健康保険法改正の仕組み及び中医協の議論の中でしっかりと手当てしていくよう準備しているところであります。

こうした中、安倍首相は来年 10月の消費税率 10%への引き上げを 1年 4月に 1年半先送りするとともに、衆議院を解散し、来月 14日に総選挙を実施すると発表しました。日本医師会としては、社会保障が雇用などを通じて日本経済を支えている現実があり、社会保障と税の一体改革は予定どおり実施すべきであるとの見解に変わりはありません。引き続き政府に対し、社会保障財源の確保に向けて強く圧力をかけ続けてまいりたいと考えております。

今後、先行き不透明な局面を迎えることが想定されますが、いかなる状況になりにしましても、国民医療を守るという立場から執行部一同、不退転の覚悟で立ち向かってまいります。

## 2．広瀬勝貞大分県知事

素人から見ても医療を巡る環境が随分変わってきていると感じます。医療技術は日進月歩し診断や治療も複雑化・多様化しております。また、少子高齢化が進み、疾病構造も変わってきています。人口減少が進んでおり、医療

提供体制の偏在、すなわち過疎・過密の問題をどうするかも課題であり、見直しをしないといけない状況です。地方も色々なことに取り組んでおりますが、何と言っても医師・看護師の絶対数が足りません。人材の育成、そして各地に定着していただくよう動いており、その一例として大分大学医学部に地域枠を作り、奨学金を出しています。また、無医地区の問題もあり、へき地医療の充実に頭を悩ませていますが、大分県内の隅々まで医療が行き渡るよう努力しております。今が非常に大事な時期だと考えておりますので、九州医師会連合会総会の成果に心からご期待申し上げます。

## 3．釘宮盤大分市長

日本の人口減少は大きな課題で、合計特殊出生率が 1.43と若干回復したと言えますが、このまま推移すれば 2100年には人口が半減すると言われてしています。これは支えられる世代が支える世代より多いことになり、医療・介護といった社会保障費が増額となるのは誰の目にも明らかです。人口減少による 2040年ショックが九州市長会の大変大きな課題で、1,800の自治体のうち、半分がなくなると言われています。最大の要因は働く場所がないことです。若者は仕事を求めて都会に出て行きますが、都会は子どもを産み育てる環境が整っていないので子どもを持つことを躊躇するのです。こういった状況をこれまで放置してきた国に最大の責任があると思っています。安倍政権は「地方創生」ということでようやく重い腰を上げましたが、衆議院解散選挙のためこの問題は先送りされそうです。地方自治体は保育園を増やしたり医療費の無料化などできることは全てやってきましたが、人口増加とはなりません。都道府県別の合計特殊出生率を見ると九州は上位 10位以内

に6県入っており、子どもを育てやすい状況にあると言えます。東京に一極集中している大企業の本社を地方に強制的に移すくらいのドラスティックな改革が必要で、それが日本再生に繋がるものと思います。また、今後、高齢化に伴い医療・介護の比重は大きくなります。介護や医療が必要とならないよう予防対策をどう取るかも自治体の課題です。

#### 宣言決議

宣言決議の前に、議長の選出が行われ、九医連会則第18条第2項の規定により九医連会長で大分県医師会長の近藤稔先生を議長とすることが決定した。

続いて、宣言・決議文(案)が朗読され、採決の結果、賛成多数で原案を承認することとなった。

最後に、蒔本長崎県医師会長から、次回の九州医師会連合会総会・医学会は、平成27年11月14日(土)、15日(日)に長崎県をメイン会場に開催をする旨挨拶があった。

#### 医学会

##### 特別講演 軍医たちの無念

作家・精神科医 帚木 蓬生

戦時中、大学に籍がありながら出陣したいわけの学徒出陣は、10万人いると言われていた。生存者最後の軍医は9歳ぐらいだろう。医学部生の学徒出陣は、昭和20年から始まった。4月に相模原の軍医学校に集まれという命令があり、全国から1,650人が集まった。軍医学校は大隊-中隊-区隊編成からなり、区隊長によって訓練・教育が違った。

陸軍軍医になる道として、陸軍衛生部依託学生の道がある。毎月手当をもらいながら、1年生の時から訓練を受け、卒業後は軍医学校へ、優秀生は陸軍学校でさらに訓練を受けた。

当時、軍医補充制度によって45歳以下の医

師は軍医の道を選ばざるを得なかった状況であった。戦死者は卒業生の2~3割にのぼるが、そうした戦没の先輩医師を弔う気運は、どの大学の医学部でも極めて稀である。唯一、東大医学部同窓会の有志が、先輩や同級生医師たちの戦地と死地を調査し、寄付を募り2000年に銅版のレリーフが完成した。戦没者の棺を後輩が運び東大を目指すというレリーフで、有志たちは医学部内の建立を希望したが、当時の東大医学部教授会の反対にあい、医学部構内ではなく、医学部に近い弥生門を出て道ひとつ隔てた民家の石塀に張り付けられた。

私たち後世の医師は、先輩医師たちのこうした無念の思いや歴史を決して忘れてはならない。

##### 特別講演 おひとりさまの最期

社会学者・東京大学名誉教授

NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク

理事長 上野 千鶴子

最期まで在宅で過ごしたいと希望する人が増えている。自宅に居続けたいというのは高齢者の悲願であるのに、介護の大変さなどから、高齢者本人の持ち家であっても、本人でなく家族が意思決定を行い、自宅から出されて施設へ入居させられてしまう。このように、「家族が居るばかりに在宅死出来ない」現状がある今の時代、家族の居ない「おひとりさま」でも、外付けの介護・医療サービス(24時間対応の巡回訪問介護、訪問医療、訪問看護等)さえあれば、在宅死は十分に可能であると考えられる。「在宅ひとり死」を支えるため、個人の経済力や能力に関わらず誰でも利用できるシステム作りを急ぐ必要がある。

自宅でひとりで亡くなったら一括りに「孤独死」と言われるが、大きなお世話である。在宅ひとり死は、自分が選択すれば他の誰の意思決定も要らない。キーワードは“ぐずぐず、

だましまし「家に居続ける」。高齢で介護が必要になっても、外付けの介護・医療サービスを利用しながら、何となく今日も明日も自

宅に居て、ある朝ひとりで亡くなっていた、でいいのではないかと感じる。

## 宣 言

我が国は国民皆保険制度によって、いつでも、どこでも、だれでも質の高い医療が受けられ、健康長寿社会が支えられている。

少子高齢社会を迎え、政府は成長戦略に医療を掲げ、大胆な規制改革による医療費抑制策を検討、提言している。

しかし、医療費支出目標上限設定は、管理医療の強化につながり、適切な地域医療の提供を阻害する恐れがある。

TPP や非営利ホールディングカンパニー型法人制度(仮称)は、株式会社の医療経営参入を招き、医療の非営利性を損なう危険性が大きい。

医療介護総合確保法により、全ての病院・有床診療所は病床機能を報告し、得られた情報にもとづいて地域医療構想策定が義務づけられた。人口減少の現在、データ優位の机上再編は医師の偏在、看護師不足に拍車をかけ地域医療の衰退を生じ兼ねない。

控除対象外消費税の抜本的解決がない限り、医療機関の健全経営と存続が脅かされ続ける。

以上のように、我が国の医療を取り巻く環境は極めて厳しく、全ての国民が安心して質の高い医療を平等に受ける機会が失われる危機的状況にある。

我々九州医師会連合会は、医師としての高い倫理観と使命感を礎に、国民皆保険制度の形骸化と地域医療の衰退を阻止し、国民の生命と健康を守るために一致団結して邁進することをここに宣言する。

平成 26年 11月 2日

第 114回九州医師会連合会総会

## 決 議

我々九州医師会連合会は、政府に対し、次の事項を強く要求する。

- 一、国民皆保険制度の堅持
  - 一、混合診療の全面解禁反対
  - 一、TPP 条約批准反対
  - 一、医療の営利産業化阻止
  - 一、控除対象外消費税問題の抜本的解決
  - 一、地域医療提供体制の整備充実
  - 一、勤務医、女性医師の勤務環境改善・就業支援強化による医師不足・偏在の解消
  - 一、看護師・准看護師の積極的養成
  - 一、介護療養型医療施設の存続と地域医療に必要な病床の確保
- 以上、決議する。

平成 26年 11月 2日

第 114回九州医師会連合会総会

## 日医インターネットニュースから

### ■ 国家戦略特区の医学部新設に警戒感 — 横倉会長 —

横倉義武会長は新年に当たってメディアファクスの取材に応じた。今後懸念される課題のうち、国家戦略特区による医学部新設問題について「今後の医師の養成数を、国としてどう考えるかについて先行して議論しないといけない」として政府内で“新設ありき”で議論が進められることに警戒感を示した。

昨年未の衆院選で与党が大勝したことを受け、医療界では医学部新設の議論が加速することを懸念する声が出ている。そのような中、横倉会長は昨年 12 月 25 日、首相官邸で安倍晋三首相と会談し、医学部新設に関する問題点を直接説明しながら、日医がこの問題に反対であるとの立場に理解を求めた。

横倉会長は日医が医師国家試験合格者数と、25 歳人口から独自に算出した「同年齢のうち医師になる割合」について言及。1976 年で 437 人に 1 人だった医師の割合が 2014 年には 162 人に 1 人となり、現在の定員が継続すれば 30 年には 132 人に 1 人にまで割合が高まる点について触れ、「この割合が社会全体の構成として良いのかどうかを議論しないといけない」と指摘。「それでも必要だと言うなら養成しないといけないだろうが、まずはそういう議論を先行すべき」として、手順を踏んだ検討を求め、“結論ありき”の議論を行わないよう牽制した。

また、国会議員の中で医学部新設の問題点が十分に認識されていない点にも懸念を見せ、医学部新設に消極的な省庁などとの連携も視野に、懸念材料についての情報発信を強める考えも示した。

#### ● 改定幅は物価、人件費に見合ったものを

今年から議論が本格化する次期診療報酬改定については「従来、診療報酬は物価および人件費の上昇分をしっかりと手当てすることとして改定幅が決められるもの。アベノミクスの成功、地方創生のためにも医療機関の地方経済への果たす役割は大きい。物価上昇、人件費に見合ったものは不可欠になる」と指摘。初・再診の議論については「医療機関の経営基盤は初診、再診、入院基本料も含めて基本診療料でしっかりと手当てすべきだというのが基本的な考えだ。地方で医療を確保しなければ地方に人が住めなくなる。基本診療料を重視するというのが当然の姿勢」と

述べた。

昨年末にまとまった 15 年度税制改正大綱にも言及。控除対象外消費税問題への対応については、医療界の見解として昨年秋に発表した文言の中身がある程度反映され、問題解決に向けて 14 年度大綱より踏み込んだとして一定の評価を見せた。（平成 27 年 1 月 9 日）

### ■ 財源確保・消費税問題の解決求め決議 — 日医など 40 団体が総決起大会 —

医療関係 40 団体でつくる国民医療推進協議会（会長＝横倉義武・日本医師会長）は 1 月 15 日、東京都千代田区の憲政記念館で「国民医療を守るための総決起大会」を開き、国民に十分な医療・介護を提供するための適切な財源の確保や、医療をめぐる消費税問題の抜本的解決を求める決議を採択した。横倉会長は「政治家が財政を立て直すという大きな役割を担っているのと同様、医療従事者は国民の生命と健康を守る使命がある」と述べ、政府・与党に決議内容の実現を強く求めた。

横倉会長は挨拶で、規制改革や成長戦略の一環として公的医療保険給付範囲を狭める圧力が今後も続くとの見方を示した上で「医療には国民の安全を守り、健康を維持するための規制が設けられている。そこを経済最優先の名の下に改革しようとするなら、毅然として反対の声を上げていく必要がある」と主張。「国民皆保険を堅持し、国民が医療を過不足なく受けられる社会を、持続可能なものにすることが重要。社会保障・税一体改革を着実に進め、先延ばしされた消費税が引き上げられるまでの間も必要な財源を確保し、社会保障の充実に充てることを政府に要望し続ける」と強調した。

#### ● 消費増税財源「すべて還元を」

会場では中川俊男、今村聡両副会長が大会の趣旨を説明。中川副会長は国民医療を守るには社会保障財源の確保 国民の安全と安心のために必要な規制を守ること 適正な医療人材の確保—が不可欠だと解説。このうち社会保障財源の確保では、2015 年度の消費税増収分のうち 2 割を充てる「社会保障の充実」の中に、14 年度診療報酬改定による国庫負担分が含まれている点を指摘。「15 年度予算でいえば、その前の診療報酬改定で増えた国庫負担は（充実分以外の）社会保障を維持する分の財源を充てるべきではないか。社会保障充実の財源から持っていくと、

16年度は消費税率もそのままなので、診療報酬プラス改定財源は無いということにならないか」と訴えた。「消費税率引き上げは社会保障給付費の公費負担財源が大幅に不足しているとの共通認識があった。引き上げを決めた時、政府はそのすべてを国民に還元すると明言した。国民との約束を守るよう強く要望したい」とも述べた。

今村副会長は控除対象外消費税問題について言及。消費税率の 10% への引き上げが先送りされたことには「解決策を講じるための環境整備をする時間ができた、と捉えることもできる」と述べ、10%に引き上げられる時に抜本的解決が図られるように検討を重ねる必要があるとの認識を披露。「国民が安心して良質な医療を受けられるには医療機関などの健全な経営は大前提。消費税が 10%になる 17 年 4 月、医療の消費税問題に決着を付けようではないか」と結束を呼び掛けた。

大会は約 750 人が出席。副会長の久保満男・日本歯科医師会長と山本信夫・日本薬剤師会長、坂本すが・日本看護協会会長が決意表明した。日本臨床衛生検査技師会の宮島喜文会長が決議文を読み上げ、日医の松原謙二副会長のコールに合わせ氣勢を上げた。（平成 27 年 1 月 20 日）

#### ■ 定額負担「まずは特定機能病院から」 — 紹介状なし受診で中川副会長 —

中川俊男副会長（医療保険担当）は、紹介状なしで大病院を受診した場合の定額負担を導入する方針が決まったことについて、まずは特定機能病院のみを対象とし、「その効果や影響を検証しながら対象となる病院の拡大を検討していくべき」と述べ、対象病院を段階的に広げていくのが望ましいとの考えを示した。メディアファクスの取材に応えた。

中医協診療側委員を務める中川副会長は、紹介状なしに大病院を受診した際の定額負担について、通常国会に提出予定の健保法等改正案な

ど「国会での審議状況を見ながら中医協で運用をきちんと議論すべき。現時点では対象病院を特定機能病院から始めるべきと提案したい。その効果を確認した上で、一定規模以上の例えば 500 床以上の病院、地域医療支援病院まで拡大できるかを議論すべき」との考えを示した。

#### ● 初診「1 万円程度」、再診「5,000 円程度」

さらに「勤務医の負担軽減につながるものが重要だ。選定療養である程度高い金額を設定しても、都市部では患者の減少という効果が得られるかは疑問。定額負担の負担額は 1 万円程度が妥当ではないか」とした。その上で「問題は再診患者であり、逆紹介しても当該病院を受診した場合の定額負担の仕組みをしっかりと議論していくべきだ」と指摘。再診患者の定額負担としては 5,000 円程度を目安に挙げた。

紹介状なしの大病院の受診時の定額負担については、選定療養で義務化する方針で、具体的な運用は療養担当規則などで定める方向になっている。

中川副会長は「選定療養で対応することは支持する。ただ、中医協での健保法改正などの制度改革の議論は、診療報酬改定論議とは切り分け、十分な時間を確保した上で議論させてもらいたい」と指摘した。

また、医師国保組合への国庫補助率の引き下げについては、「日医としても大変厳しい結果と受け止めている」との認識を示した。その上で「日医は市町村国保を都道府県単位で統合することや、保険者間の財政調整が重要であり、財政面での一体的な運用を提案してきた。医師国保についても、こうした提案を踏まえて今後の在り方を検討していただきたい」とした。医師国保の今後の在り方は、日医内の医師国保組合に関する検討委員会で引き続き議論を進める見通しだ。

（平成 27 年 1 月 27 日）

このコーナーの記事は「日医インターネットニュース」から抜粋して掲載していますので、詳細を知りたい方は日本医師会ホームページでご覧ください。毎週火・金に更新していますので全ての記事が閲覧できます。

日医インターネットニュースへのアクセス方法

日本医師会 (<http://www.med.or.jp/>) にアクセス

日本医師会ホームページ右上のメンバーズルームをクリック

メンバーズルームに入る方法

ユーザー ID 会員 ID 番号(日医からの送付物の宛名シール下部に印刷されている 10桁の数字)を 0 も含め、全て半角で入力

パスワード 先生の生年月日の 6 桁の数字を半角で入力  
例) 1967 年 5 月 1 日生まれの場合、610501

## 薬事情報センターだより ( 333 )

## 新薬紹介( その75 )

今回は1月に薬価収載された持続型G-CSF製剤ジースタ皮下注3.0ng(一般名 ペグフィルグラスチム(遺伝子組換え))と抗悪性腫瘍剤ボシュリフ錠100ng(一般名 ポスチニブ水和物)について紹介いたします。

ジースタ皮下注3.0ng(一般名 ペグフィルグラスチム(遺伝子組換え))

ジースタ(一般名 ペグフィルグラスチム(遺伝子組換え))はAmgen Inc(米国)が創製した持続型顆粒球コロニー形成刺激因子(G-CSF)製剤です。遺伝子組換え技術によって大腸菌で産生されたヒトG-CSFであるフィルグラスチムのN末端にポリエチレングリコールを共有結合させた蛋白質修飾体で、血中半減期が延長し、がん化学療法の1サイクルごとに1回の投与で効果を発揮しますので、患者さんの負担軽減が期待されます。顆粒球・マクロファージ系造血前駆細胞の細胞表面に発現しているG-CSF受容体に特異的に結合して好中球前駆細胞から好中球への分化を促し、末梢血中の好中球数を増加させると推察されます。

本剤は、2007年1月に米国で初めて「好中球減少症の期間短縮または発熱性好中球減少症に代表される感染症の発現頻度の減少」の適応が承認され、現在は世界107の国と地域において承認されています(2014年3月31日時点)。本邦では、「がん化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制」を効能・効果として、2014年9月に承認され、11月に協和発酵キリン株式会社から発売されました。

国内臨床試験の安全性評価対象例632例中、副作用(臨床検査値異常を含む)の発現例は474例(75.0%)でした。主な副作用は、LDH上昇162例(25.6%)、背部痛121例(19.1%)、発熱91例(14.4%)、関節痛90例(14.2%)等でした(承認時)。また、重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー(頻度不明)、間質性肺疾患(0.3%)、急性呼吸窮迫症候群(頻度不明)、芽球の増加(頻度不明)、脾腫(0.3%)・脾破裂(頻度不明)、毛細血管漏出症候群(頻度不明)、Sweet症候群(頻度不明)、皮膚血管炎(頻度不明)が起こることがあります。

ボシュリフ錠100ng(一般名 ポスチニブ水和物)

ボシュリフ錠(一般名 ポスチニブ水和物)は、慢性骨髄性白血病の発症及び進行に関与するBcr-Ablチロシンキナーゼ及びSrcファミリーキナーゼの選択的かつ強力な阻害剤です。Bcr-AblチロシンキナーゼのATP結合部位にATPと競合的に結合することにより、基質のチロシンリン酸化を阻害するとともに、Bcr-Ablチロシンキナーゼの直下に位置するSrcファミリーキナーゼ等の下流のシグナル伝達系の数か所のポイントにおいてもリン酸化を阻害し、BCR-ABL融合遺伝子陽性の腫瘍の異常増殖を抑制します。また、Abl及びSrcチロシンキナーゼに対する選択性が高く、血小板由来増殖因子受容体(PDGFR)及びKltチロシンキナーゼに対する阻害作用は低いことから、PDGFRあるいはKltチロシンキナーゼ阻害に起因すると考えられる有害事象を軽減できると考えられ、開発されました。

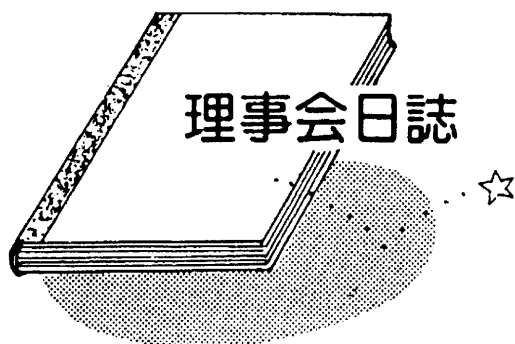
本剤は、2014年5月現在、米国、欧州連合諸国をはじめとする世界35か国で承認されています。本邦では、「前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病」を効能・効果として、2014年9月に承認され、12月にファイザー株式会社から発売されました。

国内第Ⅰ相試験において、安全性評価対象例63例中、63例(100%)に副作用(臨床検査値異常を含む)が認められました。主な副作用は、下痢59例(93.7%)、発疹30例(47.6%)、ALT(GPT)増加24例(38.1%)等でした(承認時)。また、重大な副作用として、肝炎(頻度不明)、肝機能障害(60.3%)、重度の下痢(12.7%)、骨髄抑制(57.1%)、体液貯留(9.5%)、ショック、アナフィラキシー(頻度不明)、心障害(6.3%)、感染症(36.5%)、出血(15.9%)、肺炎(3.2%)、間質性肺疾患(頻度不明)、腎不全(頻度不明)、肺高血圧症(頻度不明)、腫瘍崩壊症候群(頻度不明)が報告されています。

## 参考資料

ジースタ皮下注3.0ng、ボシュリフ錠100ng  
各添付文書・インタビューフォーム  
(宮崎県薬剤師会薬事情報センター

永井 克史)



平成 26年 12月 9 日(火)第 23回常任理事協議会

医師会関係

( 議決事項 )

- 1 . 日医社会保険診療報酬検討委員会への日医会長諮問に対するご意見等について  
平成 26年度診療報酬改定の評価について，専門分科医会，郡市医師会，理事の意見を募集し，広く意見を確認し提出することとなった。
- 2 . 1 /8 (木) JA 全中 新規集団指導( 医科 )の実施について  
7 医療機関を対象に行われる新規集団指導の後，県医師会主催で「指導・監査について」，「県医師会の活動について」等の説明会を開催することが承認された。
- 3 . 2 /25 (火) 県医 県医師会創立 126周年記念医学学会について  
毎年 2 月 25日に開催している記念医学学会について，例年通り，医神祭に引き続き医学賞受賞者の講演と特別講演を行うこと並びに人選等が行われた。
- 4 . 会費減免申請について  
20年以上在籍かつ満年齢 83歳に達するとして，高齢による会費減免( 日医 )4 件並びに 20年以上在籍かつ満年齢 80歳に達しているとして，高齢による会費減免( 県医 )1 件が承認された。

## 5 . 業務委託について

県訪問看護ステーション等整備調査事業について

→ 県内における訪問看護サービスに関するニーズ等の調査を行い，サービスの提供体制が不十分な地域等を把握することにより，整備等に活用することを目的とする委託契約で，契約を締結することが承認された。

## 6 . 平成 27年度特定健康診査等の集合契約に係る提案について

診療報酬改定に伴う料金の変更を行った委託料単価( 基本的な健診項目 8,300円 )で，例年通りの方法で契約を進めることが承認された。

## 7 . 宮崎県高齢者保健福祉計画の素案について

3 年毎に見直しされている計画で，県の作成した素案を，郡市医師会，介護保険委員会委員，理事に確認し，意見を提出することとなった。

( 報告事項 )

- 1 . 週間報告について
- 2 . 12/3 (水) ホテル中山荘 都城市北諸県郡医師会忘年会について
- 3 . 12/5 (金) 日医 日医地域医療対策委員会について
- 4 . 12/2 (火) 県医 母体保護法指定医師審査委員会について
- 5 . 12/6 (土) 日医 日医家族計画・母体保護法指導者講習会について
- 6 . 12/2 (火) 県医 県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会について
- 7 . 12/8 (月) 県庁 広域医療搬送訓練研究会について
- 8 . 12/7 (日) 佐賀 女性医師支援センター事業九州ブロック別会議について
- 9 . 12/9 (火) 県医 治験審査委員会について
- 10 . 12/8 (月) 県庁 県難病医療連絡協議会について

11. 日本プライマリ・ケア連合学会第 10 回九州支部総会・講習会について
12. 12/6 (土) 福岡)九州学校検診協議会専門委員会について
13. 12/6 (土) 福岡)九州各県学校保健担当理事者会について
14. 宮崎県内の医師会病院における医師確保に関する請願の審査結果について(県議会議長より)

#### 医師連盟関係

##### (議決事項)

1. 衆議員議員選挙九州比例区の推薦依頼対応について  
九州比例区への次世代の党の推薦について、執行委員による書面表決の結果、推薦を見送ることが承認された。

平成 26 年 12 月 16 日(火)第 9 回全理事協議会

#### 医師会関係

##### (議決事項)

1. 1/15 (木) JA 九州 九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者(医科)の新規個別指導の実施に係る立会について  
7 医療機関を対象に行われる新規個別指導で、上田理事を立会人として派遣することが承認された。
2. 2/12 (木) 日医)日医総研シンポジウム開催案内および参加者派遣のお願いについて  
「日本における医療ビッグデータの現状と未来」をテーマに開催されるシンポジウムで、荒木常任理事の参加と、日医から参加要請もきていることから、各都市医師会に案内することが承認された。
3. 3/15 (木) 日医)医療政策シンポジウム開催案内および参加者派遣依頼について  
「少子高齢時代を乗り切れるか～医療・介

護の挑戦～」をテーマに開催されるシンポジウムで、立元・金丸・佐々木(幸)常任理事の参加と、日医から参加要請もきていることから、各都市医師会に案内することが承認された。

#### 4. 本会外の役員等の推薦について

宮崎県小児慢性特定疾病審査会委員の推薦について

→ 来年 1 月の改正児童福祉法の施行に伴い、現在の県小児慢性特定疾患対策協議会を改変し、新たに審査会を設置することになり、三宅和昭先生、高村理事に就任いただくことが承認された。

宮崎県指定難病審査会委員の推薦について

→ 来年 1 月の難病医療法の施行に伴い、現在の県特定疾患治療研究専門委員会を改変し、新たに標記の審査会を設置することになり、神経内科及び脳神経外科領域の 2 名の専門委員について、現委員の赤嶺俊彦先生、河野寛一先生に就任いただくことが承認された。

#### 5. 後援・共催名義等使用許可について

3/18 (日) 県医)日本保育園保健協議会九州ブロック研修会の後援名義使用について  
→ 保育園、医師、看護師、保育関係者等の会員からなる非営利団体の九州ブロック研修会が本会で開催されるものであり、名義後援を行うことが承認された。

#### 6. 平成 27 年九州各県花粉情報の観測について

例年通り、花粉検索器を宮崎、都城、延岡の 3 か所に設置し、関係機関の協力のもと観測に協力することが承認された。なお、調査期間は 1/31～4/30、報道期間は 2/1～4/15 となっている。

#### 7. 平成 27 年度地域医療介護総合確保基金に係る事業提案について

県から事業提案募集実施要領に沿った事業

の提案依頼があり、都市医師会、専門分科医  
会、病院部会、有床診療所連絡協議会に対し  
て、1月末までに提案いただくよう依頼する  
ことが承認された。

8. 1/27(火) 県医)宮崎県地域医療・福祉推進  
協議会代表者会について

1/15(火) 東京)国民医療を守るための総決  
起大会を受けて代表者会を開催し、本国民運  
動の目的に沿った内容の決議等を提案するこ  
とが承認された。

9. 2/28(土) 日医)平成 26 年度学校保健講習会  
及び 2/29(日) 日医)母子保健講習会の開催に  
ついて

学校保健講習会へは高村常任理事が、母子  
保健講習会へは濱田副会長が出席することと、  
各都市医師会に案内することが承認された。

10. 宮崎県医師会医学賞選考委員会委員について

県医委員会規程の第 5 条により、医学賞選  
考委員会の委員長に中山健先生、副委員長に  
松岡均先生を全理事協議会で選出し、会長が  
委嘱することが承認された。

11. 1・2 月の行事予定について

1 月の追加行事と 2 月の行事について確認  
が行われた。

(報告事項)

1. 12/10(火) 支払基金)支払基金幹事会について
2. 12/11(水) ホテルメリージュ延岡)延岡市医師  
会忘年会について
3. 12/15(木) 江戸長)西都市西児湯医師会忘年会  
について
4. 12/10(火) 日医)都道府県医師会医事紛争担当  
理事連絡協議会について
5. 12/13(土) 県医)日医生涯教育協力講座セミナー  
(TV会議)について
6. 12/11(水) 県医)生活習慣病検診従事者研修会  
(TV会議)について

7. 12/11(水) 沖縄)・12(金) 東京)県外臨床研修病  
院視察について

8. 12/11(水) 宮崎市)社会保険医療担当者(医科)  
の個別指導について

9. 12/15(木) 県医)感染症危機管理・予防接種  
実務担当研修会について

10. 12/5(金) 県医)勤務医委員会について

11. 12/10(火) 日医)子宮頸がんワクチンシンポ  
ジウムについて

12. 12/8(月) 県医)医師会立看護学校担当理事連  
絡協議会について

13. 12/10(火) 宮大医学部)県ドクターヘリ運航調  
整委員会について

医師協同組合理事・運営委員合同協議会

(報告事項)

1. 医協理事・運営委員合同協議会について  
医師連盟関係

(議決事項)

1. 1/9(金) 宮観ホテル)公明党宮崎県本部新春  
の集いについて  
平日の午前中の開催であるので、欠席する  
こととなった。

(報告事項)

1. 11/24(火)日医連執行委員会での自見英子候補  
の挨拶文について

平成 27 年 1 月 6 日(火)第 24 回常任理事協議会

医師会関係

(議決事項)

1. 厚生功労に係る平成 27 年秋の叙勲及び褒章候  
補者の推薦について  
都市医師会に照会の結果、1 名の申請があ  
り、県医師会として推薦することが承認さ  
れた。

2. 1 /24(土) 大分) 九医連第 2 回各種協議会における提案事項に対する回答について

救急・災害は小牧常任理事，地域医療は池井常任理事，医療保険は濱田副会長，在宅医療は牛谷常任理事，介護保険は金丸常任理事が中心に取りまとめを行い，回答することが承認された。

3. 4 /4(土) 日医) ダライ・ラマ法王来日記念講演会の開催について

県医師会役員への案内であり，出席希望者は事務局に申し出ることが承認された。

4. 後援・共催名義等使用許可について

3 /7(土) 宮日会館) 宮崎県言語聴覚士会学術集会の名義後援について

→テーマを「脳神経外科医そしてリハドクターからみる嚥下障害」として開催される公開講演会であり，名義後援を行うことが承認された。

5 /15(金)・16(土) 延岡・高千穂) 第 29 回地域医療現地研究会の後援依頼について

→保健・医療・介護福祉の連携による地域包括ケアの向上を図るため，国保診療施設の関係者が一堂に会し，施設視察，研究協議を行う全国大会であり，名義後援を行うことが承認された。

6 /19(金)・20(土) 福岡) 第 12 回アジアメディカルショー後援のお願いについて

→医療・ホームケア・福祉に関する機器及び設備等の普及・促進を目的として 4 年に 1 回福岡で開催されるものであり，名義後援を行うことが承認された。

5. 1 /30(金) 神奈川) 全国メディカルコントロール協議会連絡会の開催について

担当理事の出席を検討することが承認された。

6. 宮日新聞社生活情報誌「きゅんと」への寄稿文のお願いについて

主に毎月 2 回，独身女性，既婚女性及びファミリー層を対象に発刊している情報誌で，健康教育の一環として専門分科医会等の協力を得ながら，「HEALTH(健康)欄」に引き続き協力することが承認された。

7. 平成 26 年度日医女性医師支援事業連絡協議会の開催について

担当理事 2 名の出席が承認された。

8. 地域医療介護総合確保基金に係る事業提案(介護関係)について

平成 27 年度から新たに追加される介護分野の事業について，県から事業提案募集実施要領に沿った事業の提案依頼があり，市町村との関係が重要なことから，郡市医師会に対して案内することが承認された。

9. 平成 26 年度日医臨床検査精度管理調査報告会の開催について

調査結果の分析・検討を行うことによって参加施設の質的向上を目的に開催される報告会で，関係機関に人選を依頼し，派遣することが承認された。

#### (報告事項)

1. 週間報告について

2. 12 月末日現在の会員数について

3. 12/1(木) ホテルシーズン日南) 南那珂医師会忘年会について

4. 1 /5(月) 宮観ホテル) 新年賀詞交歓会について

5. 12/18(木) 日医) 日医医療秘書試験委員会について

6. 12/24(木) 九州厚生局宮崎事務所) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

7. 12/20(土) 県医) 生活習慣病検診従事者研修会(TV 会議)について

8. 12/23(木) 日医 )日医A 学術シンポジウムについて
9. 12/17(木) 県庁 )県DV被害者保護支援ネットワーク会議について
10. 12/18(木) 県医 )広報委員会について
11. 12/25(木) 日医 )日医医療E委員会について
12. 1 /6 (火) 県医 )治験審査委員会について
13. 12/20(土) 日医 )がん登録推進法に関するシンポジウムについて
14. 12/20(土) サンホテル )指導医のための教育ワークショップについて

## 医師連盟関係

## ( 議決事項 )

1. 2 /20(金) 宮観ホテル )自由民主党宮崎市支部新春政経懇談会のご案内について  
野田聖子衆議員議員が演者となり開催される懇談会であり、協力することが承認された。

平成 27年 1 月 13日(火)第 25回常任理事協議会

## 医師会関係

## ( 議決事項 )

1. 1 /29(木) 都城 )九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者( 医科 )の個別指導の実施に係る立会について  
1 病院を対象に行われる個別指導で、佐々木( 幸 )常任理事を立会人として派遣することが承認された。
2. 2 /5 (木) 都城 )九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者( 医科 )の個別指導の実施に係る立会について  
1 病院を対象に行われる個別指導で、上田理事を立会人として派遣することが承認された。
3. 本会外の役員等の推薦について  
宮崎県母子保健運営協議会委員の推薦について

→引き続き、濱田副会長の推薦と県産婦人科医会、県小児科医会に推薦を依頼することが承認された。

## 4. 後援・共催名義等使用許可について

2 /17(火) シーガイア )第 1 回宮崎県民生委員児童委員大会に対する名義後援の使用許可について

→住民の立場にたって活動している内容等を共有するとともに意見交換を行い、活動の一層の充実をめざすことを目的に開催される大会であり、名義後援を行うことが承認された。

3 /28(土) K IT EN ビル )春の「すいみんの日」市民公開講座 2015宮崎に対する名義後援の使用許可について

→睡眠の重要性に関する正しい知識の普及啓発を図り、県民の心身の健康維持・増進に役立てることを目的に開催される公開講座であり、名義後援を行うことが承認された。

## 5. 2 /13(金) 東京 )医療関連サービス振興会第 24 回シンポジウムの案内について

「医療・介護総合確保体制への改革と医療関連サービス - 地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携とは - 」をテーマとして開催され、担当の池井常任理事が出席することが承認された。

## ( 報告事項 )

1. 週間報告について
2. 1 /7 (火) 日医 )日医生命倫理懇談会について
3. 1 /13(火) 宮観ホテル )九州地区健康教育研究大会実行委員会について
4. 1 /8 (木) JA かんづめ )新規保険医療機関への説明会について
5. 1 /10(土) 日医 )都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会( 仮称 )連絡協議会・学術大会について

- |                                                   |                                                      |
|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 6. 1 /9 (金) 第一宮銀ビル) 県後期高齢者医療広<br>域連合運営懇話会について     | 医師連盟関係<br>( 議決事項 )                                   |
| 7. 1 /10 (土) 県医) 日医生涯教育協力講座セミナー<br>( TV会議 )について   | 1. 1 /30 (金) 東京) 江藤拓衆議院議員政経セミナー<br>開催について            |
| 8. 1 /7 (水) 宮大医学部) 県がん診療連携協議会<br>について             | 「希望ある未来を拓く」と題して開催される<br>政経セミナーについて、協力することが承認<br>された。 |
| 9. 1 /7 (水) 宮観ホテル) 病院部会・医療法人部<br>会合同理事会並びに新年会について | ( 報告事項 )                                             |
| 10. 1 /11 (日) 県医) 緩和ケアチーム研修会に<br>ついて              | 1. 1 /10 (土) 宮観ホテル) 三師会合同新春懇談会<br>について               |
| 11. 1 /9 (金) 日医) 日医勤務医委員会について                     |                                                      |

## 宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ

宮崎県医師会では、県医師会館で開催される講演会・研修会に参加される医師(医師会員でなくても可)のお子様を対象に本会館1階に臨時的無料託児ルームを設置いたします。県医師会が契約した保育士が対応いたします。

ご利用の場合は、事前の予約が必要となりますので、ご希望の方は開催日の2週間前までに県医師会までご連絡ください。

お問合せ先

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

担当 野尻・竹崎

# 県 医 の 動 き

( 1 月 )

1	( 年始休業 )	19	医師国保組合定例事務監査( 秦理事長他 ) 県内科医会会誌編集委員会( 小牧常任理事他 )
2	( 年始休業 )		
3	( 年始休業 )		
5	新年賀詞交歓会( 会長 ) 仕事始め式( 会長 )		
6	治験審査委員会( 富田副会長他 ) 第 24 回常任理事協議会( 会長他 )	20	県感染症対策審議会( 吉田常任理事 ) 都道府県医師会長協議会( 日医 〳 会長 ) 日医連執行委員会( 日医 〳 河野委員長 ) 都道府県医師会長協議会・日医連執行委員会合同新年会( 日医 〳 会長 ) 医協理事会( 富田理事長他 ) 第 26 回常任理事協議会( 富田副会長他 ) 医師国保組合口コモ啓発推進委員会 ( 高村常任理事他 )
7	日医生命倫理懇談会( 日医 〳 会長 ) 県がん診療連携協議会( 池井常任理事 ) 病院部会・医療法人部会合同理事会並びに 新年会( 池井常任理事 )	21	日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・ 講習会実行委員会( 金丸常任理事他 )
8	社会保険医療担当者( 医科 )の新規集団指導 新規保険医療機関への説明会( 会長他 )	22	県内科医会学術委員会( 小牧常任理事 )
9	県後期高齢者医療広域連合運営懇話会 ( 小牧常任理事 ) 日医勤務医委員会( 日医 〳 金丸常任理事 )	23	日医公衆衛生委員会( 日医 〳 吉田常任理事 ) 医師国保組合理事会( 秦理事長他 ) 宮崎サブユニットセンター地域エコチル調査 運営協議会( 延岡保健所 〳 濱田副会長 ) 県外科医会理事会
10	都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会」 ( 仮称 )連絡協議会・学術大会( 日医 ) ( 立元常任理事 ) 日医生涯教育協力講座セミナー( TV 会議 ) ( 会長他 ) 三師会合同新春懇談会( 会長他 )	24	九医連各種協議会( 第一部 〳 大分 〳 富田副会長他 ) 九医連常任委員会( 大分 〳 会長 ) 九医連各種協議会( 第二部 〳 大分 〳 富田副会長他 ) 九医連各種協議会報告会( 大分 〳 会長他 )
11	緩和ケアチーム研修会( 牛谷常任理事 )	26	広報委員会( 荒木常任理事他 )
13	九州地区健康教育研究大会実行委員会( 会長 ) 医協打合せ会( 立元副理事長 ) 第 29 回常任理事協議会( 会長他 )	27	県地域医療・福祉推進協議会代表者会( 会長他 ) 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 ( 濱田副会長 ) 第 10 回全理事協議会( 会長他 ) 医協理事・運営委員合同協議会( 会長他 ) 各都市医師会長協議会( 会長他 )
15	社会保険医療担当者( 医科 )の新規個別指導 ( 上田理事 ) 県高齢者サービス総合調整推進会議 ( 金丸常任理事 ) 国民医療を守るための総決起大会( 東京 ) ( 立元常任理事他 ) 特定健康診査等従事者研修会( TV 会議 〳 会長他 ) 県産婦人科医会常任理事会( 濱田副会長他 ) 広報委員会( 富田副会長他 )	28	労災診療指導委員会( 川野理事 ) 労災部会役員・労災診療指導委員・自賠委員と の懇談会( 川野理事他 )
16	地方公務員災害補償基金県支部審査会 ( 吉田常任理事 ) 宮崎市郡医師会新年例会しのめ医学会特別 講演会( 会長 )	30	日医「 2020.30」推進懇話会( 日医 ) ( 荒木常任理事他 ) 全国メディカルコントロール協議会連絡会 ( 神奈川 〳 佐々木常任理事 ) 相続税対策セミナー( TV 会議 〳 富田理事長他 )
17	産業医研修会( TV 会議 〳 佐々木常任理事他 ) 医療メディエーター研修会視察( 愛媛 ) ( 富田理事長他 )	31	自賠責保険研修会( 会長他 ) 県産婦人科医会冬期総会( 濱田副会長他 ) 綾部隆夫先生叙勲受章祝賀会( 会長 )

## 追 悼 の こ と ば

宮崎市郡医師会

たか やま きよし  
高 山 淳 先生

(大正 13 年 1 月 16 日生 90 歳)

弔 辞

本日、ここに故高山淳先生の告別式が執り行われるにあたり、宮崎市郡医師会を代表して、謹んで哀悼の意を表し、お別れの言葉を申し上げます。

この度の先生のご訃報に接し、会員一同深い悲しみに包まれております。

今、こうして葬送の列に加わり、奥様をはじめ、ご親族の皆様方のご心中をお察し申し上げますとき、お悲しみは如何ばかりかと胸塞がる思いでございます。

先生は、大正 13 年 1 月 16 日、佐土原町においてお生まれになり、幼少にしてその才誉れ高く、長じて医学の道に志を立てられ、昭和 2 年 3 月、旧制九州高等医学専門学校、現在の久留米大学医学部を優秀な成績で卒業になり、同大学医学部や県立宮崎病院においてご研鑽をつまれ、昭和 38 年 1 月にお父様の故高山虎太郎先生が院長であられた佐土原病院にお勤めになりました。その後、平成 1 年 6 月、当時病氣療養中のお兄様故高山正巳先生より院長職を引き継がれ、医師として長年にわたりひたすら医療現場の第一線において、昼夜の別なくご診療に従事され、地域医療の充実と地域住民の健康福祉の向上発展にご尽力されてられました。先生の誠実で飾り気のない、そして温かいお人柄は、地域の

人々にも親しまれ、多くの患者さんから信望を集めて、地域に根ざした診療活動を展開され、我々医師会員にとりまして、正に範たるものでありました。

また、ご多忙な診療の傍ら学校保健活動にもご尽力され、佐土原小学校の校医として児童の健康管理と健康増進に積極的に取り組みられ、学校保健の向上に多大のご貢献をいただきました。

一方、診療を離れましては、カメラ、旅行、寒蘭がご趣味であったと伺っており、よくカメラ持参で旅行をされていたとお聞きしております。

ご家庭にありましては、一男一女に恵まれ、ご長男の孝治先生は、ご立派に先生のご意志を継がれておりますので、後顧の憂いなきものと存じます。

高山先生、惜別の情、尽くし得ませんが、ここに謹んで先生のご霊前に哀悼の意を捧げ、地域医療に対する永年のご功績に心から感謝と敬意を表し、ご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉といたします。

先生どうぞ安らかに眠り下さい。

平成 2 年 1 月 13 日

公益社団法人宮崎市郡医師会

会長 川 名 隆 司

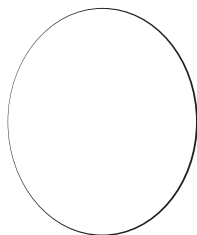
今日の治療指針，治療薬マニュアル

## ニューメンバー

新入会員と新規開業会員をご紹介しますコーナーです。

宮崎市  
あけぼの診療所

くに えだ よし ゆき  
國 枝 良 行



住 所 宮崎市清武町

専門科目 外科，精神科

家 族 母( 68)，猫( 1)

略 歴

平成 12 年 宮崎医科大学医学部卒業

同 年 宮崎医科大学第 1 外科入局

平成 26 年 10 月 あけぼの診療所

趣 味 読書

抱 負 宮崎医科大学卒業後，宮崎大学第 1 外科で外科医として勤務し，大学院時代には精神科病院で修行をしました。外科専門医・精神科専門医というユニークな経歴の持ち主です。

平成 26 年 10 月宮崎市田野町にあけぼの診療所を開設しました。一般診療ならびに在宅医療・緩和医療において地域医療に貢献していきたいと考えております。ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 医師国保組合だより

宮崎県医師国保組合員の皆様へ

### 第 19 回歩こう会について( 予告 )

保健事業の一環として，毎年恒例の「歩こう会」を実施します。  
詳細については，後日，組合員宛にお知らせしますので，その際にお申込みください。

日 時 平成 27 年 3 月 15 日(日)

時間は前後する可能性があります，県医師会館に集合して貸切バスで 9 時出発，16 時頃会館到着予定となります。

( 県北方面の方は現地集合可 )

場 所 道の駅北浦( 延岡市北浦町 )

日本医師・従業員国民年金基金のご案内

団体所得補償保険

## ドクターバンク情報

( 無料職業紹介所 )

平成 27 年 1 月 16 日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク( 求人・求職等の情報提供 )を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。

お申込み、お問合せは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらしを紹介しておりますのでご覧ください。

### 1. 求職者登録数 5 人

#### 1) 男性医師求職登録数 5 人 ( 人 )

希 望 診 療 科 目	求 職 数	常 勤	非 常 勤
内 科	4	2	2
外 科	1	1	0

#### 2) 女性医師求職登録数 0 人

### 2. 斡旋成立件数 49 人

	男性医師	女性医師	合 計
平 成 26 年 度	1	1	2
平成 16 年度から累計	35	14	49

### 3. 求人登録 85 件 326 人 ( 人 )

募 集 診 療 科 目	求 人 数	常 勤	非 常 勤
内 科	103	76	27
外 科	33	27	6
整 形 外 科	25	20	5
精 神 科	19	17	2
循 環 器 科	8	7	1
脳 神 経 外 科	12	9	3
消 化 器 内 科	12	10	2
麻 酔 科	11	8	3
眼 科	6	5	1
放 射 線 科	10	9	1
小 児 科	2	1	1
呼 吸 器 内 科	10	9	1
リハビリテーション科	4	4	—
総合診療科・内科	7	6	1
神 経 内 科	7	6	1
救 命 救 急 科	8	8	—
健 診	3	1	2
産 婦 人 科	1	1	—
泌 尿 器 科	1	—	1
検 診	4	2	2
皮 膚 科	3	2	1
人 工 透 析	4	4	—
在 宅 担 当 医	1	1	—
そ の 他	32	27	5
合 計	326	260	66

## 求 人 登 録 者 ( 公 開 )

求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施 設 名	所 在 地	募 集 診 療 科	求人数	勤 務 形 態
160011	赤十字血液センター	宮 崎 市	検診	3	常勤・非常勤
160013	医 三晴会 金丸脳神経外科病院	宮 崎 市	脳外 整 放 麻 内	10	常勤・非常勤
160017	医 プレストピア プレストピアなんば病院	宮 崎 市	乳外 内 麻	3	常勤
160020	財 弘潤会 野崎病院	宮 崎 市	精 内	2	常勤
160031	社医 同心会 古賀総合病院	宮 崎 市	呼 神内 眼 総診 呼外 , 臨病 乳外 整外 麻酔	11	常勤
160033	医 如月会 若草病院	宮 崎 市	精	2	常勤
170046	医 社団善仁会 市民の森病院	宮 崎 市	消内 内分泌糖内 呼 リウマチ , 神経内 健診	6	常勤・非常勤
170048	医 慶明会 けいめい記念病院	国 富 町	内 放 在宅医療	3	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮 崎 市	内 神内 整 消内	5	常勤
190087	宮崎市医師会病院	宮 崎 市	消内 呼内 総診	6	常勤
190094	医 耕和会 迫田病院	宮 崎 市	内 外 整	8	常勤・非常勤
190095	医 慶明会 宮崎中央眼科病院	宮 崎 市	眼	1	常勤
190096	医 晴緑会 宮崎医療センター病院	宮 崎 市	消化 麻 循 リハビリ	5	常勤・非常勤
200104	医 社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮 崎 市	内 外 救急 呼外 婦人	7	常勤
200105	医 誠友会 南部病院	宮 崎 市	内 外 放	3	常勤
210110	医 幸秀会 大江整形外科病院	宮 崎 市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮 崎 市	内 外 整	12	常勤・非常勤
230128	医 真愛会 高宮病院	宮 崎 市	内 精	2	常勤
230132	医 康友会 青島クリニック	宮 崎 市	内	1	常勤
230134	医 慈光会 宮崎若久病院	宮 崎 市	精	1	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国 富 町	内 外	2	常勤
230143	医 社団孝尋会 上田脳神経外科	宮 崎 市	脳外 内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮 崎 市	総内 呼吸内 消化器内 , 健診	8	常勤・非常勤
230146	財 潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮 崎 市	内 神内 外 整外 脳外 , リハ 麻酔 救急 緩和ケア	10	常勤
230148	医 コムコ美容外科	宮 崎 市	美外 形成外 外 麻酔	8	常勤・非常勤
230161	医 建心会 滝口内科医院	宮 崎 市	内	2	常勤・非常勤
230164	宮崎県保健所	宮 崎 市	公衆衛生	3	常勤
230165	野崎病院健診センター	宮 崎 市	健診	1	非常勤
160008	医 正立会 黒松病院	都 城 市	泌	1	非常勤
160010	特医 敬和会 戸嶋病院	都 城 市	内 消内 整 神内	7	常勤・非常勤
160018	医 宏仁会 メディカルシティ東部病院	都 城 市	内 救急 放射 脳外 外 , 眼 透内 皮膚	8	常勤
170057	医 清陵会 隅病院	都 城 市	内 外 整	3	常勤
180064	国立病院機構都城病院	都 城 市	消内 内 呼内 総合内	4	常勤
180081	医 恵心会 永田病院	都 城 市	精	1	常勤
190092	都城市医師会病院	都 城 市	内 呼	6	常勤
210114	藤元病院	都 城 市	精 内	3	常勤
230127	医 倫生会 三州病院	都 城 市	外 内 整	7	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都 城 市	不問	1	常勤
230137	医 宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤

登録番号	施 設 名	所 在 地	募 集 診 療 科	求人数	勤 務 形 態
230142	医 魁成会 宮永病院	都 城 市	内 ,リハビリ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都 城 市	内	1	非常勤
230157	医 )一誠会 都城新生病院	都 城 市	精 ,内	4	常勤・非常勤
230162	藤元総合病院	都 城 市	内 ,透 ,循内 ,救急 ,放射 , 病理 ,呼吸内 ,精	16	常勤
160012	医 )伸和会 共立病院	延 岡 市	外 ,整 ,放 ,内	6	常勤
160021	医 )建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医 )健寿会 黒木病院	延 岡 市	外 ,内 ,緩ケア	6	常勤・非常勤
160036	医 )久康会 平田東九州病院	延 岡 市	内 ,外 ,麻 ,精 ,神内 , 脳神経 ,老施 ,心内	5	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	内	1	常勤
200100	医 )育生会 井上病院	延 岡 市	産婦 ,内 ,小	3	常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内 ,消外 ,内	5	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内 ,小	2	非常勤
230151	介護老人保健施設エクセルライフ	延 岡 市	内	1	常勤
230156	医 )中心会 野村病院	延 岡 市	内 ,外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延 岡 市	内	1	非常勤
160039	医 )誠和会 和田病院	日 向 市	外 ,内 ,整 ,神内	6	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美 郷 町	内 ,整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美 郷 町	内	1	常勤
230160	日向市立東郷病院	東 郷 町	内	1	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内 ,放 ,外	3	常勤
160023	医 )宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	整 ,内 ,総合診療 ,麻 ,眼 , 健診 ,循 ,脳	10	常勤・非常勤
230170	介護老人保健施設なでしこ園	高 鍋 町	内	1	常勤
160024	医 )隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内 ,外	2	常勤
150002	医 )慶明会 おび中央病院	日 南 市	内	4	常勤・非常勤
150003	医 )同仁会 谷口病院	日 南 市	精	1	常勤
160022	医 )愛鍼会 山元病院	日 南 市	内	2	常勤
160037	医 )十善会 県南病院	串 間 市	精 ,内(いずれか)	1	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内 ,外 ,整 ,リハビリ ,在宅診療	5	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	内 ,外	2	常勤
230138	小玉共立外科	日 南 市	不問	2	常勤・非常勤
230149	介護老人保健施設おびの里	日 南 市	内	2	常勤・非常勤
230166	医 )秀英会 英医院	串 間 市	内	1	常勤
230168	医 )月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	7	常勤・非常勤
160019	医 )相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内 ,皮膚	4	常勤・非常勤
170043	医 )和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	救急 ,総合診療 ,放	5	常勤
180076	医 )友愛会 園田病院	小 林 市	外 ,循内 ,整 ,脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医 )浩然会 内村病院	小 林 市	精 ,内	3	常勤
190091	医 )友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整 ,内	4	常勤・非常勤
230155	医 )三和会 池田病院	小 林 市	脳外 ,内 ,放射 ,外 ,リハビリ	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設さわやかセンター	小 林 市	内	1	非常勤
230169	医 )連理会 せの内科クリニック	小 林 市	内	2	常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内 ,外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内 ,透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内 ,整	1	常勤

## 病医院施設の譲渡・賃貸

譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 27 年 1 月 16 日現在

1. 譲渡物件	宮崎市阿波岐ヶ原町前田 263 番，263 番 土地のみ：593.57 坪( 2022.17m ² ) ＜所有者 児湯医師会員 ( 医 ) 崧雲会 林クリニック＞
2. 譲渡又は 賃貸物件	宮崎市大字本郷南方 407 番 建物 鉄筋コンクリート 2 階建( 905m ² ) 駐車場 14 台分 別途職員専用駐車場有り ＜黒岩医院跡＞

### ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の午前 9 時～ 12 時及び 13 時～ 17 時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先

ドクターバンク無料職業紹介所

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地( 宮崎県医師協同組合 )

0985-23-9100( 代 )・FAX 0985-23-9179

E-mail: isiky@m-iyazakimed.or.jp

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 27年 1 月 2日現在

2		月	
1	日		
2	月		
3	火	14 00 県ナースセンター事業運営委員会 16 00 県立病院事業評価委員会 18 00 治験審査委員会 19 00 第 2 回常任理事協議会	14 土 13 00 認知症サポート医養成研修 14 30 日医生涯教育協力講座セミナー( TV 会議 ) 15 00 ( 日医 ) 日医医療情報システム協議会 15 00 九州地区医師国保組合連合会理事会 15 30 九州地区医師国保組合連合会全体協議会 15 40 県内医師会病院連絡協議会
4	水	13 30 新人看護職員研修推進協議会	15 日 9 00 認知症サポート医養成研修 9 30 ( 日医 ) 日医医療情報システム協議会
5	木	13 30 社会保険医療担当者( 医科 ) の個別指導 14 00 産業医研修会 18 00 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会	16 月 19 00 介護保険に関する主治医研修会( TV 会議 ) 19 30 広報委員会
6	金	14 30 ( 日医 ) 日医地域医療対策委員会	17 火 18 20 医協打合せ会 19 00 第 29 回常任理事協議会
7	土	15 00 母体保護法指定医師研修会 15 00 産業医研修会( 実地 ) 15 45 健康スポーツ医学セミナー	18 水 19 00 自殺対策うつ病研修会( TV 会議 )
8	日	13 00 日医医療秘書認定試験	19 木 18 30 社会保険医療担当( 医科 ) の更新時集団指導( TV 会議 ) 19 00 県内科医会理事会
9	月	16 30 県感染症発生動向調査委員会 18 00 HTLV -1 母子感染対策協議会 19 00 日本プライマリ・ケア学会九州支部総会・研修会実行委員会	20 金 11 30 県国保連合会理事会 13 00 県国保連合会通常総会 15 00 ( 日医 ) 日医医療秘書認定試験委員会 19 00 産業医研修会
10	火	11 00 地域医療現場における働きやすい環境を考える会検討会 14 00 県社会福祉審議会 18 00 新生児聴覚検査・療育体制連携強化事業協議会 19 00 第 28 回常任理事協議会	21 土 14 00 かかりつけ医認知症対応力向上研修( TV 会議 ) 18 00 日本プライマリ・ケア連合学会九州ブロックプレ講習会 22 日 9 00 日本プライマリ・ケア連合学会九州ブロック総会・講演会 10 00 ( 日医 ) 日医母子保健講習会 23 月 19 00 広報委員会
11	水	( 建国記念の日 )	24 火 14 00 宮崎産業保健総合支援センター運営協議会 18 15 医協理事会 19 00 第 11 回全理事協議会 終了後 医協理事・運営委員会合同協議会
12	木	13 00 ( 日医 ) 日医総研シンポジウム 15 00 ( 日医 ) 日医予防接種・感染症危機管理対策委員会 16 00 支払基金幹事会 19 30 県産婦人科医会常任理事会	25 水 15 00 労災診療指導委員会 19 00 創立 126 周年記念医学会
13	金	13 00 医療関連サービス振興会シンポジウム 13 30 宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科設立 5 周年記念シンポジウム 13 30 県歯科保健推進協議会成人期部会 14 00 県献血推進協議会 19 00 県外科医会冬期講演会	26 木 15 00 ( 日医 ) 日医医療 IT 委員会 19 00 医師国保組合理事会 27 金 14 00 ( 日医 ) 日医女性医師支援事業連絡協議会 18 00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 28 土 10 00 ( 日医 ) 日医学校保健講習会 15 00 勤務医部会理事会 16 00 勤務医部会後期講演会

都合により、変更になることがあります。  
行事予定はホームページからご覧になれます。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成 27 年 1 月 2 日現在

3				月			
1	日	10 00	レジナビフェア	15	日		医師国保組合歩こう会
2	月	19 00	県内科医会評議員会	16	月	19 00	県感染症危機管理研修会( TV 会議 )
3	火	18 00 19 00	治験審査委員会 第 30 回常任理事協議会	17	火	19 00	第 31 回常任理事協議会
4	水	15 00	全国国保組合協会九州支部総会 ( 日医 ) 都道府県医師会生涯教育担当 理事連絡協議会	18	水		
5	木	13 00	( 日医 ) 日医医療政策シンポジウム	19	木		
6	金	19 00	全国国保組合協会通常総会 医療安全対策セミナー( TV 会議 )	20	金	15 00	( 日医 ) 日医公衆衛生委員会
7	土	15 00	県産婦人科医会ひむかせミナー	21	土	( 春分の日 ) 15 30	病院部会・医療法人部会医療 従事者研修会
		11 30	各都市内科医会長会				
		13 30	県認知症高齢者グループホーム連絡 協議会理事会			15 00	
		13 30	県認知症高齢者グループホーム連絡 協議会総会・全体研修会			19 00	
8	日	9 00	県産婦人科医会ひむかせミナー	22	日	15 00	県民健康セミナー
9	月	19 00	医学会誌編集委員会	23	月	19 00	広報委員会
10	火	19 00	第 4 回理事会	24	火	19 00	第 32 回常任理事協議会
11	水	16 00	支払基金幹事会	25	水	15 00 15 30	労災診療指導委員会 県地域医療支援機構代表者 会議
12	木	19 00	糖尿病診療のための地区別小講習会	26	木		九州地方社会保険医療協議会宮崎 部会
		19 00	医師国保組合通常組合会			18 00	
		19 30	県産婦人科医会全理事会			15 00	
		19 30	広報委員会			15 50	
13	金			27	金	16 10	全医秘協運営委員会
14	土	13 40	臨床検査制度管理調査に基づく 勉強会	28	土	9 00	( 日医 ) 九州ブロック日医代議員連絡 会議
		14 30	産業医研修会( 実地 )			9 30	
		16 00	県内科医会総会・会員発表・学術 講演会				
		16 00	HTLV - 1 母子感染対策研修会				
				29	日		
				30	月		
				31	火	19 00	第 33 回常任理事協議会

都合により、変更になることがあります。  
行事予定はホームページからもご覧になれます。

## 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

### 宮崎県医師会広報委員会

E -Mail genko @ m iyazakim ed.or.jp

FAX 0 9 8 5 -2 7 -6 5 5 0

TEL 0 9 8 5 -2 2 -5 1 1 8

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注 FAX の際は、このページを切り取り、  
裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX 0 9 8 5 - 2 7 - 6 5 5 0

き  
り  
と  
り  
せ  
ん

お名前

ご所属

TEL

FAX

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日本医師会生涯教育講座認定学会

単位 日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん検診 各種がん検診登録・指定・更新による研修会。（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 ＝ 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
第 34 回宮崎感染症 研究会 2 月 3 日(火) 19 00～ 20 30 宮崎観光ホテル	肺炎診断の最新知見とガイドラインに基づく治療 戦略 産業医科大学呼吸器内科学教授 迎 寛 他一般演題 参加費 1,000円	共催 宮崎感染症研究会 第一三共(株) ☎ 0985-23-5710	1	45 47
宮崎県医師会産業 医研修会 2 月 5 日(木) 14 00～ 16 00 県医師会館	(4)メンタルヘルス対策 アサーション - はじめの一步は聞くことから - 都城新生病院 前原 正法 生涯研修の専門研修会 2 単位	共催 宮崎産業保健総合支援センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	2	3 6 8 13
西諸医師会・西諸 整形外科医会・西 諸内科医会合同学 術講演会 2 月 6 日(金) 18 45～ 20 00 ガーデンベルズ 小林	人工股関節再置換から見た人工股関節の歴史と治療 戦略 鹿児島大学医歯学総合研究科 医療関節材料開発講座特任准教授 石堂 康弘	共催 西諸医師会 ☎ 0984-23-2113 西諸整形外科医会 西諸内科医会 日本臓器製薬(株)	1	9 61

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
延岡医学会学術 講演会 2月6日(金) 19 00~ 20 00 延岡ロイヤル ホテル	臨床医のためのインフルエンザ学 九州保健福祉大学薬学部臨床生化学講座 教授 佐藤 圭創	共催 延岡医学会 第一三共(株) ☎ 0985-23-5710	1	11 28
産業医研修会 2月7日(土) 15 00~ 17 00 新都市郡医師会 病院等建築現場	(7)職場巡視と討論 職場巡視における作業環境の体験 都城市北諸県郡医師会・西諸医師会 産業医部会長 大岐 照彦 基礎研修・生涯研修の現地研修会 2単位	主催 都城市北諸県郡医師会 ☎ 0986-22-0711	2	2 9 11 38
平成27年度宮崎県 医師会健康スポー ツ医学セミナー 2月7日(土) 15 45~ 18 00 県医師会館	スポーツドクター連盟総会(15:45~16:00) 健康スポーツ医学セミナー(16:00~18:00) 心臓リハビリテーション - QOLを考えた心臓とのお・つ・き・あ・い - 宮崎江南病院内科医長 渡邊 玲子 ドクターとしての国体帯同経験とその問題点 藤元総合病院整形外科部長 園田 典生	主催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	2	1 2 10 11
第12回宮崎県皮膚 科懇話会・第10回 日本臨床皮膚科医 会宮崎県支部会 2月7日(土) 18 30~ 19 30 県立宮崎病院	けんみや皮膚科の日常診療 - より気軽にご紹介頂 けるように - 県立宮崎病院皮膚科医長 井上 知宏	主催 宮崎県皮膚科医会 共催 日本臨床皮膚科医会 宮崎県支部 (連絡先) たじり皮膚科医院 ☎ 0985-84-1110	1	1 2

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
延 岡 医 師 漢 方 研究会 2 月 10 日(火) 19 00~ 20 15 延岡市医師会病院	精神科領域の漢方治療について 久留米大学医学部先進漢方医学講座 教授 恵紙 英昭	共催 延岡医師漢方研究会 (株)ツムラ ☎ 0985-28-9663 後援 延岡市医師会 延岡市西臼杵郡薬剤師会	1	69 83
宮崎県内科医会学 術講演会 - CKD に おける脂質代謝異 常と動脈硬化 - 2 月 12 日(木) 19 00~ 20 30 宮崎観光ホテル	病診連携システムを用いたCKD診療のコツ - 腎臓専 門医への紹介の流れとその後の治療経過 - 県立宮崎病院臨床工学科部長 上園 繁弘 CKDにおける脂質異常の特徴と管理のコツ 福島県立医科大学腎臓高血圧・糖尿病 内分泌代謝内科学講座主任教授 渡辺 毅	共催 宮崎県内科医会 武田薬品工業(株) ☎ 0985-24-6763	1.5	2 75 82
延岡医学会学術 講演会(第 14 回宮 崎県北耳鼻咽喉科 臨床会) 2 月 13 日(金) 19 00~ 21 00 ホテルメリージュ 延岡	上気道感染症に対する抗菌薬療法の位置付け 県立延岡病院耳鼻咽喉科 後藤 隆史 宮崎県新生児聴覚スクリーニング事業の成果 宮崎大学医学部附属病院難聴支援センター 白根 美帆 アレルギー性鼻炎の診断と治療 産業医科大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 鈴木 秀明	共催 延岡医学会 宮崎県北耳鼻咽喉科臨床会 日耳鼻宮崎県地方部会 大正富山医薬品(株) ☎ 080-1005-9453	2	1 31 38 39
平成 26 年度宮崎 県外科医会冬期 講演会 2 月 13 日(金) 19 00~ 21 00 県医師会館	当科における噴門側胃切除 宮崎市郡医師会病院外科 和田 敬 他会員発表 1 題	主催 宮崎県外科医会	2	1 15 84

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
第45回宮崎救急 医学会 2月14日(土) 13 00~ 18 50 県立宮崎病院	日本赤十字社の災害救援 - 東日本大震災を中心に - 日本赤十字医療センター国際救援部長 榎島 敏治 他一般演題 参加費 500円	主催 県立宮崎病院 ☎ 0985-24-4181 後援 宮崎大学医学部附属病 院救命救急センター	5	5 10 13 16 17 18 19 32 50 57
日医生涯教育協力 講座セミナー 「COPD診療にいか に取り組むか - 新 ガイドラインに沿っ た診断と治療 - 」 2月14日(土) 14 30~ 17 40 県医師会館(TV会 議 都城・延岡・ 日向・児湯・西都・ 南那珂・西諸)	テーマ 実践COPD診療 - かかりつけ医におけるCOPDの診断と治療に ついて - COPDの病態と治療 最近の話題 鹿児島大学医学部医歯学総合研究科 呼吸器内科学教授 井上 博雅 他 パネルディスカッション	共催 日本医師会 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118 グラクソ・スミスクライン(株)	3	5 13 19 45 73 82
第30回宮崎県リウ マチ研究会・第23 回宮崎リウマチの ケア研究会 2月14日(土) 15 30~ 17 30 エアラインホテル	リウマチのトータルマネジメント チームで取り組むリハとケア 神戸大学保健学研究科 リハビリテーション科学領域 准教授 三浦 靖史 他一般演題 参加費 1,000円(医師)	共催 宮崎県リウマチ研究会 宮崎リウマチのケア研究会 参天製薬 エーザイ(株) ☎ 0985-27-4981	2	10 61

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
平成 26年度介護保 険に関する主治医 研修会 2 月 16日(月) 19 00~ 22 00 県医師会館(TV 会 議 都城・延岡・ 日向・児湯・西都・ 南那珂・西諸・西 臼杵)	介護保険改定，地域支援事業の取り組み状況等 事例検討 いしかわ内科理学療法士 田原 公彦 古賀総合病院地域連携室副室長 長内 さゆり 竹内病院連携室長 長友 あかね	共催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118 宮崎県	3	2 7 10 13 14 29
臨床医のための循 環器疾患研究会 2 月 1日(火) 19 00~ 20 30 宮崎観光ホテル	JSH 2014のひとつ先を行く降圧療法 - 上手なβ遮断薬の使い方入門編 - 久留米大学医学部心臓・血管内科部門 准教授 甲斐 久史	共催 宮崎県内科医会 臨床医のための循環器疾患研究会 トーアエイヨー(株) ☎ 080-5576-5209	1.5	1 9 15
都城市北諸県郡医 師会外科医会学術 講演会 2 月 18日(水) 18 45~ 20 15 都 城 ロ イ ヤ ル ホテル	ドラッグデリバリーシステムのトランスレーショナ ルリサーチへの展開 - 中性子捕捉療法の臨床研究への応用 - 明治薬科大学がん先端治療学教授 柳衛 宏宣	共催 都城市北諸県郡医師会外科医会 ☎ 0986-22-0711 アステラス製薬(株)	1.5	51 53 81
平成 26年度宮崎県 医師会自殺対策う つ病研修会 2 月 18日(水) 19 00~ 21 00 県医師会館	自殺対策としての睡眠障害，うつ病へのアプローチ 大分県こことからだの相談支援センター 所長 土山 幸之助 産業医研修会，生涯研修の専門研修会 (4)メンタルヘルス対策 2 単位	共催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118 宮崎県	2	12 13 69 70

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
第 1 回宮崎心エコ ー研究会 2 月 19 日(木) 18 50~ 20 20 宮崎観光ホテル	心臓弁膜症 「まわり」の重要性 産業医科大学第 2 内科学教授 尾辻 豊	共催 宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 第一三共(株)	1.5	2 9 15
都城市北諸県郡医 師会内科医会学術 講演会 2 月 19 日(木) 19 00~ 20 30 ホテル中山荘	機能性消化管障害 便秘症への対応 - アミティーザの臨床使用経験も踏まえて - 福岡市医師会成人病センター 院長 壁村 哲平	共催 都城市北諸県郡医師会内科医会 ☎ 0986-22-0711 アボットジャパン(株)	1.5	2 5 54
第 24 回 宮 崎 臨 床 免疫研究会 2 月 20 日(金) 18 50~ 20 30 ホテル JAL シティ 宮崎	SLE 難治性病態の診断と治療 京都大学医学研究科臨床免疫学 教授 三森 経世 参加費 1,000 円(学生無料)	共催 宮崎県内科医会 宮崎臨床免疫研究会 旭化成ファーマ(株) ☎ 0985-28-2736	1	26 28
第 12 回宮崎 GERD 研究会 2 月 20 日(金) 18 50~ 21 00 M R T m i c c	ピロリ菌感染症と上部消化管疾患の最前線 慶應義塾大学医学部内科学 准教授 鈴木 秀和 他一般演題	共催 宮崎県内科医会 宮崎 GERD 研究会 アストラゼネカ(株) ☎ 092-283-8150 第一三共(株)	2	1 2 50 52

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
第 95回宮崎市郡医 師会心臓病研究会 2 月 20日(金) 19 00~ 20 30 宮崎観光ホテル	日本におけるスタチン療法のエビデンス( 仮 ) 熊本大学生命科学研究部循環器内科 教授 小川 久雄	共催 宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 アストラゼネカ(株) 塩野義製薬(株)	1.5	2 9 15
宮崎県医師会産業 医研修会 2 月 20日(金) 19 00~ 21 00 県医師会館	(4)メンタルヘルス対策 事業所におけるメンタルヘルス事例( ) 西都病院 植田 勇人 生涯研修の専門研修会 2 単位	共催 宮崎産業保健総合支援センター 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	2	5 6 69 70
都 城 市 北 諸 県 郡 医師会学校医部会 講演会 2 月 20日(金) 19 00~ 20 30 都 城 ロ イ ヤ ル ホテル	こどもの低身長と肥満について 宮崎大学医学部小児科学分野講師 澤田 浩武	主催 都城市北諸県郡医師会学校医部会 ☎ 0986-22-0711	1.5	23 72 82
延岡医学会学術講 演会 2 月 20日(金) 19 00~ 20 30 ホテルメリージュ 延岡	上部消化管疾患の診断・治療における最近の進歩 自治医科大学消化器病内科学部門 准教授 大澤 博之	共催 延岡医学会 大塚製薬(株) 武田薬品工業(株) ☎ 0985-24-6763	1.5	11 51 52 胃

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
第33回宮崎呼吸器 乳腺懇話会 2月20日(金) 19 00~ 21 00 ガーデンテラス 宮崎	胸腔内視鏡下肺切除にて診断し得た肺硬化性血管腫 の一切除例 県立日南病院外科医長 米井 彰洋 当科での肺癌治療と脾転移例に対するアプローチ 宮崎大学医学部循環呼吸・総合外科学分野 川越 勝也 感染症を取り巻く最近の話題 昭和大学医学部臨床感染症学部門 教授 二木 芳人	共催 宮崎呼吸器乳腺懇話会 協和発酵キリン(株) ☎ 0985-22-8801	1.5	1 2 28
かかりつけ医認知 症対応力向上研修 2月21日(土) 14 00~ 18 10 県医師会館(TV会 議 延岡・日向・ 児湯・西都・南那 珂・西諸・西臼杵)	基本知識 大悟病院認知症疾患医療センター 三山 吉夫 診断 同センター 加藤 和男 他	主催 宮崎県 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	4	5 6 11 12 14 19 29 69
平成27年度在宅医 療推進のための連 携・スキルアップ 研修事業 2月21日(土) 14 00~ 17 00 木城町総合交流 センター	自分らしさの先にあるもの - 関わりがもたらす癒し - 栄光病院チャプレン(病院専属牧師) 清田 直人 在宅医療 初めの一步 木城クリニック院長 永田 昌彦	主催 児湯医師会 共催 木城町 高鍋町 新富町 川南町 後援 西都児湯歯科医師会他	3	3 10 12 14 80 81

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
日本プライマリ・ ケア連合学会 第 10回九州プロッ ク総会・講習会 ( 2 日間 ) 2 月 21日(土) 18 00~ 19 00 2 月 22日(日) 9 15~ 16 20 県医師会館	テーマ「地域医療の未来・展望 - 地域包括ケアの推 進 - 」 2 月 21日(土) プライマリ・ケアに必要な皮膚の見方 宮崎大学医学部附属病院皮膚科 古結 英樹 2 月 22日(日) シンポジウム 在宅医療と多職種連携～地域包括ケ アの実践～ 基調講演 医の現在と未来 日本医学会会長 高久 史磨 対談 見えてきた総合診療医専門医制度 日本医師会副会長 今村 聡 日本プライマリ・ケア連合会 理事長 丸山 泉 ワークショップ みんなでごちゃまぜ ^{PE} を体験し てみよう！～多職種連携教育を広げよう～ 揖斐郡北西部地域医療センター長 吉村 学 参加費 3,000円( 医師, 歯科医師, 薬剤師 ) 2,000円( コメディカル ) 無料( 学生・研修医 )	主催 日本プライマリ・ケ ア連合学会九州支部 ☎ 0985-22-5118	6	5 7 10 13 14 26 58 80 81 82
第 19回 宮崎市郡 医師会病院循環器 セミナー 2 月 23日(月) 19 00~ 20 10 宮崎市郡医師会 病院	心筋血流SPECTの実際 - 検査、読影から最近の話題まで - 東海大学医学部専門診療学系画像診断学 教授 橋本 順	共催 宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 日本メジフィジックス㈱	1	2 9

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
日向市東臼杵郡医 師会学術講演会 2月24日(火) 19 00~ 21 00 ホテルベルフォー ト日向	難治性高血圧攻略法 - GLから次の一手へ - 鹿児島大学医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学教授 大石 充	共催 日向市東臼杵郡医師会 ☎ 0982-52-0222 日向市東臼杵郡内科医会 日向市・東臼杵郡薬剤師会 アステラス製薬(株) 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	1	74 82
宮崎市郡内科医会 総会並びに学術講 演会 2月24日(火) 19 00~ 20 00 宮崎観光ホテル	花粉症の治療Up To Date 山梨大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授 増山 敬祐	共催 宮崎市郡内科医会 ☎ 0985-53-3434 サノフィ(株)	1	11 39
宮崎県医師会創立 126周年記念医学会 2月25日(水) 19 00~ 20 45 県医師会館	過疎地域に位置する当院の高齢者胆道内視鏡治療の 現状と問題点 串間市民病院内科 井上 龍二 宮崎大学医学部のミッション 宮崎大学医学部長 丸山 眞杉	主催 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	1.5	1 13 84
西臼杵郡医師会 学術講演会 2月26日(木) 19 00~ 20 00 ホテル高千穂	高齢化時代における心房細動の抗血栓療法の実際 秋田県成人病医療センター 副センター長 阿部 芳久	主催 西臼杵郡医師会 ☎ 0982-73-2010 共催 延岡市 西臼杵郡薬剤師会 後援 日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	1	8 78

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
第 91 回 江 南 医 療 連携の会・症例検 討会 2 月 26 日(木) 19 00~ 20 30 宮崎江南病院	不安定型肘関節脱臼骨折(Terrile Triad)の治療 経験 宮崎江南病院整形外科医長 坂田 勝美 当院における胃癌リスク検診陽性者の内視鏡検査 結果( 2013.8 ~ 2014.12) 同 放射線科医長 伊藤 泰教 外側上腕皮弁により上肢再建を行った 3 例 同 形成外科医員 石田 裕之	主催 江南医療連携の会 (連絡先) 宮崎江南病院 ☎ 0985-51-7575	1.5	53 56
第 5 回病診連携の 夕べ 2 月 26 日(木) 19 00~ 20 30 国立病院機構都城 病院	c 型肝炎の最新治療( 仮 ) 国立病院機構都城病院内科医長 加藤 順也 高度進行癌 - 特に胃癌による癌性腹膜炎やその他の 進行癌の集学的治療の成果 - 同 外科部長 後藤 又朗 宮崎県の周産期医療 同 産婦人科 徳永 修一	主催 国立病院機構都城病院 ☎ 0986-23-4111	1.5	9 13 73
第 9 回宮崎血管治 療懇話会 2 月 27 日(金) 18 45~ 21 00 宮崎観光ホテル	四肢血圧脈波検査による心血管疾患管理 東京医科大学循環器内科学 教授 山科 章 他一般演題	共催 宮崎血管治療懇話会 大正富山医薬品(株) ☎ 092-451-7884	2	10 62 63 73
第 2 回「宮崎脊椎外 科を語る会」 2 月 27 日(金) 19 15~ 20 30 県医師会館	腰痛疾患治療の現状と課題 長崎労災病院副院長 小西 宏昭	共催 宮崎脊椎外科を語る会 日本臓器製薬(株) ☎ 090-5480-0179 後援 宮崎県整形外科医会 宮崎県臨床整形外科医会	1	60 61

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
宮崎県北地区整形 外科医会研修会 2 月 27 日(金) 19 30~ 21 30 延岡市医師会病院	交通外傷 - 対応と請求の実際 - 交通外傷 - 直面している問題点の整理 - ふくだ整形外科院長 福田 健二	共催 宮崎県整形外科医会 宮崎県北地区整形外科医会 ☎ 0982-21-6211 延岡医学会	2	3 7
第 16 回宮崎県眼科 医会講習会 2 月 28 日(土) 16 00~ 18 30 宮崎観光ホテル	女性患者に対する眼科診療(メイクと眼障害, 遠近 両用 CL etc) 山本病院眼科医長 月山 純子 眼科手術のリスクマネジメント 久留米大学医学部眼科学講座 教授 山川 良治 参加費 3,000 円( 開業医, 勤務医 ) 2,000 円( 公的医療機関勤務医 )	主催 宮崎県眼科医会 ☎ 0985-28-1015 共催 (株)シード	2	36
平成 26 年度宮崎県 医師会勤務医部会 後期講演会 2 月 28 日(土) 16 00~ 18 00 宮崎観光ホテル	地域包括ケアシステムの時代に機能するジェネラ リスト 飯塚病院総合診療科部長 井村 洋 新しい専門医制度 - 総合診療専門医の新設 - 日本専門医機構理事長 池田 康夫	主催 宮崎県医師会勤務医部会 ☎ 0985-22-5118	2	1 2 14 84
第 55 回 宮 崎 イン ターベンション 研究会 3 月 2 日(月) 18 45~ 20 20 宮崎観光ホテル	循環器 physical examination の実際 みどり病院院長 室生 卓	共催 宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 田辺三菱製薬(株)	1.5	8 9 11

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
延岡医学会学術講演会 3月4日(水) 19 00~ 20 30 ホテルメリージュ 延岡	心原性脳塞栓症の治療と予防 - 新規経口抗凝固薬( NOAC )の活用 - 熊本市民病院首席診療部長 橋本 洋一郎	共催 延岡医学会 ファイザー(株) ☎ 092-281-7031 Bristol・マイヤーズ(株)	1	73 78
延岡医学会学術講演会( ABILIFY学術講演会 ) 3月6日(金) 19 00~ 20 40 ホテルメリージュ 延岡	アリピプラゾールの可能性と世界 吉田病院 清水 謙祐 統合失調症のリハビリを考える( 仮 ) 杏林大学医学部精神神経科学講座 教授 渡邊 衡一郎	共催 延岡医学会 大塚製薬(株) ☎ 0985-24-2287	1.5	20 29 70
平成 26年度日本保育園保健協議会九州ブロック研修会 in宮崎 3月8日(日) 9 30~ 15 15 県医師会館	これからの保育保健 日本保育園保健協議会長 遠藤 郁夫 保育園における事故予防対策について - 協議会による A システムの活用と突然死対策を中心に - 世田谷こどもクリニック名誉院長 帆足 英一 他	主催 日本保育園保健協議会 共催 ファイザー(株) 後援 宮崎県他 ( 連絡先 ) 宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	4.5	1 8 11 12 16 82
生活習慣病フォーラム 3月10日(火) 19 15~ 20 45 宮崎観光ホテル	Durabilityを考慮した糖尿病診療の重要性 - 注目すべき新たな指標‘ 受診間 ’変動 - ( 仮 ) 九州大学医学研究院 附属総合コホートセンター教授 二宮 利治	共催 宮崎県内科医会 宮崎市郡内科医会 武田薬品工業(株) ☎ 0985-24-6763	1.5	2 76 82

名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 ＝ 連 絡 先	単 位	CC ・ がん 検診
第 8 回脂質異常症 と動脈硬化の治療 を考える会 3 月 11 日(水) 19 15～ 20 45 宮崎観光ホテル	メタボリックシンドロームにおけるコレステロール 代謝制御の重要性他 慶應義塾大学医学部内科学講座 教授 渡辺 光博 他	共催 脂質異常症と動脈硬 化の治療を考える会 M SD (株) バイエル薬品(株) ☎ 0985-60-2532	1.5	23 73 75
延岡医学会学術講 演会 3 月 13 日(金) 19 00～ 20 30 マリエールオーク パイン延岡	当院における C 型肝炎治療成績(仮) 宮崎大学医学部消化器血液学分野 講師 蓮池 悟 C 型肝炎治療の現状と将来 国立病院機構九州医療センター肝臓センター 部長 中牟田 誠	共催 延岡医学会 M SD (株) ☎ 0985-28-9496	1.5	8 9 73
産業医研修会 3 月 14 日(土) 14 30～ 16 30 宮崎市郡医師会館	(6)作業環境管理・作業管理 労働衛生保護具について 下津労働衛生コンサルタント事務所 代表 下津 義博 基礎研修・生涯研修の現地研修会 2 単位	主催 宮崎市郡医師会 ☎ 0985-53-3434	2	9 10 11 46
宮崎県内科医会総 会並びに会員発表 会・特別講演会 3 月 14 日(土) 16 00～ 19 00 県医師会館	ガイドラインから考える降圧薬使いこなしの極意 大阪大学臨床遺伝子治療学 特任准教授 勝谷 友宏 他会員発表 6 題	共催 宮崎県内科医会 ☎ 0985-22-5118 塩野義製薬(株)	2	2 8 13 74

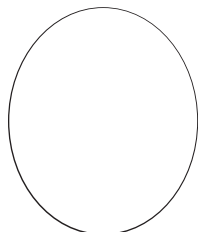
名称・日時・場所	演 題	主催・共催・後援 = 連絡先	単 位	CC ・ がん 検診
第 96 回宮崎市郡医 師会心臓病研究会 3 月 16 日(月) 18 50~ 20 20 宮崎観光ホテル	心不全治療における地域連携の取組み 北里大学病院循環器内科講師 猪俣 孝元	共催 宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 日本メドトロニック(株)	1.5	2 9 15
第 5 回宮崎県スポー ツ学会 3 月 28 日(土) 15 00~ 19 00 県医師会館	膝スポーツ外傷の治療とスポーツ復帰 弘前大学医学研究科整形外科学教室 教授 石橋 恭之 参加費 1,000円(医師) 500円(コメディカル)	共催 宮崎県スポーツ学会 久光製薬(株) 後援 宮崎県医師会 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986	1	57 61

## 日本医師会生涯教育カリキュラム ( 2009 )

カリキュラムコード(略称 CC)

1 専門職としての使命感	29 認知能の障害	57 外傷
2 継続的な学習と臨床能力の保持	30 頭痛	58 褥瘡
3 公平・公正な医療	31 めまい	59 背部痛
4 医療倫理	32 意識障害	60 腰痛
5 医師・患者関係とコミュニケーション	33 失神	61 関節痛
6 心理社会的アプローチ	34 言語障害	62 歩行障害
7 医療制度と法律	35 けいれん発作	63 四肢のしびれ
8 医療の質と安全	36 視力障害, 視野狭窄	64 肉眼的血尿
9 医療情報	37 目の充血	65 排尿障害(尿失禁・排尿困難)
10 チーム医療	38 聴覚障害	66 乏尿・尿閉
11 予防活動	39 鼻漏・鼻閉	67 多尿
12 保健活動	40 鼻出血	68 精神科領域の救急
13 地域医療	41 嘔声	69 不安
14 医療と福祉の連携	42 胸痛	70 気分の障害(うつ)
15 臨床問題解決のプロセス	43 動悸	71 流・早産および満期産
16 ショック	44 心肺停止	72 成長・発達の障害
17 急性中毒	45 呼吸困難	73 慢性疾患・複合疾患の管理
18 全身倦怠感	46 咳・痰	74 高血圧症
19 身体機能の低下	47 誤嚥	75 脂質異常症
20 不眠	48 誤飲	76 糖尿病
21 食欲不振	49 嚥下困難	77 骨粗鬆症
22 体重減少・るい瘦	50 吐血・下血	78 脳血管障害後遺症
23 体重増加・肥満	51 嘔気・嘔吐	79 気管支喘息
24 浮腫	52 胸やけ	80 在宅医療
25 リンパ節腫脹	53 腹痛	81 終末期のケア
26 発疹	54 便秘異常(下痢・便秘)	82 生活習慣
27 黄疸	55 肛門・会陰部痛	83 相補・代替医療(漢方医療を含む)
28 発熱	56 熱傷	84 その他

## 診療メモ

私の想いをつなぐノート  
(エンディングノート)について宮崎市健康管理部 い伊 とう東 よし芳 ろう郎

## 1 背景

いつの時期からか、「平穏死」「終活」「エンディングノート」といった書籍が増え、テレビや新聞紙上でも終末期医療に関する話題が多く取り上げられるようになってきました。また、平成 25 年 8 月にとりまとめられた国の社会保障制度改革国民会議報告書でも、「死生観・価値観の多様化も進む中、(略)個人の尊厳が重んぜられ、患者の意思がより尊重されるよう必要な見直しを行い、特に人生の最終段階を穏やかに過ごすことができる環境を整備すること」が求められている。(略)超高齢社会に見合った『地域全体で、治し、支える医療』の射程には、そのときが来たらより納得し満足できる最期を迎えることができるように支援すること - すなわち、死すべき運命にある人間の尊厳ある死を視野に入れた『QOL(クオリティ・オブ・デス)を高める医療』- も入ってこよう。」とあります。

## 2 市内の状況

さらに、医療や介護の現場から、救急で運ばれてきた患者に延命治療を行ったところ家族が望まない、認知症で本人の意思が確認できない、延命治療を巡り家族の間で意見が違ふ、といった状況もお伺いしました(もっとも今に始まったことではなく、20年以上も前に大学の講義で、「患者本人の望む医療を行っても、東京から看取りに帰ってきた子どもたちが『最善

の医療を行っていない』とクレームを言う」と教わったことを覚えています)。

一方で、市民の意識調査を行ったところ、延命治療を望まない方が約 8 割、望む方が約 1 割という結果もでました(厚生労働省の調査でも同様の傾向がみられます)。

こうした状況をみるに、質の良い最期を過ごしたいと思う方は増えているものの、患者自身が最期まで治療を決めることは稀で家族が代わって決めていることが一般的になっており、本人の意向が必ずしも家族に伝わっていない現実があります。そこで、市民一人ひとりが、自分らしい人生の最期を迎えるためには、元気なときから、家族と一緒に、人生の最期の時間を

どこで過ごしどのような医療・介護を受けたいかを考えていただくことが必要ではないかと考え、有識者にご検討をお願いしました。この在宅療養支援事業プロジェクトメンバーとして、宮崎大学の板井孝壱郎教授をはじめ、牛谷義秀先生、外山博一先生、黒岩ゆかり先生、塩屋敬一先生、雨田立憲先生、在宅医療・介護に積極的に取り組んでいらっしゃる薬剤師の萩田均司さん、看護師の長内さゆりさん、長友あかねさん、ホームホスピス宮崎の市原美穂さん、太田幸子さんにご参画いただきました。その結果、自らの意思を示し、家族・関係者とコミュニケーションを図るツールとして「私の想いをつなぐノート（略称：わたしノート）」及び「書き方の手引き」を作成することになった次第です。

### 3 考え方

行政で「エンディングノート」を作成することについて、逡巡するものもありました。ひとつは、既に「エンディングノート」は様々なものが市販化されているということ、もうひとつは、行政が終末期医療に積極的に取り組むのは延命治療をさせない方向に持っていこうとしているのではないかと、医療費抑制をねらっているのではないかと穿てられる懸念があるということでした。

前段の問題については、既存のものは「延命治療を望むか・望まないか」の2択が多いが、延命治療といわれるものにどのような医療行為があるのか説明しないで選択させるのはいかなるものか、ということもあり、こうした医療行為がイメージできるように「手引き」で

解説し、さらに事例紹介（延命治療を選択した場合と選択しなかった場合の両者）を掲載することにしました。

後段の問題については、啓発・周知方法で工夫することにしました。そもそも「終末期医療」という重い課題なので、窓口において自由に持ち帰ってよいとするのではなく、保健所・保健センター、医療機関、薬局、地域包括支援センター、介護施設等において、医療・介護関係者が説明しながら配布することにしてあります。また、説明時のポイントとして、「書く」か「書かない」かは本人の自由で書くこと自体を強要しない（「書きたくない」人に無理に渡さない）、書くことよりも、何度も話し合いの場を設けるという過程が大事で、書いたら家族や親戚と内容を共有することが大事、「延命治療をしないこと」だけでなく「治療をしたいこと」を伝えることも大事、考えは年齢とともに変わることもあるので、書き直しはいつでも可、としました。

さらに、関係機関とも連携すべく、消防局はもとより、救急告示病院にも機会をいただき事業説明をさせていただいたところです。

### 4 最後に

こうして平成 26 年 3 月から「わたしノート」の配布をはじめましたが、市全体に、本当の意味で普及するまで 10 年程度かかるものと考えており、だからこそ丁寧に啓発していく必要があります。医師会の先生方には、ご指導、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

県医師会から各都市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては、会員専用ページをご覧ください。所属都市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会にお問い合わせください。また、MMA 通信（県医師会から会員への情報提供メーリングリスト）でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。県医師会地域医療課（TEL 0985-22-5118）までご連絡ください。

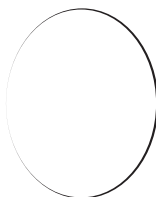
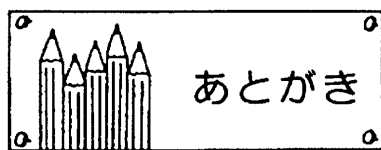
送付日	文 書 名
平成 26 年 12 月 4 日	・平成 26 年長野県北部地震による被災者に係る被保険者証等の提示等及び公費負担医療の取扱いについて
12 月 5 日	・肝炎医療費助成制度におけるパニヘップカプセルの取扱いについて     ・エボラ出血熱患者等の移送に係る消防機関の協力について     ・感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの感染予防対策の啓発について     ・医療分野の「雇用の質」の向上のための労務管理等に関する研修会（医療勤務環境改善支援セミナー）の開催について（依頼）     ・（記者発表）感染性胃腸炎の集団発生について     ・毎月勤労統計調査（第二種事業所）への調査協力依頼について（依頼）
12 月 8 日	・平成 26 年度 A i 研修会の開催について（ご案内）     ・「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正について     ・再生医療等安全性の確保等に関する法律に関する通知について     ・遺伝子治療臨床研究に関する指針の一部改正について
12 月 9 日	・3 種混合ワクチン（DPT）の販売中止について     ・抗インフルエンザウイルス薬の安定供給等について（通知）     ・感染性胃腸炎の流行に伴う予防対策の徹底について（依頼）     ・抗インフルエンザウイルス薬の使用上の注意に関する注意喚起の徹底について     ・「病原微生物検出情報」の送付について
12 月 11 日	・遺伝子治療臨床研究に関する指針の一部改正について（通知）     ・安全情報「警鐘事例」のご案内について（通知）     ・（記者発表）エイズの不安のある方は保健所へご相談ください
12 月 12 日	・看護師等業務従事者届の協力依頼について     ・宮崎県特定健診・特定保健指導に関する従事者研修会（実践編）の開催について（依頼）     ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律等について     ・インフルエンザ疾患関連死亡者数迅速把握事業について
12 月 15 日	・医療機器の貸与業の取扱いに関する質疑応答集（Q &amp; A）について     ・独立行政法人福祉医療機構の貸付利率の改定について     ・国民健康保険被保険者証の無効について     ・公知申請に係る事前評価が終了し、薬事法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険上の取扱いについて     ・使用薬剤の薬価（薬価基準）等の一部改正について     ・公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて     ・（記者発表）高病原性鳥インフルエンザが疑われる事例の発生について     ・（記者発表）高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について

送付日	文 書 名
12月 17日	・ 総務省消防庁の熱中症による救急搬送人員数に関するデータの提供について     ・ 指定難病に係る診断基準，重症度分類等及び臨床調査個人表の送付について
12月 18日	・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎の感染制御対策等の周知等について     ・ 労働災害防止対策の徹底について( 要請 )     ・ 高額療養費制度における自己負担限度額の見直しの周知用ポスターの送付について     ・ 12月 5 日からの大雪による被災者に係る被保険者証等の提示等及び公費負担医療の取扱いについて     ・ データ提出の実績が認められた保険医療機関のデータ提出加算の取扱いについて
12月 19日	・ 高病原性鳥インフルエンザ(H 5N1 型)が疑われる事例の発生について     ・ 高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う防疫作業従事者の発熱時の診療対応について( 依頼 )     ・ ( 記者発表 )インフルエンザの流行シーズンとなりました
12月 24日	・ 「難病の患者に対する医療等に関する法律」の施行に伴う生活保護受給者への対応について( 通知 )     ・ 障害者総合支援法の対象になる難病等の見直しに関する医療機関への周知について( 依頼 )     ・ 医療事故情報収集等事業「医療安全情報№ 97」の提供について( 通知 )     ・ 医薬品，医療機器等の品質，有効性及び安全性の確保等に関する法律の一部を改正する法律等について( 危険ドラッグによる保健衛生上の危害の発生の防止等 )     ・ 医療機器の保険適用について
12月 25日	・ 「肝炎治療特別促進事業の実務上の取扱いについて」の一部改正について     ・ ( 記者発表 )食中毒注意報の発令について( 通知 )     ・ ( 記者発表 )感染性胃腸炎が流行警報レベルを超えました     ・ ( 記者発表 )市内における感染性胃腸炎の定点あたり報告数の警報レベル超過について
12月 26日	・ 難病の医療費助成制度における患者負担の当面の取扱いについて及び指定医及び指定医療機関の指定に関する取扱いについて     ・ 薬局等で行う薬剤師の業務に関する日本薬剤師会との協議について( 検体測定室及び健康情報拠点推進事業に関する件 )     ・ 児童福祉法の一部を改正する法律等に係る告示及び関係通知等の送付について     ・ 児童福祉法第六条の二第一項の規定に基づき厚生労働大臣が定める小児慢性特定疾病及び同条第二項の規定に基づき当該小児慢性特定疾病ごとに厚生労働大臣が定める疾病の状態の程度等について
平成 27 年 1 月 5 日	・ 平成 26 年度看護職のワーク・ライフ・バランス(W LB )推進事業フォローアップワークショップの開催について( 案内 )     ・ 「労働安全衛生法第 28 条第 3 項の規定に基づき厚生労働大臣が定める化学物質による健康障害を防止するための指針の一部を改正する指針」の周知について( 協力依頼 )     ・ 難病の患者に対する医療等に関する法律に係る関係通知等の送付について     ・ 再生医療等の安全性の確保等に関する法律運用支援システム各種申請書作成支援サイト設置について( 情報提供 )     ・ 「出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について」の一部改正について     ・ 難病法の施行に伴う入院時生活療養費の生活療養標準負担額について

-----

あなたできますか？( 解答 )

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
e	d	e	d	b	e	e	b	c	e



2月といえば節分、節分といえば豆まき。私の実家でも、私が小さかった頃から豆まきをよく行っていました。鬼は一外！福は一内！当初は、父が鬼のお面をつけてくれていました。家の中で豆まきをすると後片付けが大変なので、豆まき開始後すぐに、父は庭に飛び出し、庭で飼っていた犬と一緒に軽快に豆をかわしていました（翌朝までには一粒も残さず犬が豆を食べ

てくれていました。これにより後片付けもスムーズに行えていました）。今思えば大量の豆をものすごいスピードで投げつけていたので、父も大変そうにしていたような気がします。

鬼役は世襲制であり、2代目は姉、3代目は兄、そして4代目が私というように引き継がれていきました。先代方の背を見て育ってきたため、私も軽快に豆をかわすつもりで庭に飛び出しました。しかし、なかなか避けられません。彼らの投げる豆のスピードの速さは鬼もひくレベルでした。今まで投げつけられてきた人達の、気持ちが乗った、いいスピードの豆でした。やられたらやり返される。いい社会勉強になりました。

今では私も兄も姉も皆、実家を離れているので、このように家族で厳しくも楽しい豆まきを行うことはなくなりました。もしかすると今後もないかもしれませんが。そう思うと少し寂しくもありますが、今でも良い思い出として、私の胸に大切にしております。（川上）

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

日南市の「酒谷地区むらおこし推進協議会」が「第5回地域再生大賞」で準大賞に輝きました。おめでとうございます。酒谷地区にある坂元棚田といえば皆さんもご存知のように、日本棚田100選にも選ばれている美しい棚田です。そこには田植え、石垣清掃、稲刈り、収穫祭に参加ができ、お米や野菜も送ってもらえる棚田オーナー制度というものがあり、数年前まで私も家族で参加していました。その縁もあり今回の受賞は本当にうれしく思います。また田植えをしなくなりました。（沖田）

＊ ＊ ＊

いよいよ妊娠6か月目に入りました。お腹の赤ちゃんと一緒に昼寝したり仕事をしたりと、幸せな時間を過ごしています。昨今の海外の過激派による女性や子どもへの暴力や虐殺事件、洗脳教育などの事件の数々。女性に生まれ教育を受け、仕事をしながら子どもを育てられるなんて、日本に生まれて本当に良かったと思います。そしてどうか、遠い国からではありますが、迫害に遭っている女性や子どもたちに援助の手が差し伸べられますように。（大野）

＊ ＊ ＊

先日、中3の息子とキャッチボールをしていて、遠投勝負で負けた。想定外のぼろ負けで、「こんなに肩が強くなっているの」とびっくりした。腕相撲は今でも勝ったり負けたりだが、50m走は数年前から1度も勝っていない。身長はもうすぐ追い越されそう。身体能力はこちら落ち目、あちら伸び盛り。まあ良しとしよう。次は勉強面で負かしていただくか。（西田）

＊ ＊ ＊

今年のインフルエンザの報告は例年の3倍以上らしく、我が家では5人いる子供達のうち4人が感染しました。家に帰るとリビングのソファや床に、マスクをした子供達が毛布をかぶって咳をしており、まるで病児保育所のような。全員にワクチンを2回したのに、駄目なときはこんなものなのでしょう。私自身は喉の軽い痛みが数日続いた後、発熱することなく治ったので、かかったかどうか分かりませんが、当分マスクは外せません。（岡本）

＊ ＊ ＊

最近、ゴルフ熱が再発しています。部活を引退して、朝練をしていた時間帯にやることがなくなった同級生たちの間で、ゴルフがブームになったためです。200球打ってから一時限目に現れる姿や、小林の雪の中でゴルフをする姿、そして大晦日にもラウンドの誘いをしてくる姿を見ると、自分も頑張らねば...と思います。身体を動かしながら、友人と交流を深められる素晴らしいスポーツだと、あらためて感じています。（枝元）

＊ ＊ ＊

今年から年金に従来の物価スライドに代わってマクロ経済スライドが導入されます。これによって物価上昇率が2%の時、年金の引き上げは1%程度に抑えられます。私は同じ手段で医療費も抑制されるのではないかと心配しています。それが10年、20年続けば医師はワーキングプアになります。今後はインフレ率と診療報酬改定率に注目する必要があります。（佐々木）

＊ ＊ ＊

## 今 月 の ト ピ ッ ク ス

## 新春随想

今年は 34 編の随想をお寄せいただきました。ご投稿ありがとうございました。先月号に続き、残りの 13 編を掲載いたします。会員皆様の様々なお考えに触れ、深く考えさせられたり、あるいは思わず笑わせていただいたり、はたまた仰天驚愕のご趣味にど肝を抜かれたりです。

それにしても「おこのみ・よねちゃん」の開店が待ち遠しくてなりません(笑)

6 ページ

## メディアの目 子どもの貧困を取材して

今月のメディアの目は、共同通信社の池谷孝司宮崎支局長から寄稿していただきました。「子どもの貧困」は、昨年宮日新聞でも取り上げられ反響を呼びましたが、お話は東京に勤務されていた頃のご自身の取材経験です。「虫歯は家計のパロメーター」とのお話や、医師や歯科医は貧困や虐待に気づいてあげられる可能性が大きいとのこと指摘は、心に留めておきたいものです。

22 ページ

## 診療メモ 私の想いをつなぐノート(エンディングノート)について

緩和ケアの考えが少しずつ浸透し、終末期医療の在り方も徐々に変化してきています。救急の場であわてることなく、「個人の尊厳が重んぜられ」「人生の最終段階を穏やかに過ごす」ためには、日頃からご本人の意思と家族の思いが確かめられていることが大切です。宮崎市が「自らの意思を示し、家族・関係者とコミュニケーションを図るツール」として「私の想いをつなぐノート」と「書き方の手引き」の配布を始めてもうすぐ一年になります。宮崎市健康管理部の伊東芳郎部長に紹介していただきました。

82 ページ

日 州 医 事 第 78 号 (平成 27 年 2 月号) (毎月 1 回 10 日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会

〒 880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目 10 番地 0985-22-5111(代)・FAX 27-6550

<http://www.iyazakimedor.jp/> E-mail office@iyazakimedor.jp

代表者 河 野 雅 行

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 上野 満・副 委 員 長 釜付 弘志、沖田 和久

委 員 篠原 立大、上園 繁弘、原尾 拓朗、上條 苑子

大野 妙子、西田 隆昭、岡本健太郎、川上 勲、枝元 真人

担当副会長 富田 雄二・担 当 理 事 荒木 早苗、佐々木 究

事 務 局 学術広報課 瀬戸山千春、久永 夏樹

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350 円 (但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)